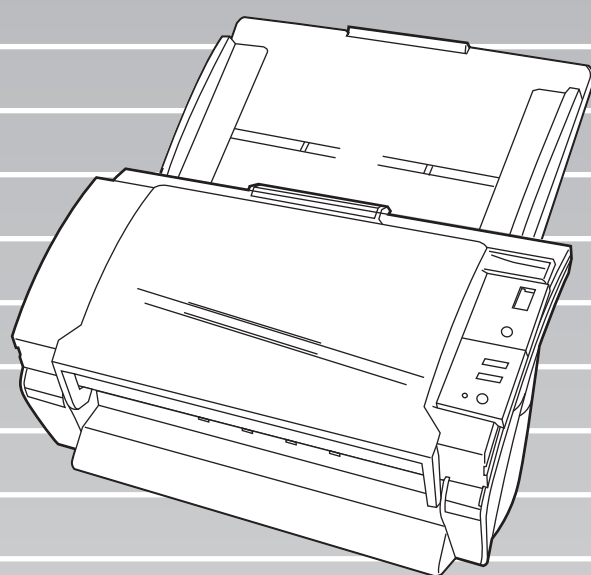


fi-5530C2 イメージスキャナ オペレーターガイド



目次

■ 本書をお読みになる前に	vii
第 1 章 原稿を読み取ります	1
1.1 電源を投入します	2
1.2 原稿をセットして読み取ります	7
1.3 原稿の読み取り方法	11
1.4 スキャナドライバの使い方	13
1.5 画像読み取り用アプリケーションの紹介	27
1.6 スキャナ集中管理機能の紹介	28
第 2 章 いろいろな読み取り方法について	31
2.1 両面を一度に読み取りたいとき	33
2.2 原稿幅の違う原稿を読み取りたいとき	34
2.3 薄い原稿を読み取りたいとき	35
2.4 A3 サイズよりも長い原稿を読み取りたいとき	36
2.5 指定の色（ドロップアウトカラー）の部分を 除いて読み取りたいとき	38
2.6 白紙ページをスキップして読み取りたいとき	40
2.7 明るめに画像を読み取りたいとき	42
2.8 マルチフィードを検出したいとき	44

2.9	原稿の傾きを自動で補正したいとき	49
2.10	マルチイメージ出力したいとき	51
2.11	カラー / モノクロを自動判別したいとき	53
2.12	原稿を 2 分割して読み取りたいとき	55
2.13	パンチ穴を除去して読み取りたいとき	57
2.14	スキャナ上のボタンから読み取りを開始したいとき	59
第 3 章	日常のお手入れ.....	61
3.1	清掃用品および清掃が必要な箇所	62
3.2	ADF を清掃します	64
第 4 章	消耗品を交換します	69
4.1	消耗品の番号と交換周期	70
4.2	パッドユニットを交換します	73
4.3	ピックローラを交換します	76
第 5 章	困ったときには.....	83
5.1	原稿づまりが発生したときは	84
5.2	ファンクションナンバーディスプレイのエラー表示	86
5.3	困ったときには	88
5.4	サービスセンターに連絡する前に	101
5.5	装置ラベルの確認	103

第 6 章	ADF にセットする原稿について	105
6.1	原稿のサイズ	106
6.2	原稿の紙質	107
6.3	セットできる原稿の枚数	110
6.4	穴をあけてはいけない領域	111
6.5	マルチフィードを正しく検出するための条件	112
第 7 章	スキャナの仕様.....	115
7.1	装置基本仕様	116
7.2	設置諸元	119
7.3	外形寸法	120
付録 A	[Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンを使う前に	AP-1
付録 B	e- 文書法に適合した電子文書の作成	AP-5
	修理・お問い合わせについて	RM-1
	索引	IN-1

はじめに

このたびは、fi-5530C2 両面カラーレスキャナ装置をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
fi-5530C2 は、両面でカラー原稿を読み取ることのできるレスキャナ装置です。
本書では、ScandAll PRO を使用した読み取り方法について説明しておりますが、本製品に添付されている ScandAll PRO は、今後予告なくバージョンを変更する可能性があります。その際に、本書の説明が実際の画面と異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。
ScandAll PRO については、別マニュアルの「ScandAll PRO ユーザーズガイド」を参照してください。

商標および登録商標について

Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、および SharePoint は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

ISIS は、EMC Corporation の米国における登録商標および商標です。

ABBYY™ FineReader™ Engine © ABBYY. OCR by ABBYY

ABBYY および FineReader は、いくつかの法域で登録されている場合がある ABBYY Software Ltd. の商標です。

ScanSnap、ScanSnap Manager、および PaperStream は、株式会社 PFU の日本における登録商標です。

その他の社名、製品名は、一般に各社の商標または登録商標です。

商標の表記について

本書では、次の用語について省略して記述しています。

Windows XP	Windows® XP Home Edition operating system 日本語版、 Windows® XP Professional operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)
Windows Server 2003	Windows Server® 2003, Standard Edition 日本語版 (32 / 64 ビット) Windows Server® 2003 R2, Standard Edition 日本語版 (32 / 64 ビット)
Windows Vista	Windows Vista® Home Basic operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows Vista® Home Premium operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows Vista® Business operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows Vista® Enterprise operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows Vista® Ultimate operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)
Windows Server 2008	Windows Server® 2008 Standard 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows Server® 2008 R2 Standard 日本語版
Windows 7	Windows® 7 Home Premium operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows® 7 Professional operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows® 7 Enterprise operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows® 7 Ultimate operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)

Windows Server 2012	Windows Server [®] 2012 Standard 日本語版 (64 ビット)、 Windows Server [®] 2012 R2 Standard 日本語版 (64 ビット)
Windows 8	Windows [®] 8 operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows [®] 8 Pro operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows [®] 8 Enterprise operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)
Windows 8.1	Windows [®] 8.1 operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows [®] 8.1 Pro operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)、 Windows [®] 8.1 Enterprise operating system 日本語版 (32 / 64 ビット)

上記すべてのオペレーティングシステムを区別しないで使用する場合は、Windows[®]と表記しています。

SharePoint Server	Microsoft [®] Office SharePoint [®] Portal Server 2003、 Microsoft [®] Office SharePoint [®] Server 2007、 Microsoft [®] SharePoint [®] Server 2010
-------------------	---

開発・販売元

株式会社 PFU
〒220-8567
神奈川県横浜市西区みなとみらい 4-4-5 (横浜アイマークプレイス)

© PFU LIMITED 2007-2014

■ 本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

添付の安全上のご注意には、本製品を安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本製品をお使いになる前に安全上のご注意を必ずお読みになり、理解されたうえで本製品をお使いください。

本書で使用している警告表示について

本書では、製品を安全に、かつ正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を未然に防止するために、次のような表示をしています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡、または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。



この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が損害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみが想定される内容を示しています。

本書で使用している記号について

本書では、警告表示とは別に、説明中に以下の記号を使用しています。



特に注意が必要な事項が書かれています。必ずお読みください。



操作に関するワンポイントアドバイスが書かれています。



本書に記載されている画面について

画面は、改善のため予告なく変更することがあります。

表示された画面が、本書に記載されている画面と異なる場合は、対象ソフトウェアの取扱説明書を参考にして、実際の画面に従って操作してください。

なお、本書に掲載している画面は、TWAIN ドライバ、ISIS ドライバ、および ScandAll PRO（画像読み取り用アプリケーション）のものです。

第1章

原稿を読み取ります

この章では、スキャナの基本的な操作について説明します。

この章では、Windows XP の画面を例に説明しています。
お使いの OS によって表示される画面、および操作が多少異なります。
また、TWAIN ドライバをアップデートすると、この章で記載している画面、および操作が多少異なることがあります。
その場合は、アップデート時に提供される取扱説明書を参照してください。

1.1 電源を投入します	2
1.2 原稿をセットして読み取ります	7
1.3 原稿の読み取り方法	11
1.4 スキャナドライバの使い方	13
1.5 画像読み取り用アプリケーションの紹介	27
1.6 スキャナ集中管理機能の紹介	28

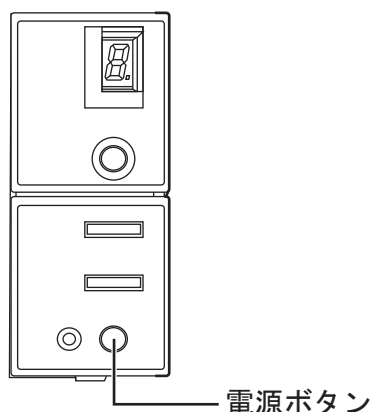
1.1 電源を投入します

1. 操作パネルの電源ボタンを押します。

電源が投入され、操作パネルの緑色のLEDランプが点灯します。

なお、イニシャル処理実行中は操作パネルのファンクションナンバーディスプレイが“8”→“P”→“0”→“1”の順に変化します。

操作パネルが“1”の状態が、レディ状態です。



ヒント

電源を切断するときは、電源ボタンを2秒間以上押してください。

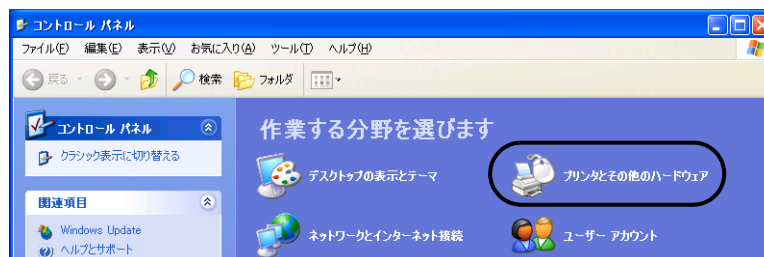
■ 電源の ON/OFF について

スキヤナの電源ボタンで電源を ON/OFF するか、電源ケーブルを抜き挿しして電源を ON/OFF するかを選択することができます。

手順は以下の通りです。

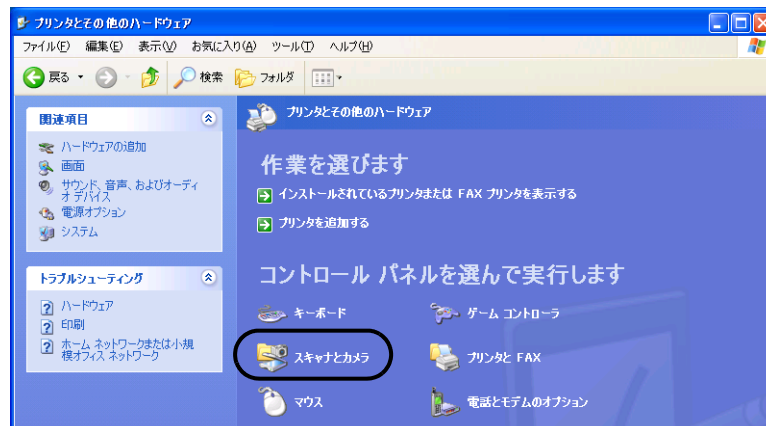
1. スキヤナのプロパティを開きます。

- 1) スキヤナの電源を投入し、スキヤナとパソコンが接続されていることを確認します。スキヤナとパソコンの接続については、「fi-5530C2 スタートアップガイド」の「2.2 スキヤナとパソコンを接続します」を参照してください。
- 2) パソコンのコントロールパネル内にある「プリンタとその他のハードウェア」のアイコンをダブルクリックします。



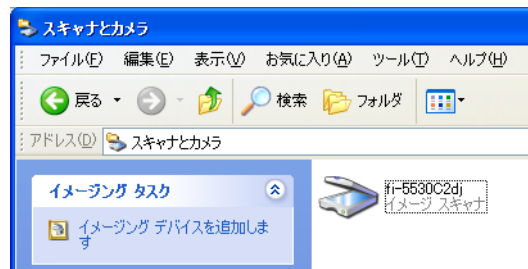
⇒ 「プリンタとその他のハードウェア」の画面が表示されます。

- 3) 「プリンタとその他のハードウェア」の画面で、「スキャナとカメラ」のアイコンをダブルクリックします。



⇒ 「スキャナとカメラ」の画面が表示されます。

- 4) 「fi-5530C2dj」のプロパティを表示します。

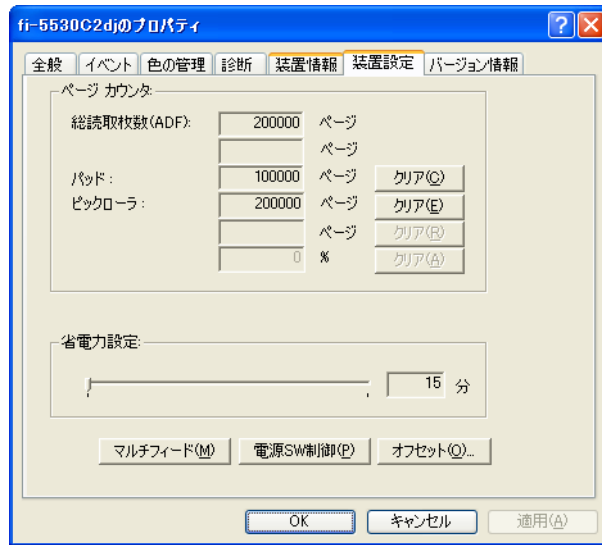


⇒ 「fi-5530C2dj のプロパティ」画面が表示されます。

- 5) 「装置設定」タブをクリックします。

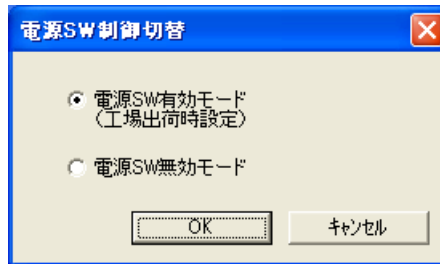


⇒ 以下の画面が表示されます。



2. 「電源 SW 制御」 ボタンをクリックします。

⇒ 以下の画面が表示されます。



3. 電源スイッチ (SW) 制御切替を設定します。

- スキャナの電源ボタンで電源を ON / OFF する場合：
⇒ 「電源 SW 有効モード」 を選択します。
- 電源ケーブルを抜き差しして電源を ON / OFF する場合：
⇒ 「電源 SW 無効モード」 を選択します。



まって!

「電源 SW 無効モード」 を選択した場合、Software Operation Panel の「装置設定」で、「一定時間後に電源を OFF にする」チェックボックスをチェックしても、スキャナの電源は切断されません。

■ 省電力モードについて

省電力モードとは、電源が投入されたスキヤナが操作されない場合に消費電力を低電力状態に保つことです。

スキヤナの電源を投入したままで 15 分以上何も操作しないと、自動的に省電力モードに切り替わります。

省電力モードに切り替わると、操作パネルのファンクションナンバーディスプレイの表示が消えます。操作パネルの緑色の LED ランプは点灯したままです。

省電力モードから復帰するためには、次のいずれかの操作を行います。

- ADF 給紙シュートに原稿をセットする
- 操作パネルのボタンを押す
電源ボタンを 2 秒以上押しつづけると、電源が切れます。
- スキヤナドライバからコマンドを実行する

また、スキヤナの電源を投入したままで一定時間何も操作しないと、自動的にスキヤナの電源が切断されるように設定できます。

自動的にスキヤナの電源が切断されるように設定すると、スキヤナが待機中の消費電力を低減できます。

自動的にスキヤナの電源が切断されるようにするには、Software Operation Panel の「装置設定」で、「一定時間後に電源を OFF にする」チェックボックスをチェックしてください。

自動的にスキヤナの電源が切断された場合に、再度スキヤナの電源を投入するには、スキヤナの電源ボタンを押します。

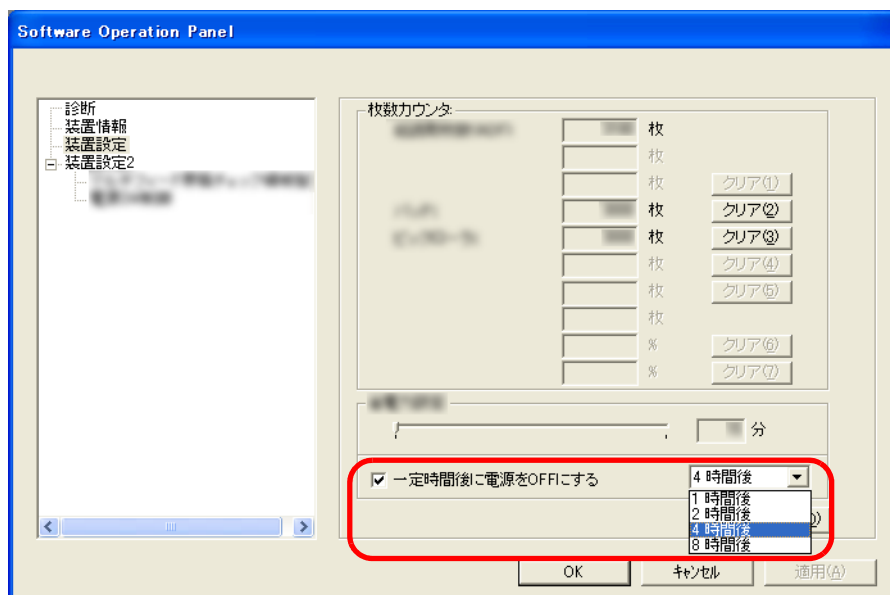
詳細については、「1.1 電源を投入します」(2 ページ) を参照してください。



- 使用するアプリケーションによっては、「一定時間後に電源を OFF にする」チェックボックスをチェックしても、スキヤナの電源が切断されない場合があります。
- 画像読み取り用アプリケーションを使用中にスキヤナの電源が自動的に切断された場合は、再度スキヤナの電源を投入する前に、一度アプリケーションを終了してください。

以下に、自動的にスキヤナの電源が切断されるようにする手順について説明します。

1. スキヤナとコンピュータが接続されていて、電源が ON になっていることを確認します。
2. [スタート] メニュー → [すべてのプログラム] → [Scanner Utility for Microsoft Windows] → [Software Operation Panel] をクリックします。
⇒ 「Software Operation Panel」画面が表示されます。
3. Software Operation Panel の以下の画面で設定します。



- 本機能を有効にするには、「一定時間後に電源を OFF にする」チェックボックスをチェックします。
- 設定時間は、1, 2, 4, 8 時間の 4 種類から選択できます。



ヒント

本機能は、装置図番 (Part No.) により、初期設定が以下のように異なります。

Part No.	初期設定
PAxxxx-Bxx1	有効 (4時間後に電源をOFFにする)
PAxxxx-Bxx2	無効
PAxxxx-Bxx3	
PAxxxx-Bxx5	
PAxxxx-Bxx7	

※Part No. については、スキヤナに貼り付けてある「装置ラベル」で確認してください。



1.2 原稿をセットして読み取ります



ADF が正しく動作するために必要な原稿のサイズと原稿の紙質の詳細については、「第6章 ADF にセットする原稿について」(105 ページ) を参照してください。

1. 原稿を確認します。

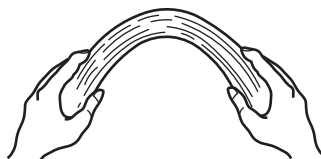
- 1) セットする原稿の幅がすべて同じであることを確認します。
- 2) 原稿の枚数を確認します。

セットする原稿枚数の目安は、次のとおりです。

- A4 サイズ以下の場合、原稿の厚みが 10mm 以下になる枚数
(80 g/m² 用紙で 100 枚)
- A4 を超えるサイズの場合、原稿の厚みが 5mm 以下になる枚数
(80 g/m² 用紙で 50 枚)

2. 次の手順で原稿をさばきます。

- 1) 両手で原稿の両端を軽くつかみ、原稿を湾曲させます。

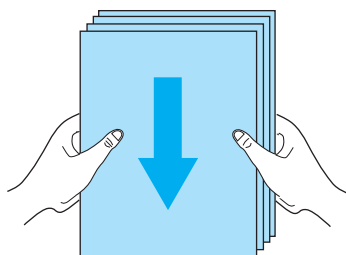


- 2) 原稿の両端にできた傾斜が元にもどらないように、両手で原稿を強くつかみ、湾曲を元に戻します。



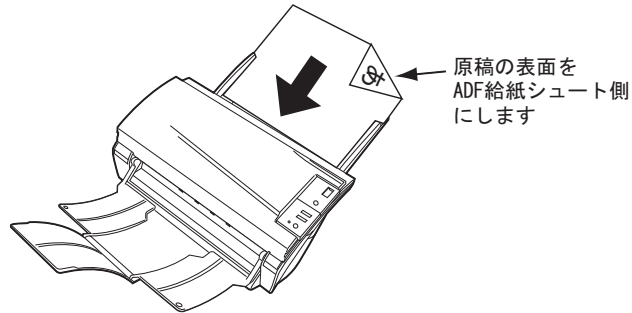
- 3) 操作 1) ~ 操作 2) の動作を 2 ~ 3 回繰り返します。
- 4) 原稿の向きを 90 度回転し、同じようにさばきます。

3. 原稿の先端をそろえます。



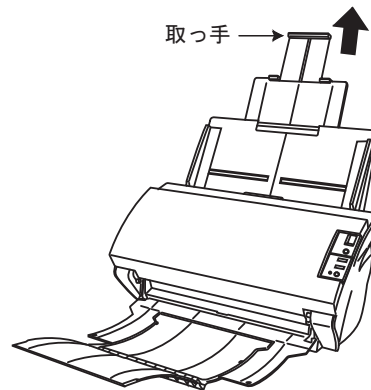
4. ADF 給紙シュートに原稿をセットします。

原稿の表面（読み取り面）が ADF 給紙シュート側になるように、原稿をセットします。



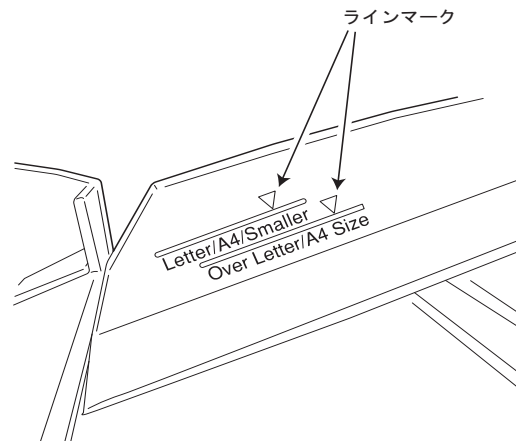
ヒント

原稿の長さに合わせて ADF 給紙シュートの取っ手を引き上げてから原稿をセットします。



ヒント

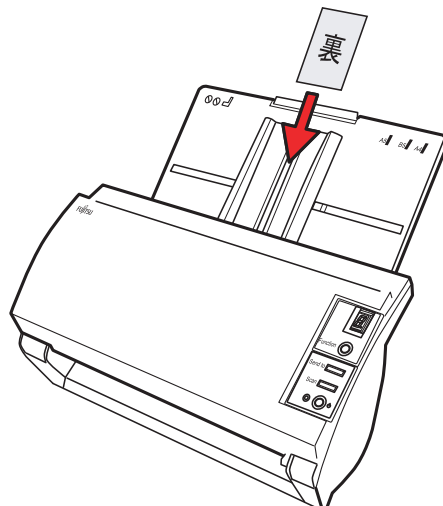
セットする原稿の枚数は、給紙シュートにセットしたときに厚さがサイドガイド内側のラインマークを超えないようにセットしてください。
A4 サイズ以下の場合、原稿が Letter/A4/Smaller のラインマークを超えないように原稿をセットしてください。
A4 サイズを超える場合は、原稿が Over Letter/A4 Size のラインマークを超えないように原稿をセットしてください。



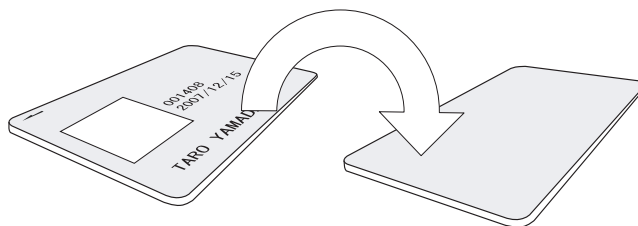


プラスチックカードを読み取る場合は、以下のことに注意してください。

- カードを ADF 給紙シュートに 1 枚ずつセットしてください。
- カードは、図のように縦向き（ポートレート方向）にセットしてください。



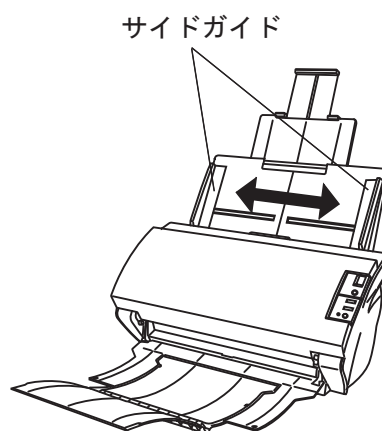
- カードの表面が ADF 給紙シュート側（下向き）になるようにセットすることを推奨します。



- 以下の仕様のカードを使用してください。
ISO7810 ID-1 タイプに準拠したカード
サイズ： 86(縦) × 54(横)mm
厚さ： 0.76 ± 0.08mm
素材： ポリ塩化ビニル (PVC) またはポリ塩化酢酸ビニル (PVCA)
- カードにエンボス加工（凹凸）が施されているカードは読み取ることができません。
- 硬くて曲がりにくいカードは、うまく搬送されない場合があります。
- カード表面が油（手の脂）などで汚れている場合は、汚れを拭き取ってから読み取ってください。
- インプリンタを接続した場合は、プラスチックカードを読み取ることができません。

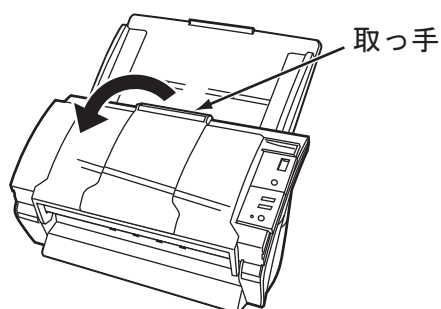
5. 原稿の幅に合わせて、サイドガイドを移動します。

サイドガイドを動かして、サイドガイドと原稿の間に隙間ができないようにします。サイドガイドと原稿の間に隙間があると、原稿が斜めに読み込まれることがあります。

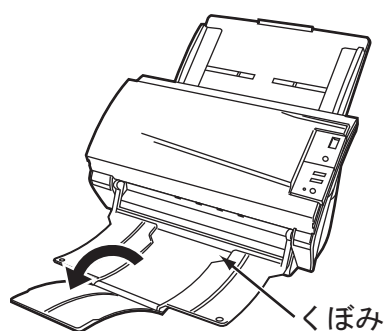


スタッカーを使うと、読み取りが終了した原稿がばらばらになりません。スタッカーは次のように使用します。

1. スキャナの取っ手に指をかけ、手前に起こします。



2. くぼみに指をかけ、手前に起こします。



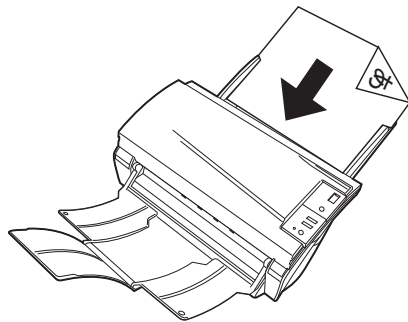
6. スキャナを使うことができるアプリケーションを起動して、原稿を読み取ります。

ScandAll PRO からの読み取り手順については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

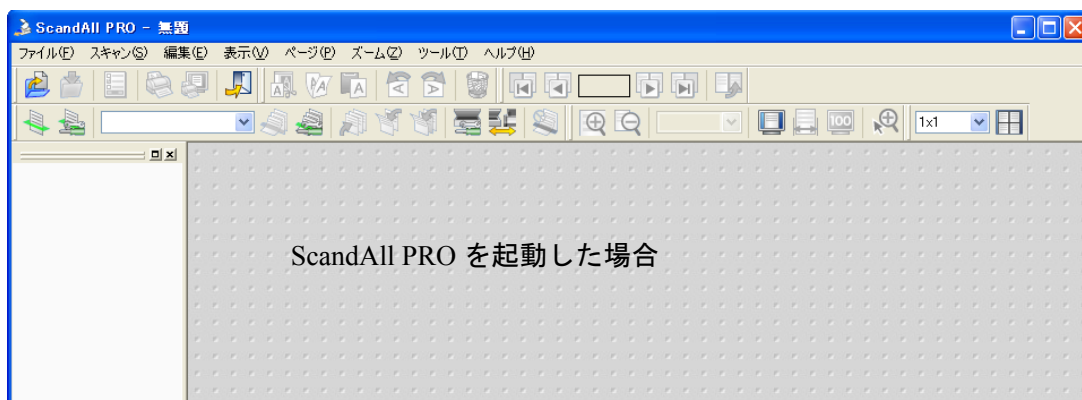
1.3 原稿の読み取り方法

本スキャナを使って原稿を読み取る方法について説明します。
基本的には、以下の流れで読み取りを行います。

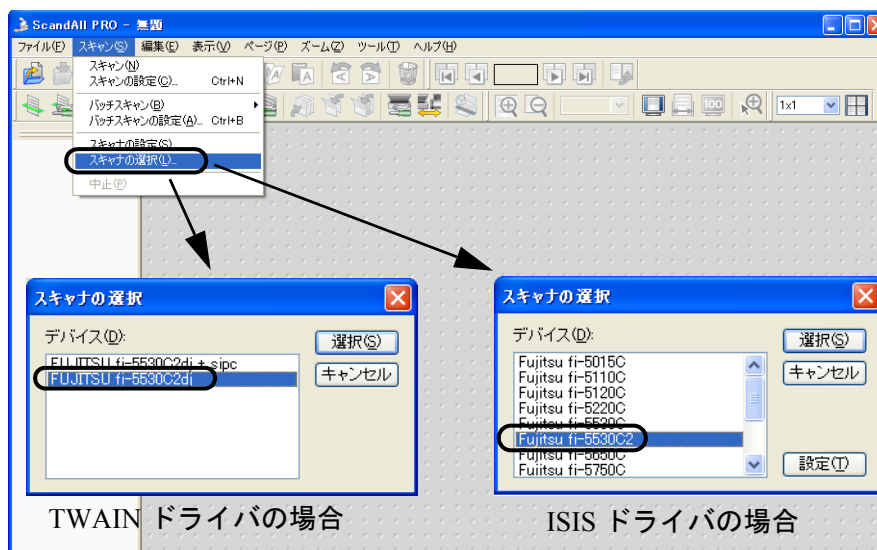
1. スキャナに原稿をセットします。



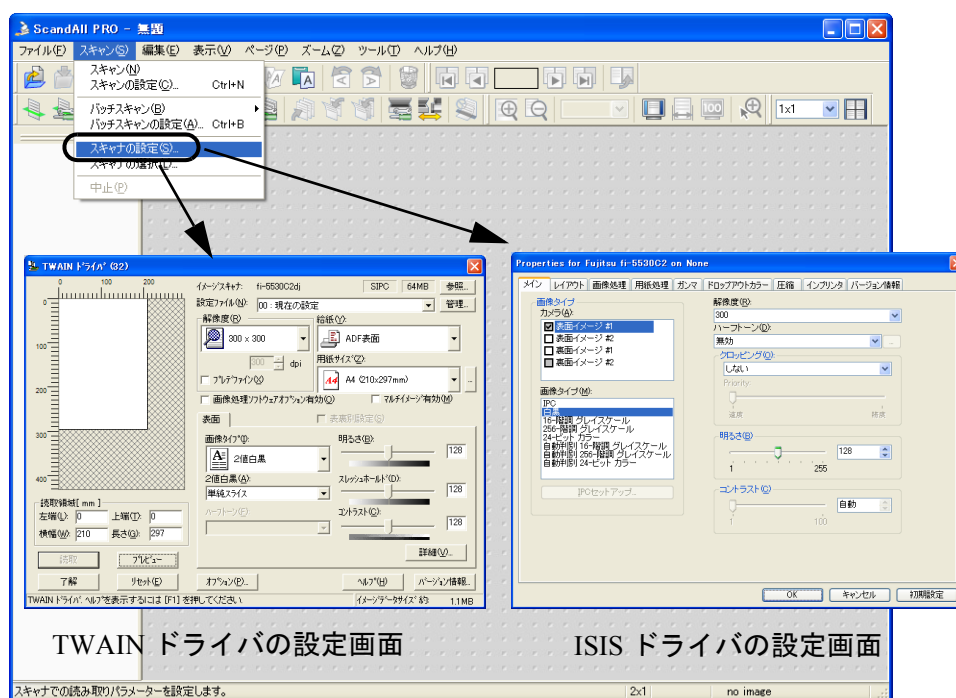
2. 読み取りに使用するアプリケーションを起動します。



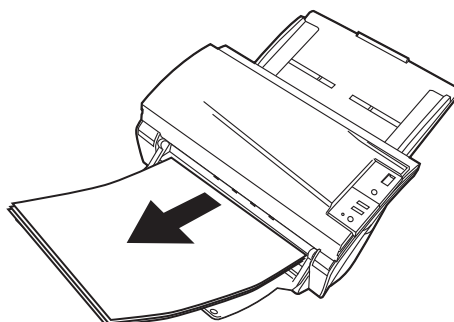
3. 読み取りに使用するスキャナを選択します。



- アプリケーションから、スキャナドライバを呼び出します。



- スキャナドライバの設定画面で、スキャナの読み取り条件を設定します。
- 読み取りを実行します。



- 読み取ったイメージをファイルに保存します。



ヒント

- ここでは、例として ScandAll PRO の画面を使って説明しています。使用するアプリケーションによって、手順や操作が若干異なります。
- ScandAll PRO を使った読み取り方法の詳細については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。他のアプリケーションを使用して読み取りを行う場合は、そのアプリケーションに添付されている取扱説明書を参照してください。

1.4 スキャナドライバの使い方

スキャナで読み取りを行うためには、スキャナドライバと、そのドライバに対応したアプリケーションが必要です。本製品には、TWAIN 規約に準拠した「TWAIN ドライバ」と ISIS 規約に準拠した「ISIS ドライバ」の2種類のドライバと、それぞれに対応したアプリケーション「ScandAll PRO」が添付されています。

ここでは、それぞれのスキャナドライバの使い方について説明します。
なお、ScandAll PRO の使い方や、ScandAll PRO からスキャナドライバを呼び出す方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

■ TWAIN ドライバ

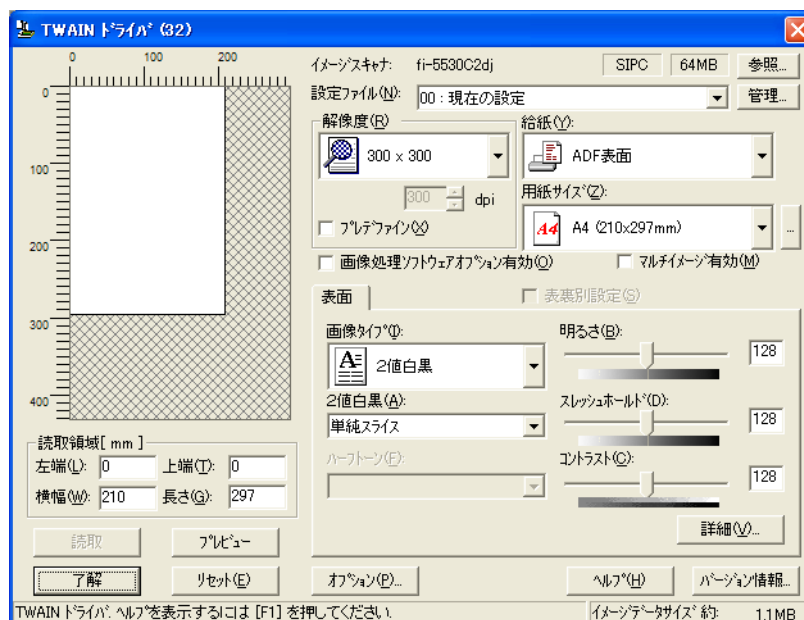
TWAIN ドライバは、TWAIN 規約に対応したアプリケーションを用いて、スキャナから読み取りを行うためのドライバソフトウェアです。
通常、スキャナの読み取りに関する設定は、アプリケーションからスキャナドライバを呼び出して、スキャナドライバの設定画面から行います。(アプリケーションの設定によっては、この設定画面を表示しない場合もあります。)



ヒント

スキャナドライバの呼び出し方は、アプリケーションによって異なります。
詳しくは、ご使用のアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。
ScandAll PRO から呼び出す方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

TWAIN ドライバの設定



TWAIN ドライバはこの画面で設定します。

以下に、代表的な設定項目について説明します。

※ 各機能の詳細については、「TWAIN ドライバ ヘルプ」を参照してください。

解像度

原稿を読み取る際の解像度を指定します。
定型（リストから選択）およびカスタム指定（50～600dpiの範囲で、1dpi刻みで任意の解像度を指定）ができます。
また、「プレデファイン」をチェックすると、あらかじめ設定された、「ノーマル」、「ファイン」、「スーパーファイン」の3つの解像度設定によって、簡単に読み取りを行うことができます。
プレデファインの設定は、[...] ボタンでお好みの設定に変更することもできます。

給紙

原稿の読み取り面（表面 / 裏面 / 両面）、長尺帳票を設定します。

用紙サイズ

読み取る原稿のサイズを、表示されるリストの中から指定します。
[...] ボタンで、任意の原稿サイズを、最大3つまでカスタム設定として登録することができます。
また、表示されるリストの並び順を変更することもできます。

画像タイプ

読み取った画像を出力するイメージのタイプを指定します。

2 値白黒	白と黒の2階調で読み取ります。
ハーフトーン	白と黒の2階調で中間調処理を行って読み取ります。
グレースケール	読み取った画像を白黒の明暗で階調表示します。256階調および4ビット(16階調)の中から選びます。
カラー	カラーで読み取ります。24ビット、256色、8色の中から選びます。

[読取] ボタン

現在の設定で、読み取りを開始します。

[プレビュー] ボタン

読み取り結果を事前に確認することができます。
現在の設定で試し読みを行い、プレビューウィンドウに表示します。

[了解] / [閉じる] ボタン

現在の設定を保存して、画面を閉じます。

[リセット] ボタン

変更した設定項目を元に戻します。

[ヘルプ] ボタン

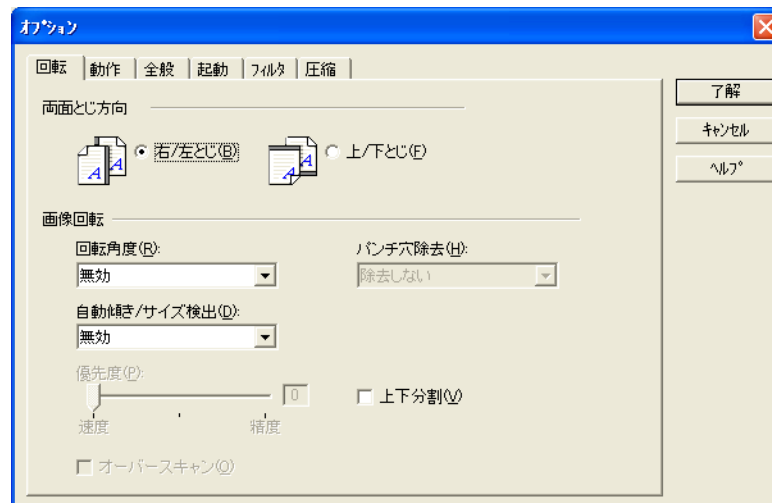
TWAIN ドライバのヘルプを表示します。[F1] ボタンでも表示することができます。

[バージョン情報] ボタン

TWAIN ドライバのバージョン情報を表示します。

[オプション] ボタン

以下の画面で、オプション機能を設定します。

**[回転] タブ**

両面原稿のとじ方向、画像の回転、原稿の傾き補正、原稿サイズ検出、後端検出、オーバースキャン、パンチ穴除去、上下分割などの設定を行います。

[動作] タブ

キャッシュ、マルチフィード検出、プレピック制御、ブランクページスキップなどの設定を行います。

[インプリンタ (エンドーサ)] タブ

インプリンタ (別売) の印字設定を行います。
インプリンタ搭載時だけ表示されます。

[全般] タブ

TWAIN ドライバ画面に表示される単位の設定を行います。
ミリ (mm)、インチ (inch)、ピクセル (pixel) の中から選択します。

[起動] タブ

スキャナ操作パネルに関する設定を行います。

[フィルタ] タブ

画像処理フィルタの設定を行います。

縁消しフィルタ : 読み取った原稿の周囲余白部分を、指定した色で塗りつぶします。

デジタルエンドーサ : 読み取った画像のデータに、アルファベットや数字などの文字列を付加します。

[圧縮] タブ

JPEG 転送時の圧縮率の設定を行います。

[詳細] ボタン

画像処理に関するさらに詳細な設定を行います。
輪郭処理、ガンマ補正、ドロップアウトカラー、白黒反転などの設定が可能です。

[管理] ボタン

設定ファイルの管理を行います。

TWAIN ドライバ画面で設定した内容を、[設定ファイル] に保存しておくことによって、簡単に読み取り設定を変更することができます。

各機能の詳細については、「TWAIN ドライバのヘルプ」を参照してください。

■ ISIS ドライバ

ISIS ドライバは、ISIS 規約に対応したアプリケーションを用いて、スキャナから読み取りを行うためのドライバソフトウェアです。

通常、スキャナの読み取りに関する設定は、アプリケーションからスキャナドライバを呼び出して、スキャナドライバの設定画面から行います。(アプリケーションの設定によっては、この設定画面を表示しない場合もあります。)

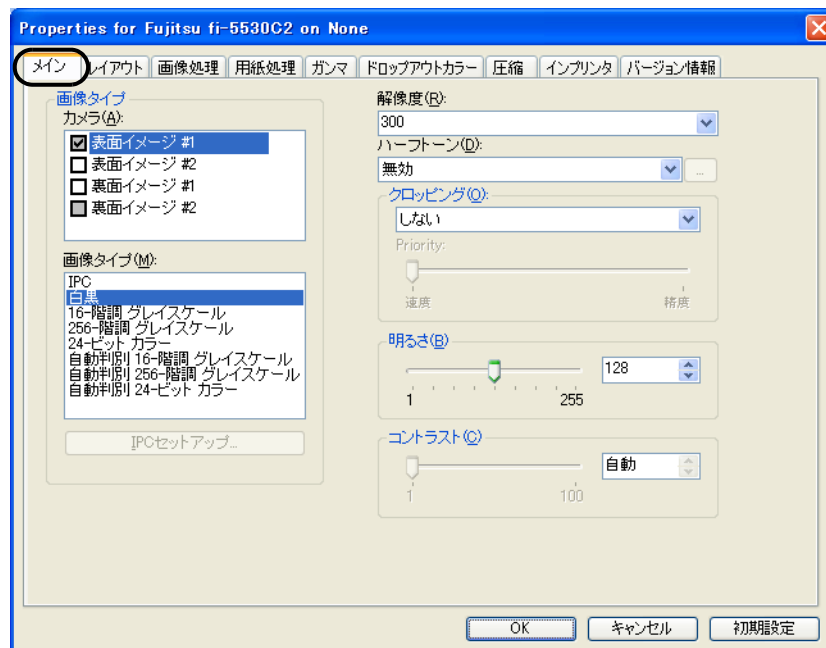


ヒント

スキャナドライバの呼び出し方は、アプリケーションによって異なります。詳しくは、ご使用のアプリケーションの取扱説明書またはヘルプを参照してください。ScandAll PRO から呼び出す方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

ISIS ドライバの設定

[メイン] タブ



カメラ

読み取る面を選択します。

チェックボックスにチェックの入った面が読み取り対象となります。

表面のみにチェックを入れた場合は、片面読み取りとなり、表面 / 裏面共にチェックを入れた場合は、両面読み取りとなります。

また、1つの面に対して、カラー/グレイスケールと2値白黒の2種類の設定（#1/#2）ができ、一度の読み取りで、2種類の画像を同時に出力することができます（マルチイメージ）。

選択した面（表面イメージ#1/表面イメージ#2/裏面イメージ#1/裏面イメージ#2）に対して、この画面で設定された機能が適用されます



#1にカラー/グレイスケールのいずれかを選択した場合、同じ面の#2には、2値白黒しか選択できません。逆に、#1に2値白黒を選択した場合、同じ面の#2には、カラー/グレイスケールのいずれかしか選択できません。

画像タイプ

メニューから使用する色調モードを選択します。以下のモードが設定できます。

IPC	画像処理ソフトウェアオプションを使って、白黒2値で読み取ります。選択すると、下にある [IPC セットアップ] ボタンが有効になります。（画像処理ソフトウェアオプションをインストールしたときのみ表示されます。）
白黒	白黒2値のしきい値にしたがって原稿を読み取ります。設定したしきい値に従って白と黒が判別されます。このモードは線画や文字の読み取りに適しています。
16- 階調グレイスケール	原稿は白黒16階調で読み取られます。このモードでは1ピクセルあたり4ビットを使用します。
256- 階調グレイスケール	原稿は白黒256階調で読み取られます。このモードでは1ピクセルあたり8ビットを使用します。
24- ビットカラー	原稿は24ビットフルカラーで読み取られます。このモードはカラー写真の読み取りに適していますが、グレイスケールモードよりメモリを消費します。
自動判別	読み取った原稿がカラー文書なのか、2値白黒文書なのかを判断し、カラー文書の場合はカラー（またはグレイスケール）で出力し、白黒文書の場合は2値白黒で出力します。「カメラ」の#1でカラーと認識された場合の設定を行い、#2で白黒と認識された場合の設定を行います。
16- 階調グレイスケール	
256- 階調グレイスケール	
24- ビットカラー	

[IPC セットアップ] ボタン

画像処理ソフトウェアオプションを使用して読み取る場合の設定を行います。



画像処理ソフトウェアオプションの設定方法については、「画像処理ソフトウェアオプション ユーザーズガイド」を参照してください。「画像処理ソフトウェアオプション ユーザーズガイド」を表示するには、[スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [画像処理ソフトウェアオプション] → [ユーザーズガイド] の順に選択します。

解像度

1 インチあたりのピクセル数（ドット数）を指定します。指定には、あらかじめ設定された解像度を一覧から選択するか、50 から 1200 の間の値を入力します。（601 から 1199 を入力した場合、解像度は 300dpi に設定されます。）
解像度が高いほど消費されるメモリも増加します。

ハーフトーン

リストからハーフトーンのパターンを選択します。この項目は画像タイプで 2 値白黒が設定されている場合に有効になります。

濃い写真画像用	色調の濃い写真の読み取りに適しています。
濃い文字+写真混在用	文字と写真を含んだ色調の濃い原稿の読み取りに適しています。
淡い写真画像用	淡い色調の写真の読み取りに適しています。
淡い文字+写真混在用	文字と写真を含んだ色調の淡い原稿の読み取りに適しています。
誤差拡散法	ピクセル間の格差が最小化されます。
ダウンロード	ダウンロードしたディザパターンを用いて処理をします。

クロッピング

読み取った原稿をどのように切り取って出力するかを設定します。

しない	指定した原稿サイズでそのまま出力します。
後端検出	読み取る原稿の後端を検出し、原稿長さ分の読み取りをおこないません。短いページが原稿に含まれる場合は、そのサイズにあわせて出力するイメージを調整します。
自動設定	読み取る原稿のページサイズを自動検出し、読み取った画像をそのサイズで出力します。また原稿の傾きも自動に検出・補正し、イメージを出力します。

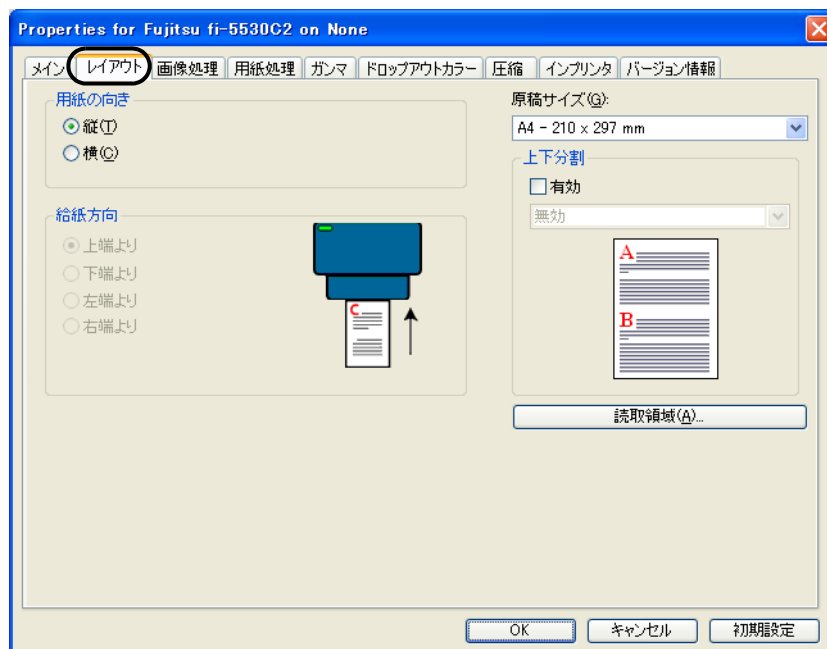
明るさ

1（最も暗い）から 255（最も明るい）までの値でイメージ全体の明るさを設定します。画像を明るくするには値を高くし、暗くするには値を低く設定します。

コントラスト

読み取った画像のコントラストを設定します。1（ソフト）から100（シャープ）までの値でイメージ全体の明るさを設定します。陰影を際立たせる場合は値を高く設定します。

[レイアウト] タブ



用紙の向き

原稿の向き（縦か横）を指定します。

原稿サイズ

読み取る原稿のサイズを指定します。リストの中から任意のサイズを選択します。

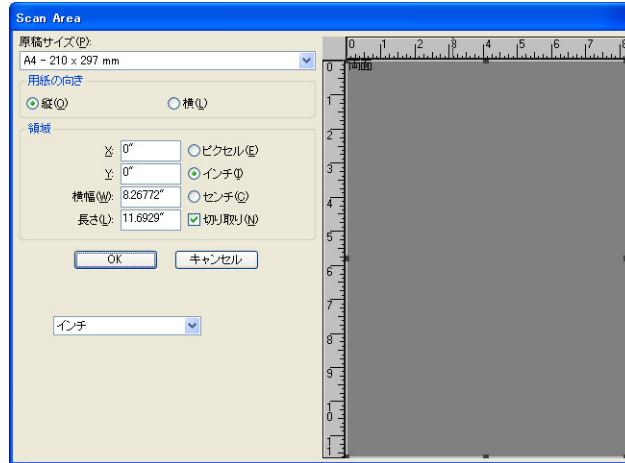
上下分割

読み取ったイメージを二分割します。

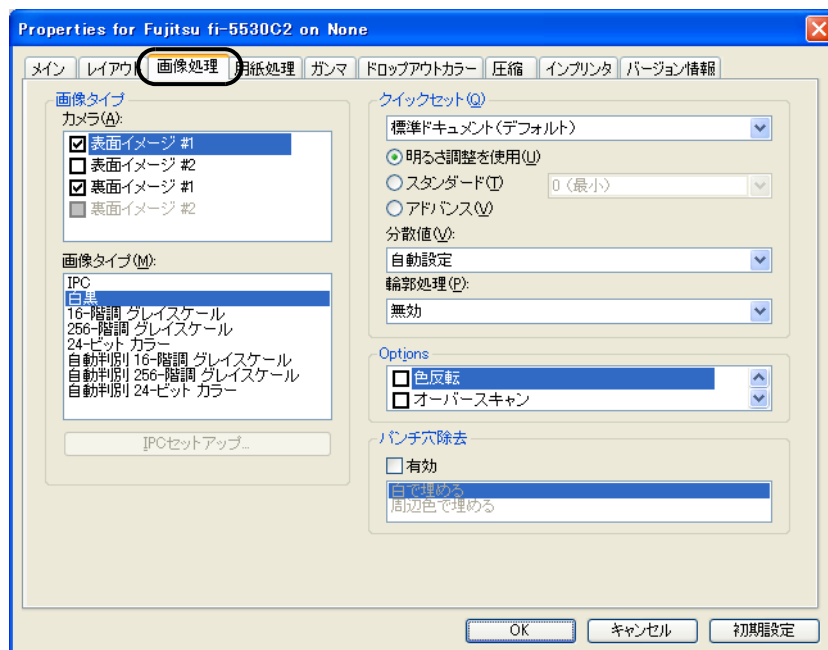
[読取領域] ボタン

「読取領域」画面を表示します。

原稿サイズに対する読み取り領域を指定します。領域枠をマウスでドラックして、大きさを調整することができます。また、数値を直接入力して指定することもできます。



[画像処理] タブ



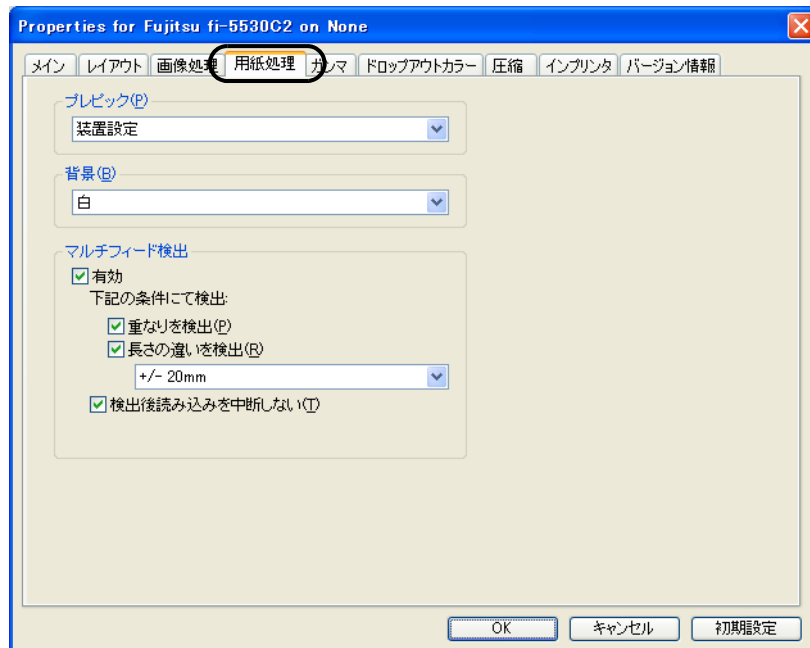
クイックセット

画像処理に関する設定の中で、よく使用される設定パターンがあらかじめ用意されています。一覧から設定パターンを選択することで、各設定項目を一つ一つ設定しなくても、一度に設定されます。以下の設定パターンを選択できます。「モード」で「白黒」を選択したときのみ有効となります。

標準ドキュメント (デフォルト) 一般的なオフィス文書の読み取りに適しています。

- 自動（高度）** 原稿によらずに、良好な2値化処理を行います。薄文字や文字の背景に色がついた原稿、カラーチャートなどが含まれた原稿など、通常の2値化処理ではうまく読み取れない原稿もきれいに読み取ることができます。
- 背景を取り除いた NCR 形式** 背景除去をおこない、ギザギザになった輪郭線を取り除いて画像内の曲線を滑らかにします。
- 雑誌、パンフレット等** 雑誌、パンフレットのように、文字と画像の混在した原稿を読み取るのに適しています。
- カスタム設定** 以下の画像処理に関する設定を、個別に指定できます。
- 分散値**
画像の明るさに応じて分散値を設定します。
- 輪郭処理**
読み取った画像のシャープさを指定します。
- 弱、中、強** 読み取ったイメージの輪郭を強調します。処理の度合いは、弱、中、強の3種類です。
- スムージング** 曲線部のギザギザを取り除き、輪郭を滑らかにします。
- パンチ穴除去**
原稿端に沿って並んでいるパンチ穴を検出して、指定した色で塗りつぶします。以下の指定色を選択できます。
背景は「黒」となります。
- 白で埋める** パンチ穴部分を白色で塗りつぶします。
- 周辺色で埋める** パンチ穴周辺で使用されている割合が高い色でパンチ穴部分を塗りつぶします。
- 色のついた原稿を読み取る時は〔周辺色で埋める〕を指定してください。「白で埋める」を選択した場合、パンチ穴部分が白い四角で塗りつぶされたように見えます。
- 色反転**
色を反転して出力します。
- オーバースキャン**
オーバースキャン機能を設定します。〔原稿サイズ〕で指定した原稿サイズより大きめに読み取ります。

「用紙処理」タブ



プレピック

読み取り時に、読み取り動作を開始する前にあらかじめ原稿をピック（プレピック）するかどうかを指定します。

プレピックとは、読み取り動作を開始する前に、原稿を読み取り位置手前まで搬送しておくことを指します。

有効にすることによって、読み取りにかかる時間を短縮することができます。

背景

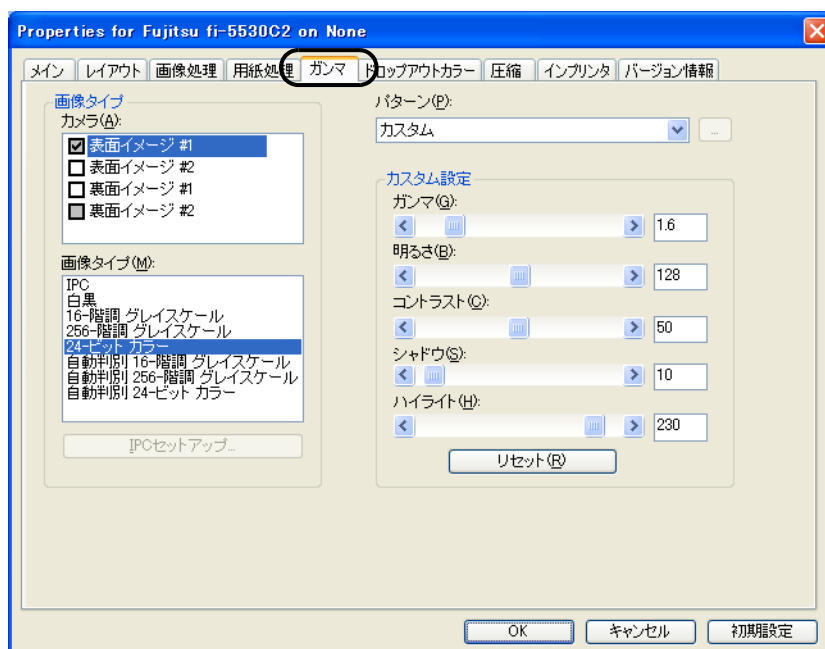
背景色（白／黒）を指定します。

マルチフィード検出

マルチフィードとは、2枚以上の原稿が同時に ADF に給紙された場合に発生するエラーです。マルチフィードの検出条件を設定して、検出時に読み取りを停止してエラーメッセージを表示させることが可能です。「重なりを検出」する方法と、「長さの違いを検出」する方法があります。

検出後読み込みを中断しない

マルチフィードを検出しても、そのまま読み取りを続けます。

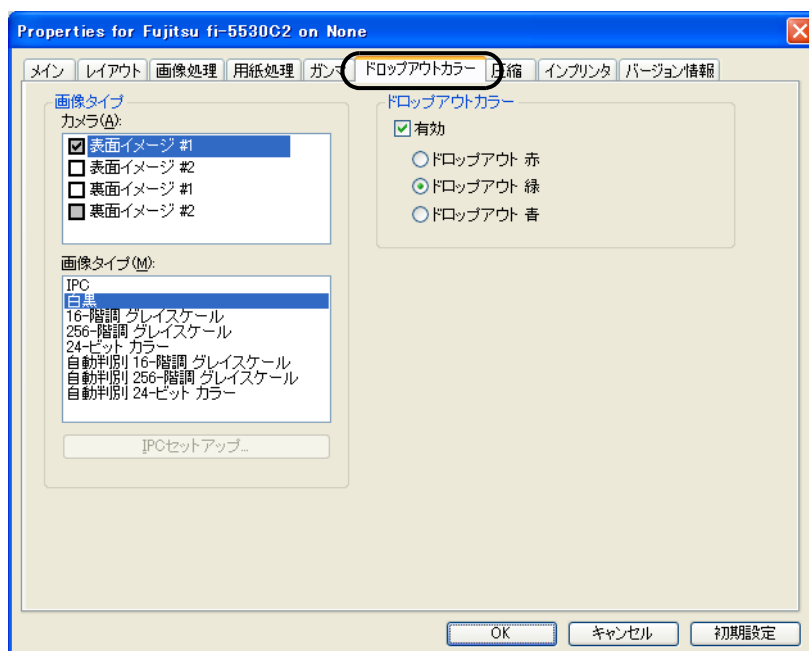
[ガンマ] タブ**パターン**

ガンマ補正の設定を行います。補正パターンには、標準、ソフト、シャープ、カスタム、ダウンロード、明るめの6通りの設定が可能です。

カスタム設定

「パターン」で「カスタム」を指定した場合に有効になります。ガンマ、明るさ、コントラスト、シャドウ、ハイライトなどを数値で設定することができます。シャドウ、ハイライトは、カラー/グレースケール指定時のみ設定可能となります。

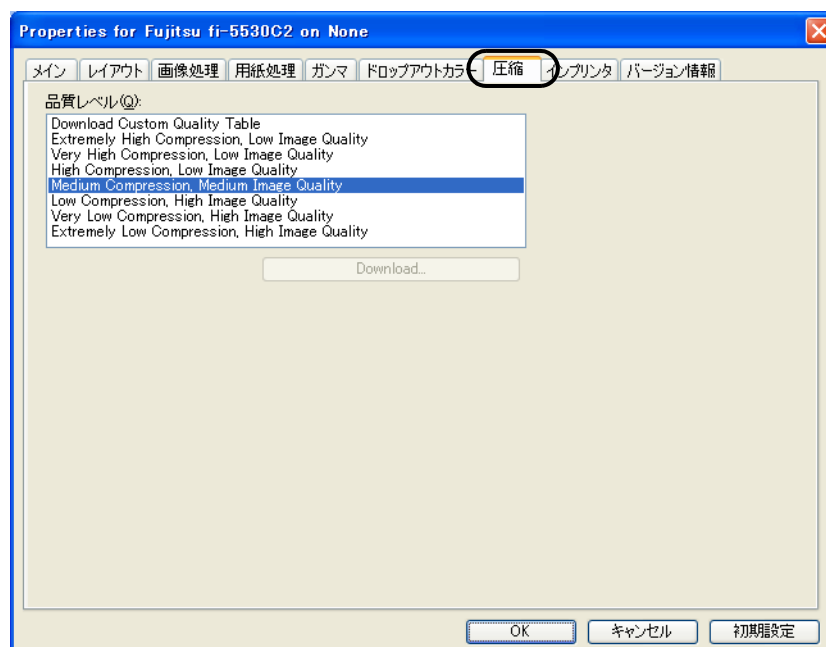
[ドロップアウトカラー] タブ



ドロップアウトカラー

緑、赤、青（光の三原色）の中から、選択した色情報を除いて読み取ることができます。例えば、赤い枠がついた、黒い文字を読み取る場合、「赤」を選択して読み取りをおこなえば、黒い文字の部分だけを読み取ることができます。白黒／グレースケール指定時のみ有効です。

[圧縮] タブ

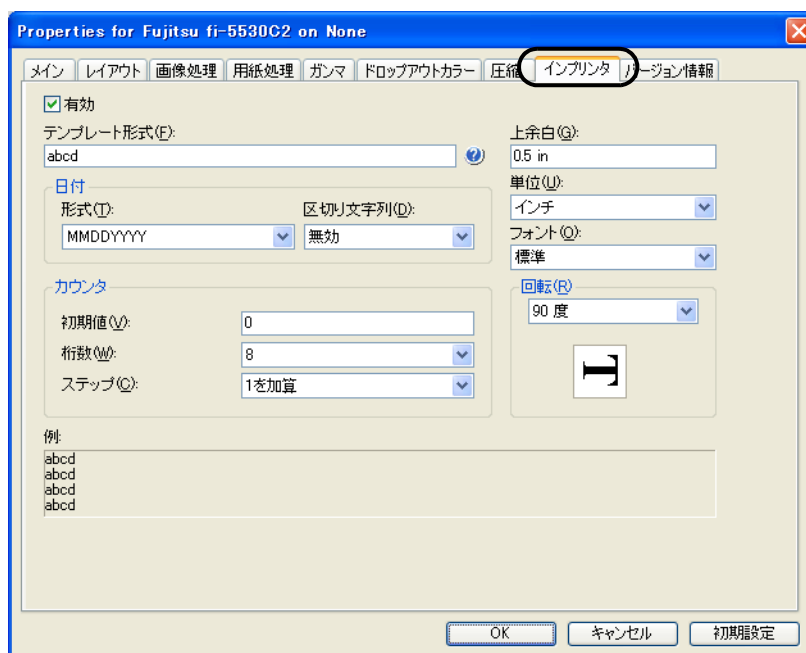


品質レベル

カラー／グレースケールで読み取る際の、イメージデータの圧縮度合いと、画質の設定を行います。

[インプリンタ] タブ

インプリンタオプション（別売）の印字設定を行います。インプリンタオプションが装備されていない場合は、表示されません。



「有効」チェックボックス

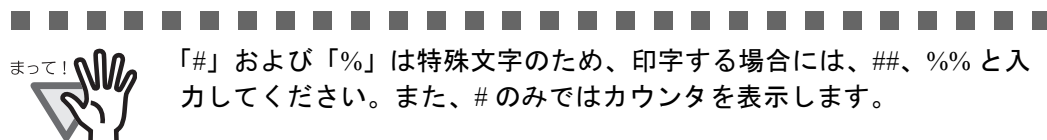
チェックを入れると、インプリンタ機能が有効になります。

テンプレート形式

入力した文字が、原稿に印字されます。
使用可能な文字は、以下の通りです。

- アルファベット： A～Z, a～z (半角)
- 英数字： 0, 1～9 (半角)
- 記号： !"#\$%&'()*+,-./:;<=>?@[]^_`{|}~ (半角)
- 年月日： %Y
- 時間 (HH:MM)： %T
- カウンタ： %S (3桁から8桁まで選択できます。)
- その他： <半角スペース>

入力可能な最大文字数は43桁です。



日付

年月日の表示方法を指定します。

- 形式： 年月日の表示形式を指定します。
- 区切り文字列： 区切り記号を指定します。

カウンタ

カウンタの表示規則を指定します。

- 初期値： カウンタの初期値を指定します。
桁数： カウンタの桁数（3～8桁）を指定します。
ステップ： カウンタの増加/減少量を指定します。

上余白

印字する文字列の書き出し位置を指定します。
原稿先端からの長さ方向の位置を数値で指定します。

- 設定範囲： 0.5～10.5 インチ（1.27～26.7cm）
最小単位： 0.1 インチ（0.01cm）

単位

上余白の表示単位を、インチ/センチ/ピクセルの中から指定します。

フォント

標準、太字、細幅字の中から、印字に使用するフォントを指定します。

回転

印字する文字の向きを指定します。

[バージョン情報] タブ



ISIS ドライバのバージョン情報や、パソコン接続されているスキャナの装置情報が表示されます。

1.5 画像読み取り用アプリケーションの紹介

画像読み取り用アプリケーションについて紹介します。
本書では、画像読み取り用アプリケーションとして、ScandAll PRO を例に説明しています。

ScandAll PRO は、TWAIN/ISIS 両規格に準拠した画像読み取り用アプリケーションです。スキャナの読み取り処理の設定をプロファイルに定義し、業務内容に応じた読み取り処理を実行できます。

本書の「[第2章 いろいろな読み取り方法について](#)」(31 ページ) では、例として ScandAll PRO から TWAIN ドライバを起動してスキャナでいろいろな原稿を読み取る方法を説明しています。

ScandAll PRO の詳細については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

1.6 スキャナ集中管理機能の紹介

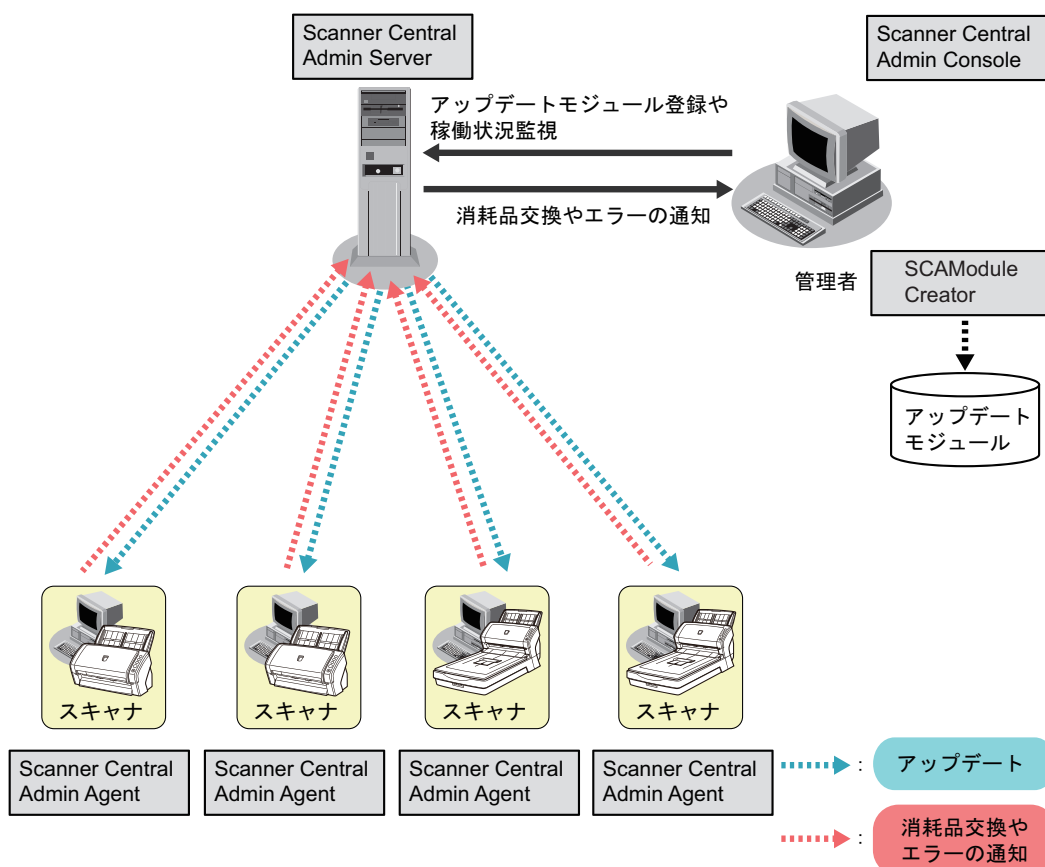
スキャナ集中管理機能について紹介します。

スキャナ集中管理機能とは、大量のスキャナを一元管理できる機能です。スキャナ集中管理機能を使用すると、次のことができるようになります。

- 複数台のスキャナの設定情報やドライバなどを、一括してアップデートできます。スキャナごとのアップデートが不要となり、大量のスキャナをアップデートするための作業時間を大幅に短縮できます。
- 消耗品の交換が必要なスキャナ、エラーが発生しているスキャナがないかなどを監視できます。スキャナから消耗品交換やエラーを通知するため、スキャナの稼働状況を簡単に確認できます。

スキャナ集中管理機能を使用するためには、Scanner Central Admin が必要です。Scanner Central Admin は、本製品に添付されている 4 つのアプリケーションから構成されています。

- Scanner Central Admin Server**
 スキャナを集中管理するコンピュータにインストールするアプリケーションです。スキャナを Scanner Central Admin Server に登録して、一元管理を行う集中管理システムを構築できます。
- Scanner Central Admin Console**
 アップデートモジュール登録や稼働状況監視を行うコンピュータにインストールするアプリケーションです。管理者は Scanner Central Admin Console の画面から、アップデートモジュール登録や稼働状況監視を行います。また、スキャナから通知された消耗品交換やエラーを、画面上で確認できます。
- Scanner Central Admin Agent**
 スキャナを接続しているコンピュータにインストールするアプリケーションです。スキャナが Scanner Central Admin Server と連携するために必要となります。Scanner Central Admin Server と連携すると、スキャナの設定情報などのアップデートをスキャナに適用できます。また、スキャナから消耗品交換やエラーを通知できます。
- SCAModuleCreator**
 Scanner Central Admin Server に登録するアップデートモジュールを作成するアプリケーションです。アップデートモジュールを作成する場合にだけ必要となります。



スキャナ集中管理機能の詳細については、Scanner Central Admin ユーザーズガイドを参照してください。

第2章

いろいろな読み取り方法について

この章では、例として ScandAll PRO から TWAIN ドライバを起動してスキャナでいろいろな原稿を読み取る方法について説明します。

この章では、Windows XP の画面を例に説明しています。

お使いの OS によって表示される画面、および操作が多少異なります。

また、TWAIN ドライバをアップデートすると、この章に記載している画面、および操作が多少異なることがあります。

その場合は、アップデート時に提供される取扱説明書を参照してください。

次に示す原稿の読み取り方については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

- 読み取った画像を PDF 形式で保存したいとき
- パッチコードを使って原稿を分割したいとき
- バーコードを使って原稿を分割したいとき
- ゾーン OCR の認識結果を使ってファイル名を設定したいとき
- バーコードの認識結果を使ってファイル名を設定したいとき
- バッチスキャンごとに格納フォルダーを作成したいとき
- バッチスキャンを実行して SharePoint Server に格納したいとき
- 中断したバッチスキャンを再開したいとき
- インデックス情報を出力しアプリケーションと連携したいとき

2.1 両面を一度に読み取りたいとき	33
2.2 原稿幅の違う原稿を読み取りたいとき	34
2.3 薄い原稿を読み取りたいとき	35
2.4 A3 サイズよりも長い原稿を読み取りたいとき	36
2.5 指定の色（ドロップアウトカラー）の部分を除いて読み取りたいとき	38
2.6 白紙ページをスキップして読み取りたいとき	40
2.7 明るめに画像を読み取りたいとき	42
2.8 マルチフィードを検出したいとき	44
2.9 原稿の傾きを自動で補正したいとき	49
2.10 マルチイメージ出力したいとき	51

2.11 カラー / モノクロを自動判別したいとき	53
2.12 原稿を 2 分割して読み取りたいとき	55
2.13パンチ穴を除去して読み取りたいとき	57
2.14 スキャナ上のボタンから読み取りを開始したいとき	59

2.1 両面を一度に読み取りたいとき

1. ADF 給紙シュートに原稿をセットします。

原稿を ADF 給紙シュートにセットする方法については、「[1.2 原稿をセットして読み取ります](#)」(7 ページ) を参照してください。

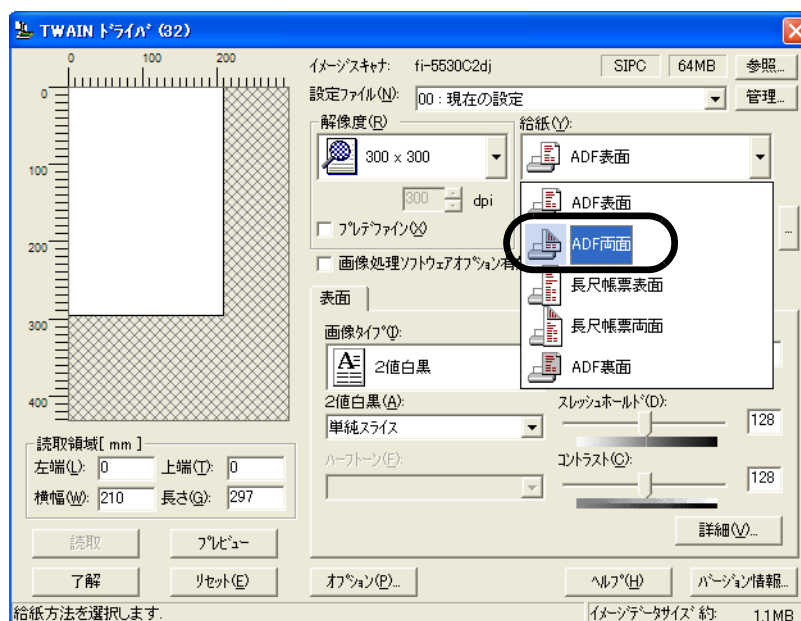
2. ScandAll PRO を起動します。

[スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [Fujitsu ScandAll PRO] → [ScandAll PRO] の順に選択します。ScandAll PRO が起動されます。

3. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

4. 「給紙」から [ADF 両面] を選択します。



5. [了解] ボタンをクリックします。

⇒ 変更した内容が反映され、TWAIN ドライバの設定画面が閉じます。

6. ScandAll PRO から、読み取りを実行します。

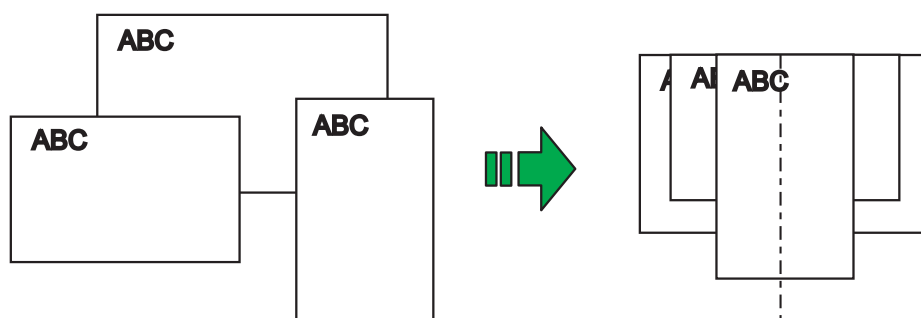
読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

⇒ 原稿が読み取られ、ScandAll PRO の画面にイメージが表示されます。

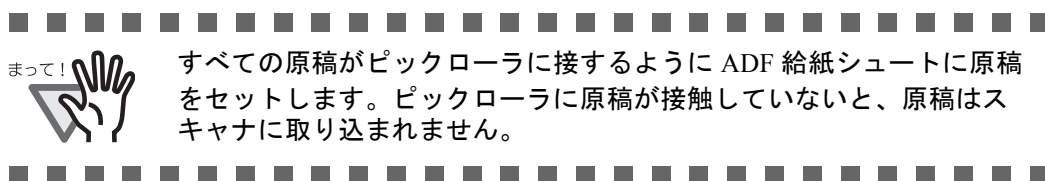
2.2 原稿幅の違う原稿を読み取りたいとき

原稿幅の違う原稿を ADF で一度にまとめて読み取ると、原稿幅の小さな原稿が傾いて読み取られる、またはスキャナに取り込まれないことがあります。同じ幅の原稿をまとめて読み取りを行うようにしてください。ただし、どうしても原稿幅の違う原稿を読み取らなければいけない場合は、以下の手順で原稿をセットしてください。

1. 読み取り画像の傾きを防止するために「自動傾き／サイズ検出」で [自動用紙サイズ検出] を選択します。(「2.9 原稿の傾きを自動で補正したいとき」(49 ページ))
2. 原稿の先端を中央でそろえます。



3. ADF 給紙シュートに原稿をセットし、最も幅の広い原稿の両側がサイドガイドに接するようにサイドガイドを移動させてください。



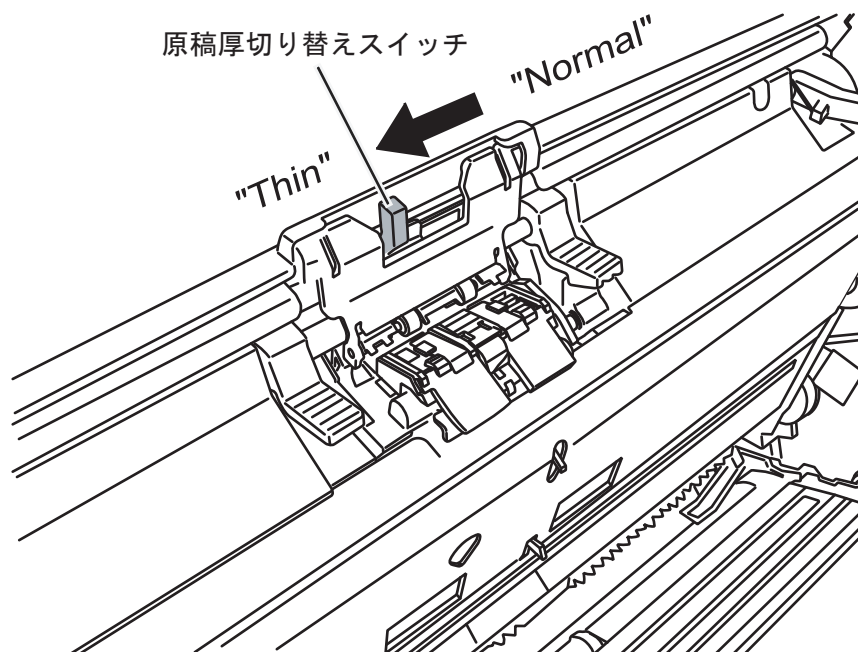
4. 原稿を読み取ります。

読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2.3 薄い原稿を読み取りたいとき

薄い原稿（52g/m²未満の仕様外原稿）をADFで一度にまとめて読み取ると、原稿づまりやピックアップが起りやすくなる場合があります。このような原稿を読ませる場合には、以下のように「Thin」側に設定してください。

1. 薄い原稿が、「6.2 原稿の紙質」（107 ページ）の要件を満たしているかどうか確認します。
2. 原稿厚切り替えスイッチを Thin 側（下記の矢印側）にスライドします。（工場出荷時は Normal 側）



3. 原稿を読み取ります。

読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。



まって！

通常は「Normal」側で使用してください。「Thin」側は規格外の薄い原稿（52g/m²未満）を読み取る場合のみ使用してください。ただし規格外の暫定運用のため搬送性能は保証できません。

2.4 A3 サイズよりも長い原稿を読み取りたいとき

1. ADF 給紙シュートに原稿をセットします。

詳細については「1.2 原稿をセットして読み取ります」(7 ページ) を参照してください。

2. ScandAll PRO を起動します。

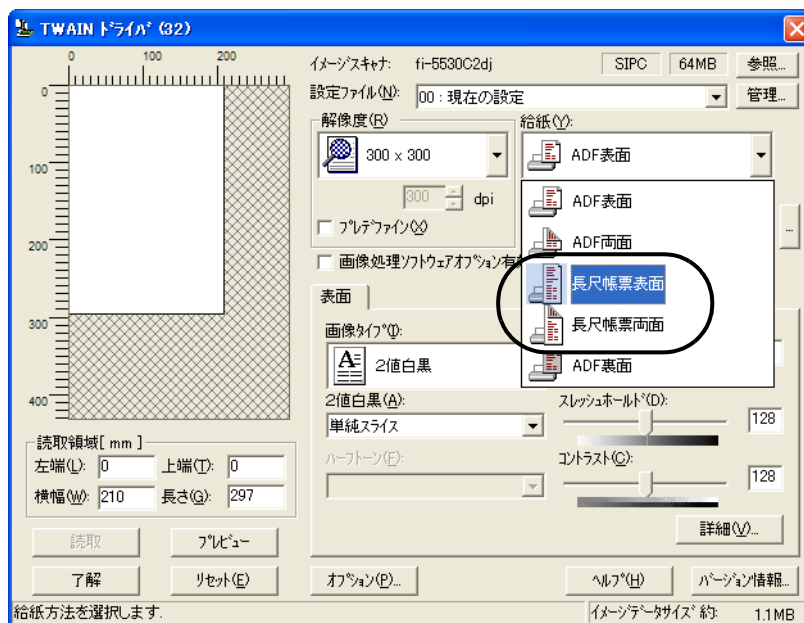
[スタート] メニューから [すべてのプログラム] → [Fujitsu ScandAll PRO] → [ScandAll PRO] の順に選択します。ScandAll PRO が起動されます。

3. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

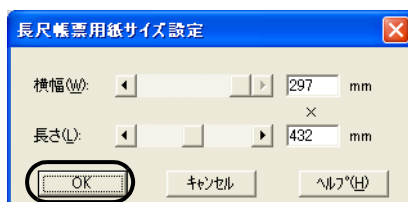
4. 「給紙」から「長尺帳票表面」または「長尺帳票両面」を選択します。

片面読み取りの場合は「長尺帳票表面」を選択、両面読み取りの場合は「長尺帳票両面」を選択します。



⇒ 長尺帳票用紙サイズ設定画面が表示されます。

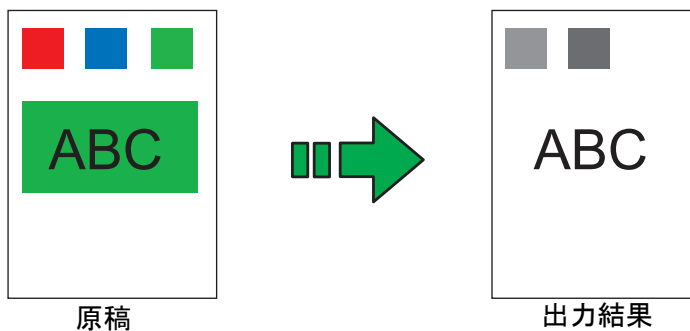
5. 帳票のサイズを設定し、[OK] をクリックします。



2.5 指定の色（ドロップアウトカラー）の部分を除いて読み取りたいとき

緑、赤、青（光の三原色）の中から、選択した色情報を除いて読み取ることができます。（※ドロップアウトカラーは、2値白黒、グレースケール読み取り時のみ指定可能です。）たとえば、黒い文字と緑色の枠がある原稿の黒い文字の部分だけを読み取ることができます。

ドロップアウトカラーの設定は、スキャナドライバから行います。



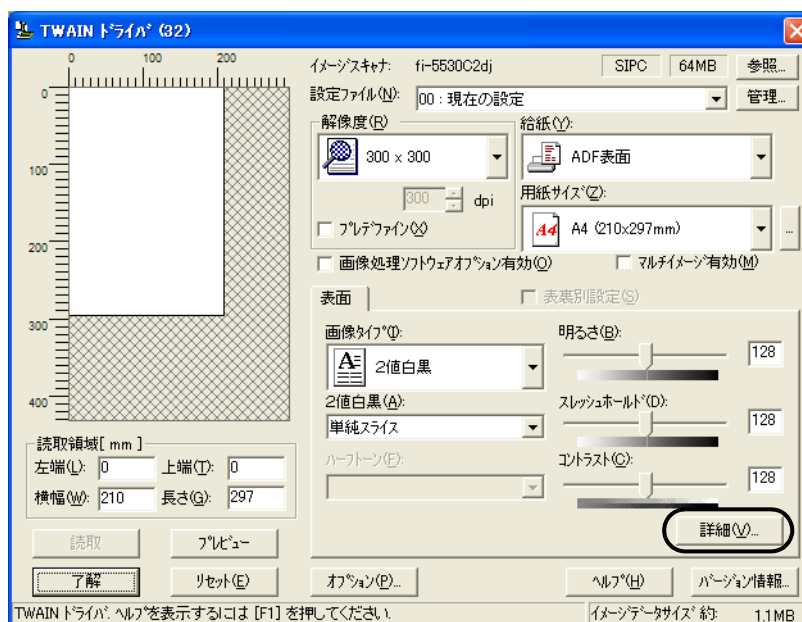
例 ドロップアウトカラーに「緑」を選択した場合

以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「詳細」ボタンをクリックします。



⇒ 「詳細」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「応用」の「ドロップアウトカラー」から、除きたい色を指定します。

たとえば、緑色の枠がついた黒い文字の原稿を読み取る場合で、黒い文字の部分だけを読み取りたいときは、[緑]を指定します。「なし」を選択した場合はドロップアウトを行いません。



4. [了解] ボタンをクリックします。
⇒ 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスに戻ります。
5. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。
⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。
読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2.6 白紙ページをスキップして読み取りたいとき

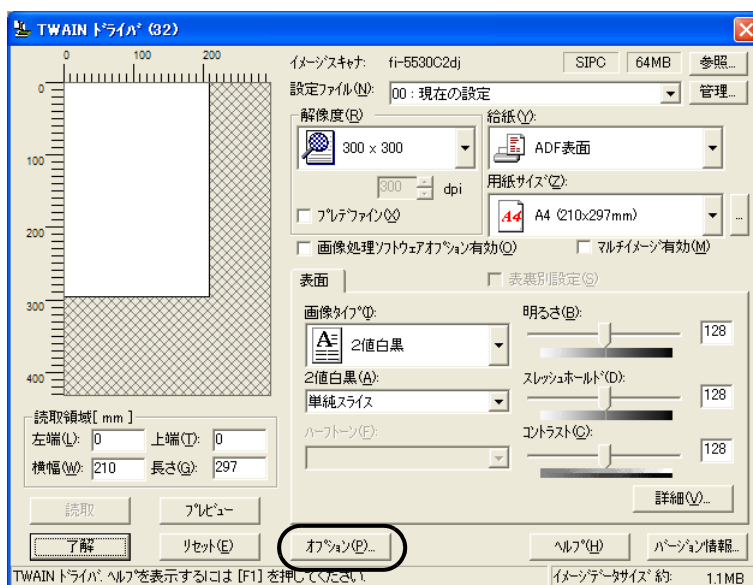
原稿に含まれる空白ページを検出し、自動的に削除して出力します。たとえば、両面原稿と片面原稿が混在している状態で両面読み取りを行うと、片面原稿の裏面（空白ページ）だけを取り除いて出力することができます。設定は、スキャナドライバで行います。

以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックします。



⇒ 「オプション」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「動作」タブをクリックします。
4. 「ブランクページスキップ」チェックボックスをチェックします。



本機能を有効にすると、「キャッシュモード」が自動的に「ホスト PC 内メモリ使用」に切り替わります。

5. スライダーバーを使って、ブランクページスキップの度合を調整します。

2 値白黒、ハーフトーン設定の場合



白紙の場合は [白背景原稿]、黒紙の場合は [黒背景原稿] のスライダーにてスキップ条件の設定を行います。

スライダー右に表示される数値はゴミ分布率 (*1) を表し、読み取った原稿がこの数値以下の場合にブランクページと認識します。

設定範囲は、OFF(--), および 0.2 ~ 3.0% (0.2 刻み) になります。

*1: 読取領域に対する黒点の占める割合 (白紙の場合)

カラー、グレースケール設定の場合



1 ~ 5 の 5 段階で、ブランクページ (白紙) のスキップ条件を設定します。値が大きくなるほどスキップしやすくなります。

6. [了解] ボタンをクリックします。
⇒ 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスに戻ります。
7. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。
⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。

読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2.7 明るめに画像を読み取りたいとき

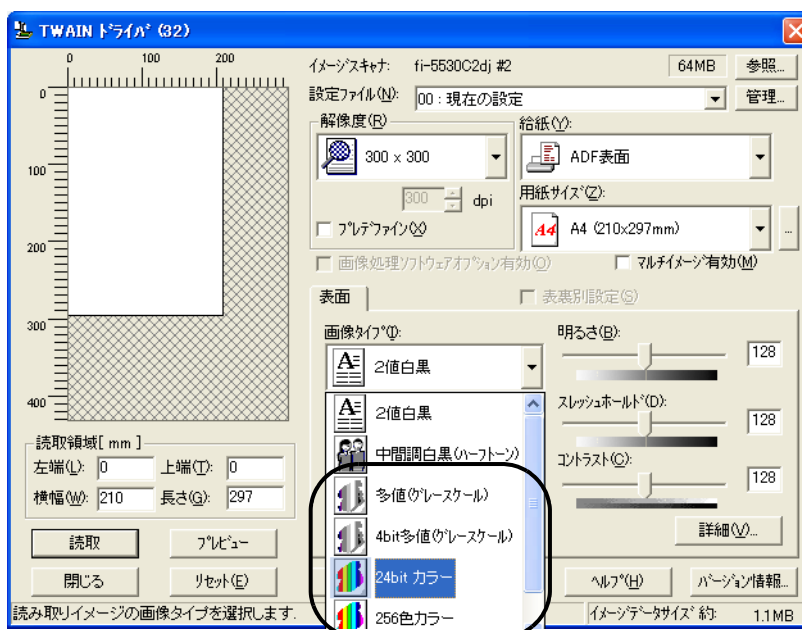
グレースケールまたはカラーで読み取る場合に、明るめに画像を読み取りできます。

以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

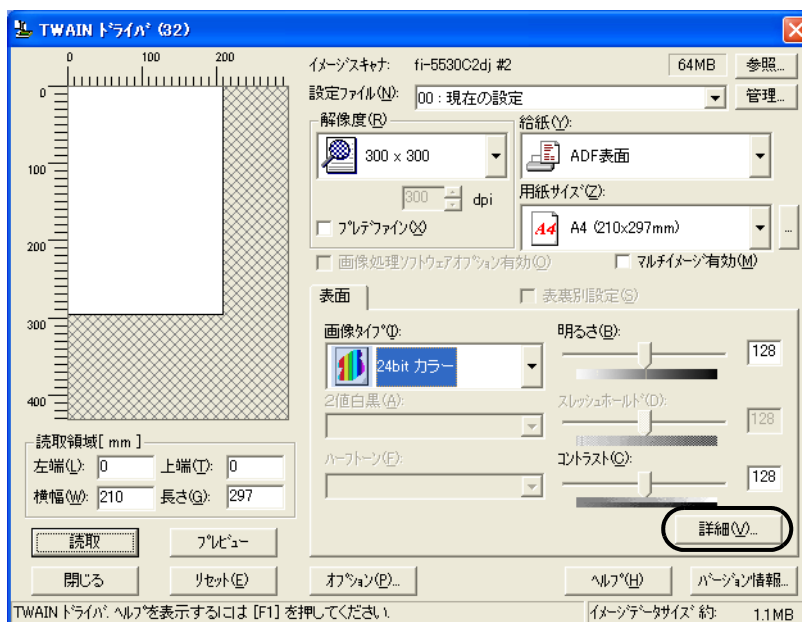
1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「画像タイプ」からグレースケールまたはカラーを選択します。

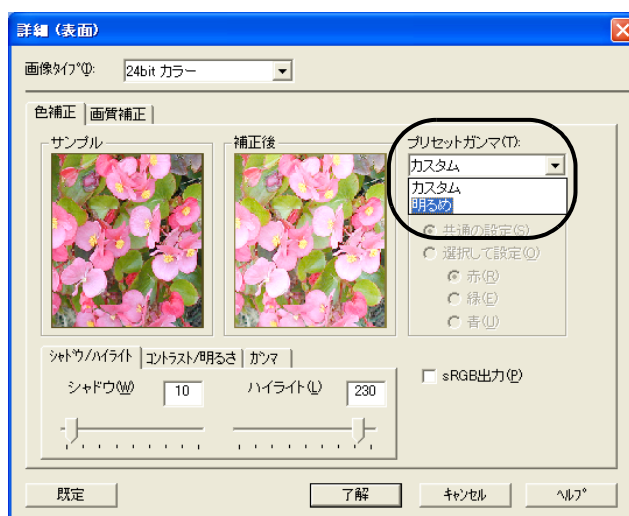


3. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「詳細」ボタンをクリックします。



⇒ 「詳細」ダイアログボックスが表示されます。

4. 「色補正」タブをクリックし、「プリセットガンマ」から「明るめ」を選択します。



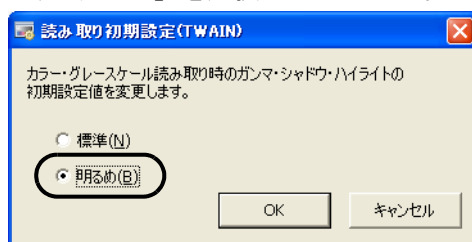
5. [了解] ボタンをクリックします。
⇒ 「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスに戻ります。
6. 「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。
⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。

読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。



ScandAll PRO 以外のアプリケーションの場合、TWAIN ドライバの初期設定を明るめに変更することもできます。TWAIN ドライバの初期設定を明るめに変更するには、Setup DVD-ROM の ¥Tools¥FtSwtGmm¥Twain フォルダ配下の「FtSwtGmm.exe」を実行して表示される「読み取り初期設定 (TWAIN)」画面で、「明るめ」を選択してください。



2.8 マルチフィードを検出したいとき

マルチフィードとは、一度に2枚以上の原稿が重なって ADF 給紙シュートに送り込まれてしまう現象のことです。

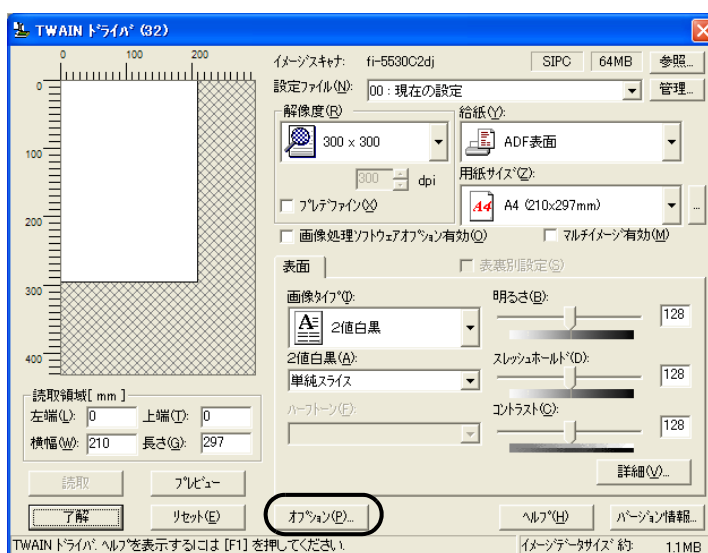
マルチフィードを検出し、エラーメッセージを表示するように設定することができます。マルチフィードの設定は、スキャナドライバで行います。

以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

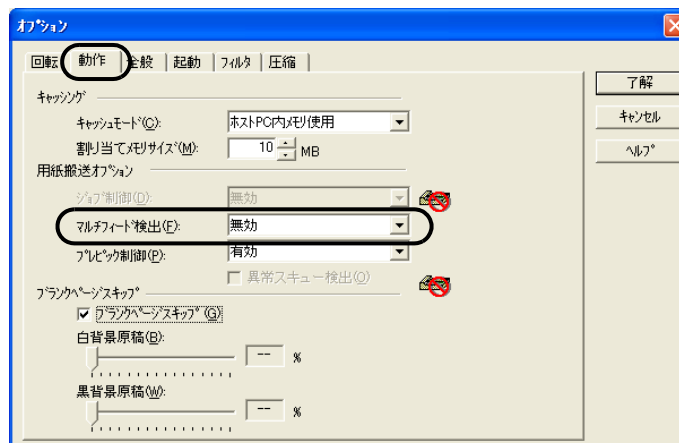
スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックします。



⇒ 「オプション」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「動作」タブをクリックします。
4. 「用紙搬送オプション」の「マルチフィード検出」から、検出条件を指定します。



次の検出条件があります。

無効	マルチフィード検出を行いません。
重なりを検出	原稿の厚さを監視し、原稿が重なって搬送されたときの厚さの変化によってマルチフィード検出を行います。
長さの違いを検出	原稿の長さを監視し、原稿が重なって搬送されたときの原稿の長さの変化によってマルチフィード検出を行います。
重なりと長さの違いを検出	重なりと長さの両方を監視し、マルチフィード検出を行います。

なお、マルチフィード検出の詳細については、「[6.5 マルチフィードを正しく検出するための条件](#)」(112 ページ)を参照してください

5. [了解] ボタンをクリックします。
⇒ 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスに戻ります。
6. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。
⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスが閉じます。

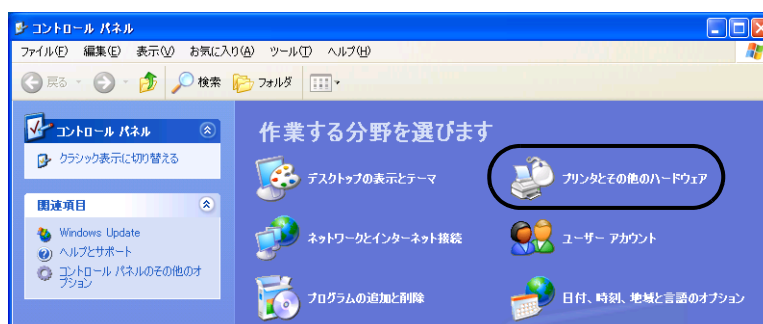
続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。
読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

■ マルチフィード検出範囲の指定について

通常のマルチフィード検出は、原稿中央部（幅 35mm）について常に原稿の重なりを監視しますが、履歴書やはがきなどのように、写真や切手などが貼られていると、その部分を原稿が重なっていると誤検出する場合があります。
このような原稿を読み取る場合は、検出範囲を絞ることにより、誤検出を防ぐことができます。以下の手順で設定してください。

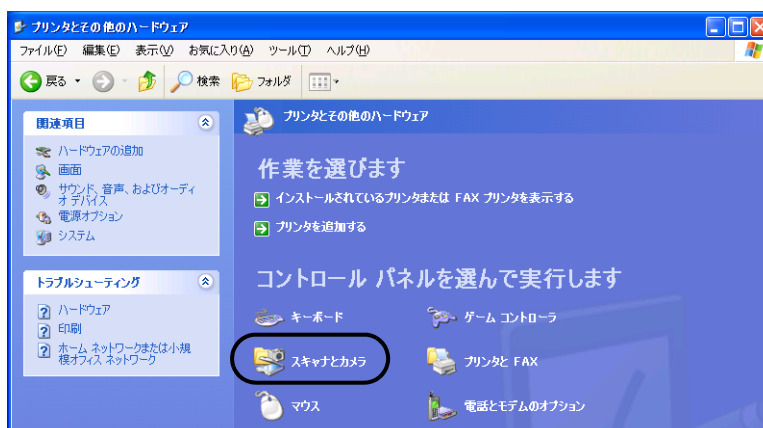
1. スキャナのプロパティを開きます。

- 1) スキャナの電源を投入し、スキャナとパソコンが接続されていることを確認します。スキャナとパソコンの接続については、「fi-5530C2 スタートアップガイド」の「2.2 スキャナとパソコンを接続します」を参照してください。
- 2) パソコンのコントロールパネル内にある「プリンタとその他のハードウェア」のアイコンをダブルクリックします。



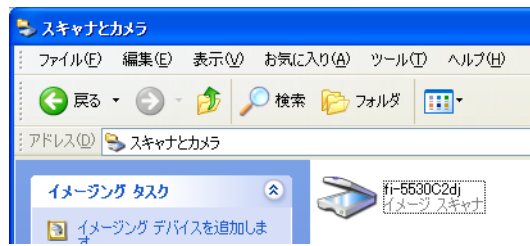
⇒ [プリンタとその他のハードウェア] の画面が表示されます。

- 3) [プリンタとその他のハードウェア] の画面で、「スキャナとカメラ」のアイコンをダブルクリックします。



⇒ [スキャナとカメラ] の画面が表示されます。

4) 「fi-5530C2dj」のプロパティを表示します。

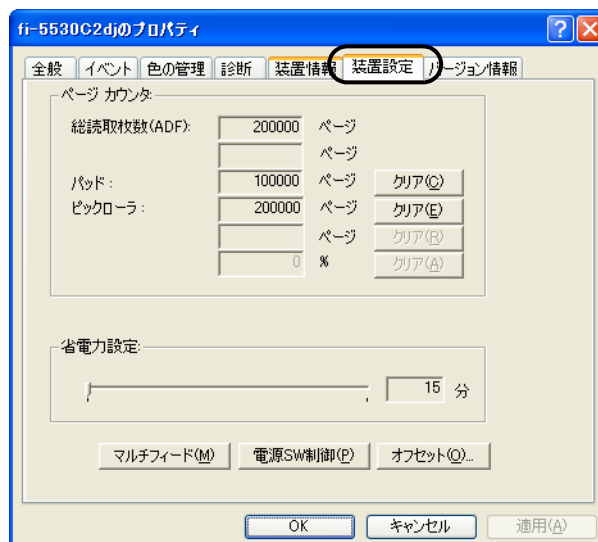


⇒ 「fi-5530C2dj のプロパティ」ダイアログボックスが表示されます。



5) 「装置設定」タブをクリックします。

⇒ 以下の画面が表示されます。



2.9 原稿の傾きを自動で補正したいとき

原稿を読み取る際 ADF 内へ原稿が傾いて送り込まれた場合は、自動で傾きを検出・補正して出力することができます。

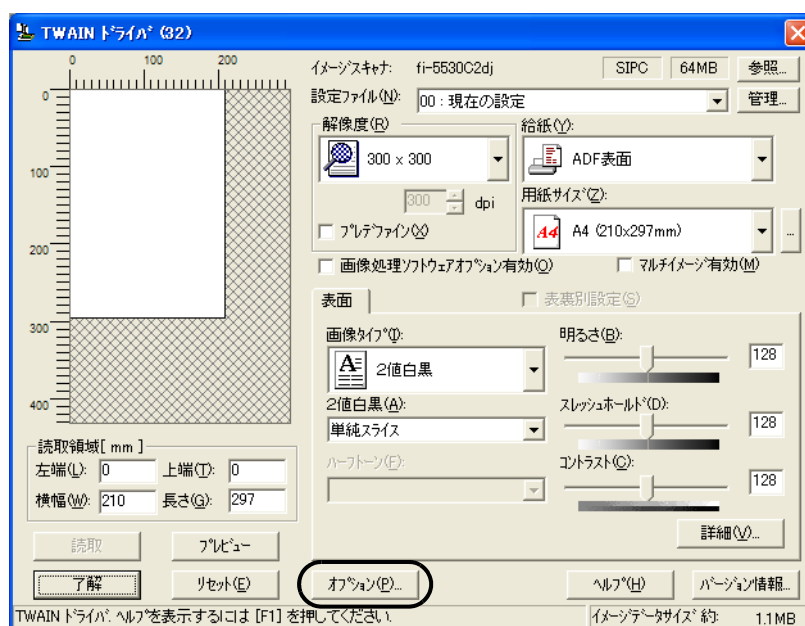
自動傾き検出の設定は、スキャナドライバで行います。

以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

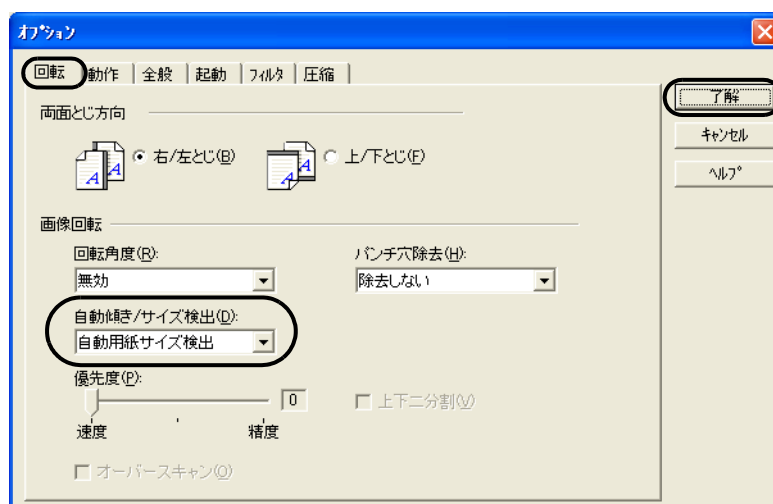
2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの [オプション] ボタンをクリックします。



⇒ [オプション] ダイアログボックスが表示されます。

3. [回転] タブをクリックします。

4. [自動傾き / サイズ検出] メニューから [自動用紙サイズ検出] を指定します。



「優先度」の設定値を変えることによって、自動用紙サイズ検出の処理精度を変更することができます。

- 原稿を読み取る際に、読み取り速度を優先させたい場合は数値を小さく、検出精度を優先させたい場合は数値を大きく設定してください。
- 仕切り用インデックスや、付箋紙、インデックスシールが含まれる原稿の用紙サイズ検出を行う場合、優先度は2を指定してください。



下記のいずれかの原稿の場合、自動用紙サイズ検出ができません。

- 厚さが 52 g/m² 以下の薄い原稿。
- 長方形でない原稿。
- 端を濃く塗りつぶした原稿。

5. [了解] ボタンをクリックします。

⇒ 「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスに戻ります。

6. 「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。

⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」 ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。

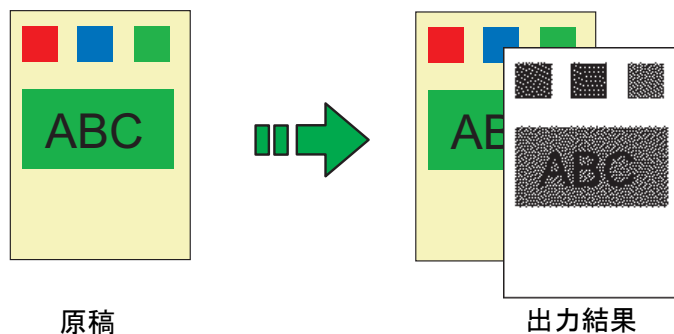
読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2.10 マルチイメージ出力したいとき

1度の読み取りで、カラー/グレースケール画像と、2値モノクロ画像の両方を出力（マルチイメージ出力）することができます。

※ アプリケーションによっては、正しく動作しない場合があります。

マルチイメージ出力の設定は、スキャナドライバから行います。



例 カラー原稿をマルチイメージ出力で読み取った場合

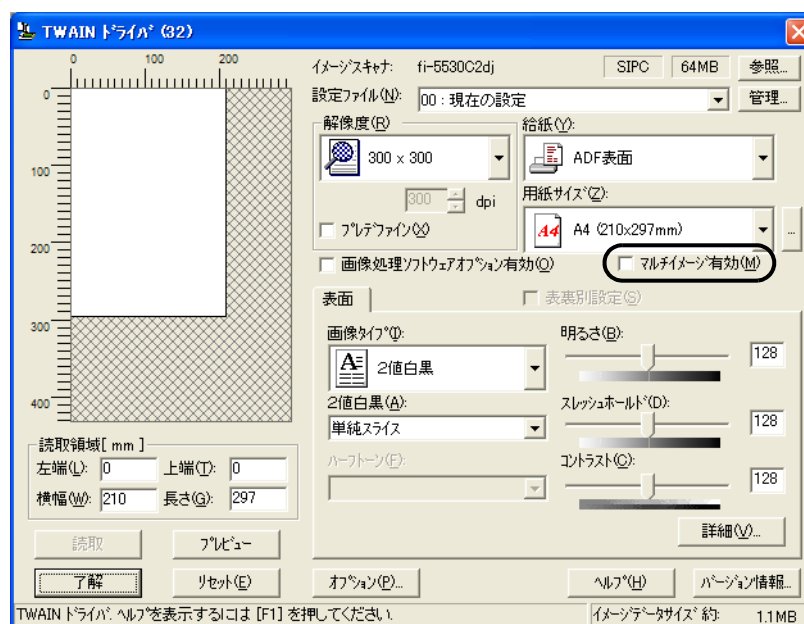
以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

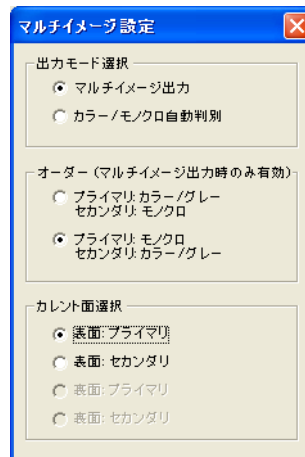
スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「マルチイメージ有効」チェックボックスをチェックします。

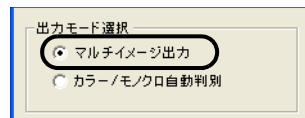
※ 給紙の設定で「長尺帳票」を選んだ場合は、このチェックボックスをチェックできません。



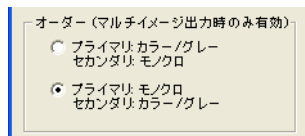
⇒ 「マルチイメージ設定」ダイアログボックスが表示されます。



3. 「出力モード選択」で、「マルチイメージ出力」を選択します。



4. 「オーダー」で、出力する順番を指定します。



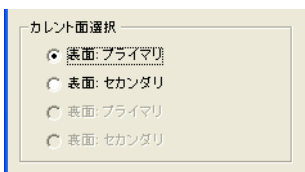
プライマリ：カラー/グレー セカンダリ：モノクロ

「カラーまたはグレースケール画像」→「2値モノクロ画像」の順に出力されます。

プライマリ：モノクロ セカンダリ：カラー/グレー

「2値モノクロ画像」→「カラーまたはグレースケール画像」の順に出力されます。

5. 「カレント面選択」で、設定する面を選んで、それぞれ、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで読み取り条件の設定を行います。



両面読み取りの場合、表面と裏面に異なる「画像タイプ」を指定することはできません。

6. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。

⇒ 設定が保存され、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2.11 カラー / モノクロを自動判別したいとき

読み取った原稿がカラー文書なのか、2値モノクロ文書なのかを判断し、カラー文書の場合はカラー（またはグレースケール）で出力し、2値モノクロ文書の場合は2値白黒で出力します。

※ アプリケーションによっては、正しく動作しない場合があります。
カラー / モノクロ自動判別の設定は、スキャナドライバから行います。

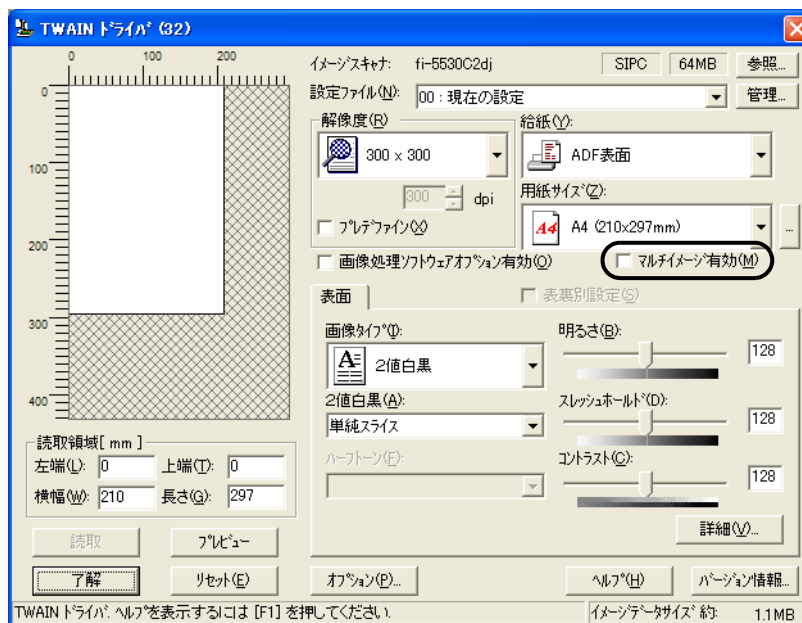
以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

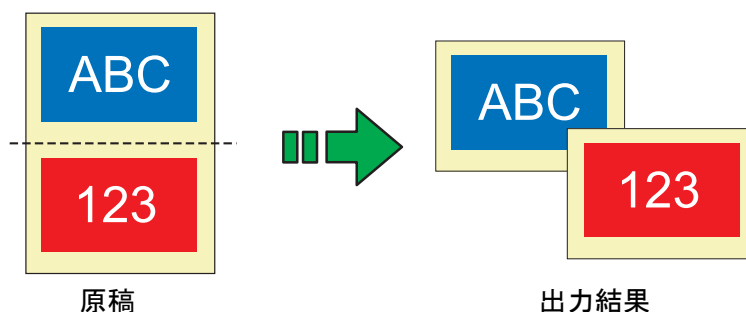
2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「マルチイメージ有効」チェックボックスをチェックします。

※ 給紙の設定で「長尺帳票」を選んだ場合は、このチェックボックスをチェックできません。



2.12 原稿を2分割して読み取りたいとき

読み取った原稿を上下に2分割して2ページ分のデータとして出力することができます。
 ※ アプリケーションによっては、正しく動作しない場合があります。
 上下分割の設定は、スキャナドライバから行います。

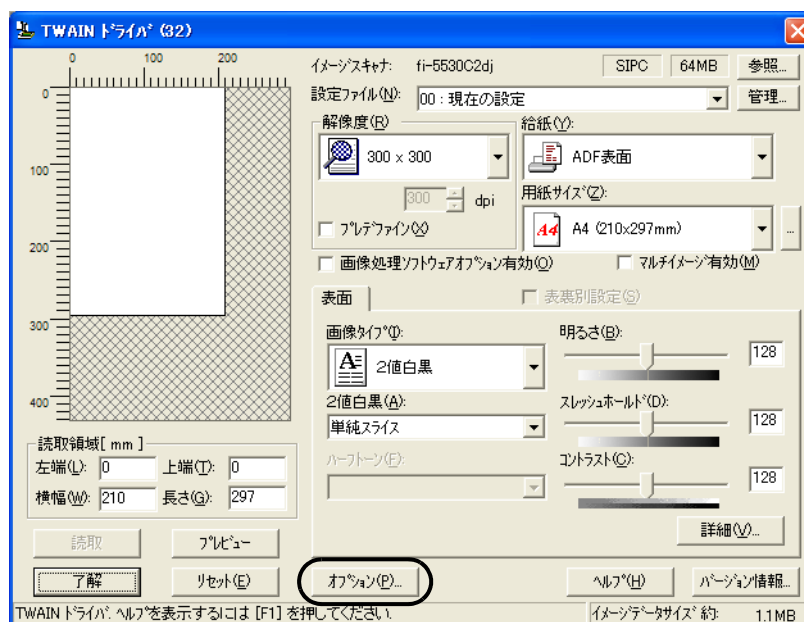


以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックします。

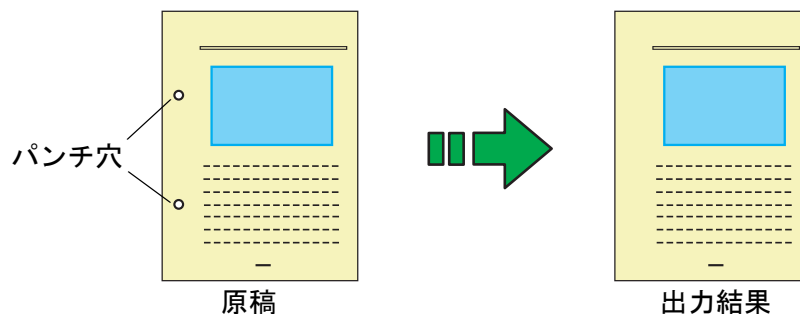


⇒ 「オプション」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「回転」タブをクリックします。

2.13 パンチ穴を除去して読み取りたいとき

パンチ穴の開けられた原稿を読み取ったときに、出力されるイメージからパンチ穴を取り除く（目立たないようにする）ことができます。
パンチ穴除去の設定は、スキャナドライバから行います。

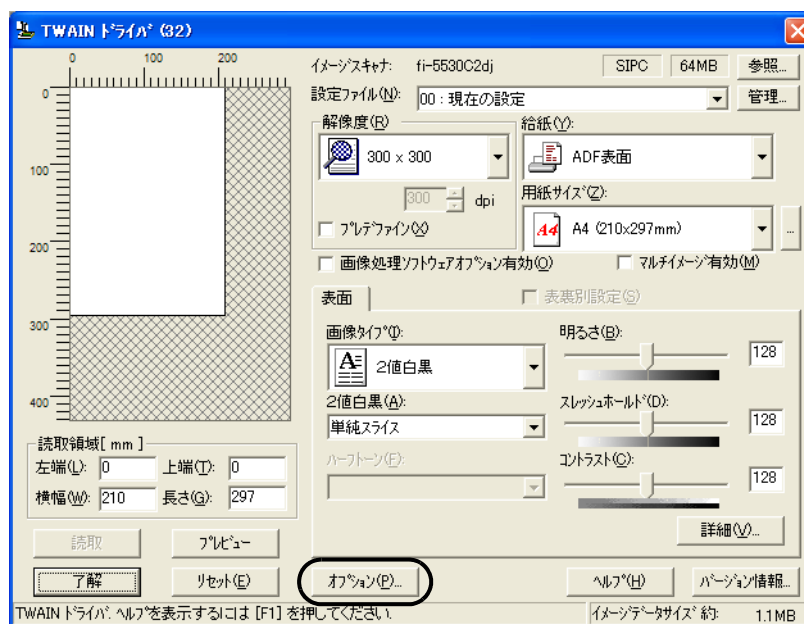


以下に、TWAIN ドライバを使用した場合の手順を示します。

1. ScandAll PRO から、TWAIN ドライバの設定画面を表示します。

スキャナドライバの設定画面を表示する方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。

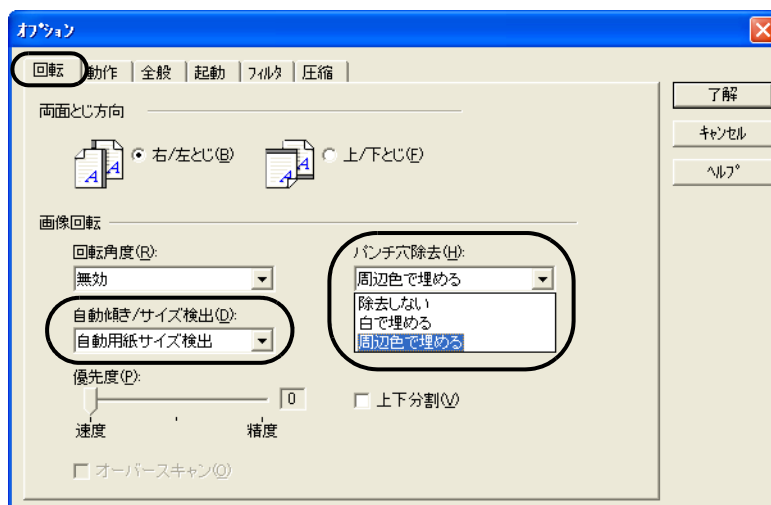
2. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスの「オプション」ボタンをクリックします。



⇒ 「オプション」ダイアログボックスが表示されます。

3. 「回転」タブをクリックします。

4. 「自動傾き／サイズ検出」で、「自動用紙サイズ検出」または「黒背景」を選択します。
「自動用紙サイズ検出」、「黒背景」以外では、パンチ穴除去機能は使用できません。



5. 「パンチ穴除去」で、「白で埋める」または「周辺色で埋める」のいずれかを選択します。

白で埋める：パンチ穴部分を白色で塗りつぶします。

周辺色で埋める：パンチ穴部分周辺で使用されている割合が高い色で塗りつぶします。

色のついた原稿を読み取る時は「周辺色で埋める」を指定してください。「白色で埋める」を選択した場合、パンチ穴部分が白い四角で塗りつぶされたように見えます。

6. [了解] ボタンをクリックします。

⇒「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスに戻ります。

7. 「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスで、[了解] ボタンをクリックします。

⇒設定が保存され、「TWAIN ドライバ」ダイアログボックスが閉じます。

続けて、ScandAll PRO から、読み取りを実行してください。

読み取り方法については、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。



以下のような場合、パンチ穴の除去ができません。

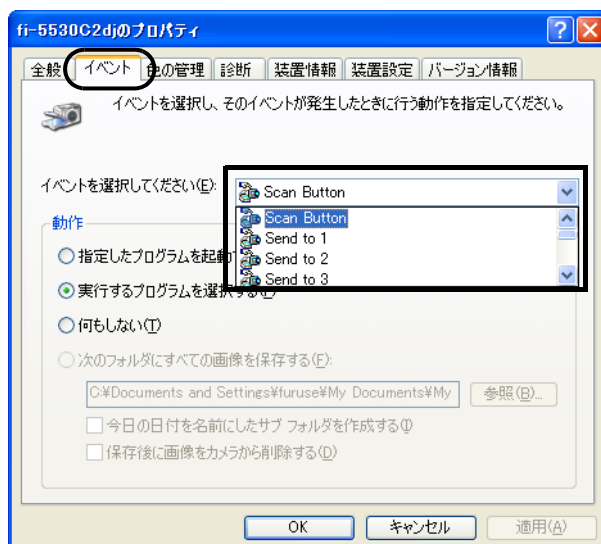
- 穴が原稿の端に沿って並んでいない場合
- 穴の大きさ、間隔が揃っていない場合
- 原稿が長方形でない場合
- 下地の色が濃い原稿の読み取りを行った場合
- 文字や絵柄が、原稿の端または穴に掛かって存在する場合
- 「自動用紙サイズ検出」を指定し、「用紙サイズ」の指定より大きな原稿の読み取りを行った場合
- 「黒背景」を指定し、「用紙サイズ」の指定と異なるサイズの原稿の読み取りを行った場合

2.14 スキャナ上のボタンから読み取りを開始したいとき

スキャナの [Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンを使用して、原稿を読み取りできます。この場合は、起動するアプリケーションを各ボタンに設定する必要があります。

以下に、手順を示します。

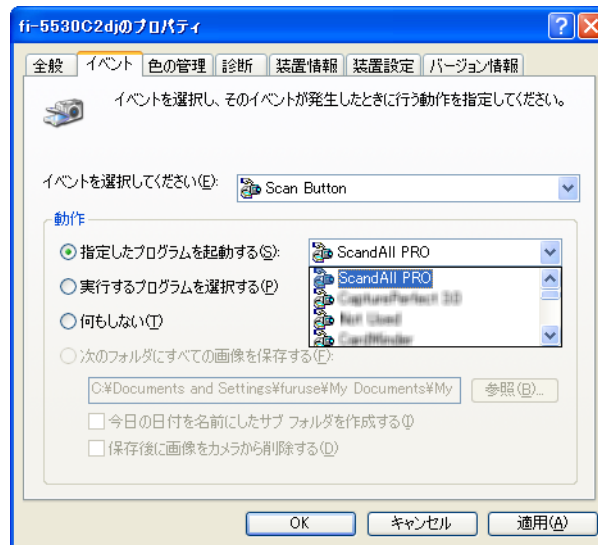
1. [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択します。
2. [スキャナとカメラ] を選択します。
3. 「fi-5530C2dj」のプロパティを表示します。
4. [イベント] タブを選択します。
5. イベントとして、任意のボタンを選択します。
Windows XP の場合は、[イベントを選択してください] のメニューから、アプリケーションを起動するイベントを選択します。



以下のイベントを選択できます。

- Scan Button ([Scan] ボタンを押す)
- Send to 1~9(ファンクションナンバーディスプレイに1~9の数字を表示させた状態で [Send to] ボタンを押す)

6. イベントで起動するアプリケーションと実行する処理を選択します。
Windows XP の場合は、[動作] の下の [指定したプログラムを起動する] を選択して、右のメニューからアプリケーションを選択します。



7. [OK] をクリックします。

ScandAll PRO を使用する場合、ScandAll PRO ユーザーズガイドを参照してください。
ScandAll PRO 以外のアプリケーションを使用する場合、コンピュータ側の設定はこれで終了です。



ヒント

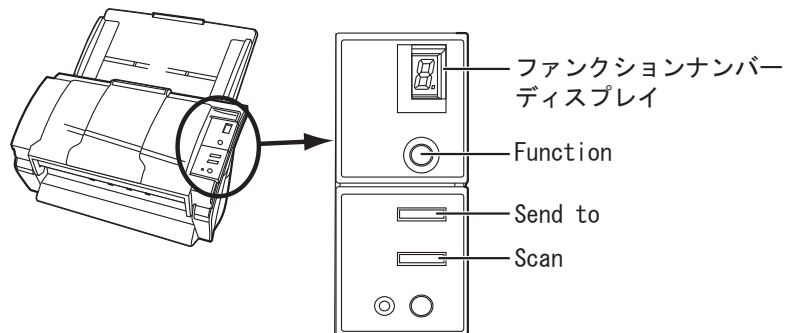
複数のボタンを設定する場合は、**手順 3 ~ 手順 7** を繰り返します。



ヒント

[Send To] ボタンを使う場合は、以下の手順で行います。

1. [Function] ボタンを押して、ファンクションナンバーディスプレイの数字を切り替えます。
2. **手順 5** で選択したイベント (Send to 1 ~ 9) と数字を合わせます。
3. [Send To] ボタンを押します。



第3章

3

日常のお手入れ

この章では、スキヤナの清掃方法について説明します。





装置使用時は ADF 内部のガラスは高温になります。内部の清掃を行うときは、電源を切断し、AC アダプターをコンセントから抜いてから、15 分以上待って行ってください。フィードローラと排出ローラの清掃をするときは、電源を投入した状態で行います。

3.1 清掃用品および清掃が必要な箇所.....	62
3.2 ADF を清掃します.....	64

3.1 清掃用品および清掃が必要な箇所

■ 清掃用品

清掃用品	型名	備考
クリーナ F1 	FI-C100CF1 (*1)	1 ボトル 布にしみこませて清掃します。(*2)
クリーニングワイプ 	FI-C100CW	1 箱 (24 袋入り) クリーニングワイプは、クリーナ F1 をしみこませたウェットティッシュタイプのクリーナです。クリーナ F1 を布にしみこませる代わりに、本品を使用することができます。(*2)
乾いた布	市販のもの	
ScanAid (*3)	FI-553SA	- (*2)

*1) 大量に使用するとなかなか乾かない場合があります。適量を布にしみこませて使用してください。また、清掃箇所にクリーナ液が残らないように柔らかい布で本剤をよく拭き取ってください。

*2) 清掃用品の詳細については、スキャナをご購入された販売会社、または株式会社 PFU PFU ダイレクトにお問い合わせください。(RM-3 ページ参照)

*3) ScanAid の詳細については、「7.1 装置基本仕様」(116 ページ) を参照してください。

■ 清掃箇所と頻度

清掃箇所	清掃頻度 (目安)
パッドユニット	5,000 枚読み取りごとに清掃してください。
ピックローラ	
フィードローラ	
プラスチックローラ	
排出ローラ	
シートガイド	
ガラス	
超音波センサー	



以下のような原稿を使用している場合は、頻繁に清掃する必要があります。

- コート紙のように表面が滑らかな原稿
- ほぼ全面に印刷されている原稿
- ノーカーボン紙のように化学物質で加工してある原稿
- カルシウムを多く含む原稿
- 鉛筆書きの原稿を多数読み取る場合
- トナーが十分定着していない原稿

3.2 ADF を清掃します

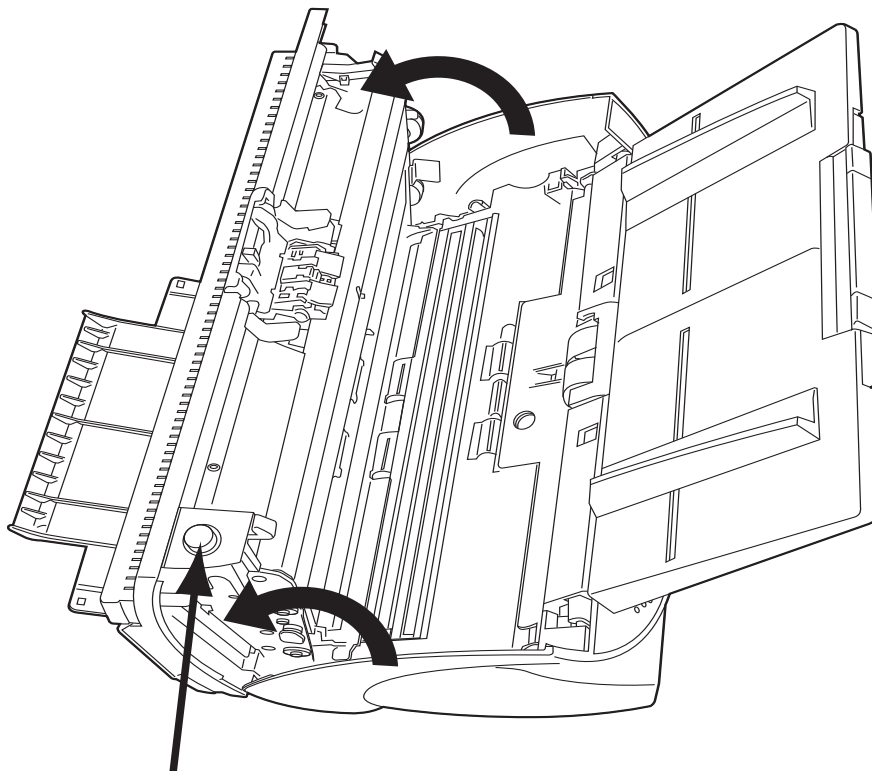
清掃は、目安として 5,000 枚読み取りごとに行ってください。ただし、この目安は読み取る原稿によって変わります。たとえば、トナーが十分定着していない原稿の場合、より少ない枚数で清掃が必要となることがあります。



装置使用時は ADF 内部のガラスは高温になります。内部の清掃を行うときは、電源を切断し、AC アダプターをコンセントから抜いてから、15 分以上待って行ってください。フィードローラと排出ローラの清掃をするときは、電源を投入した状態で行います。

■ 清掃方法

1. ADF ボタンを押しながら ADF カバーを前面側に倒して、ADF を開きます。

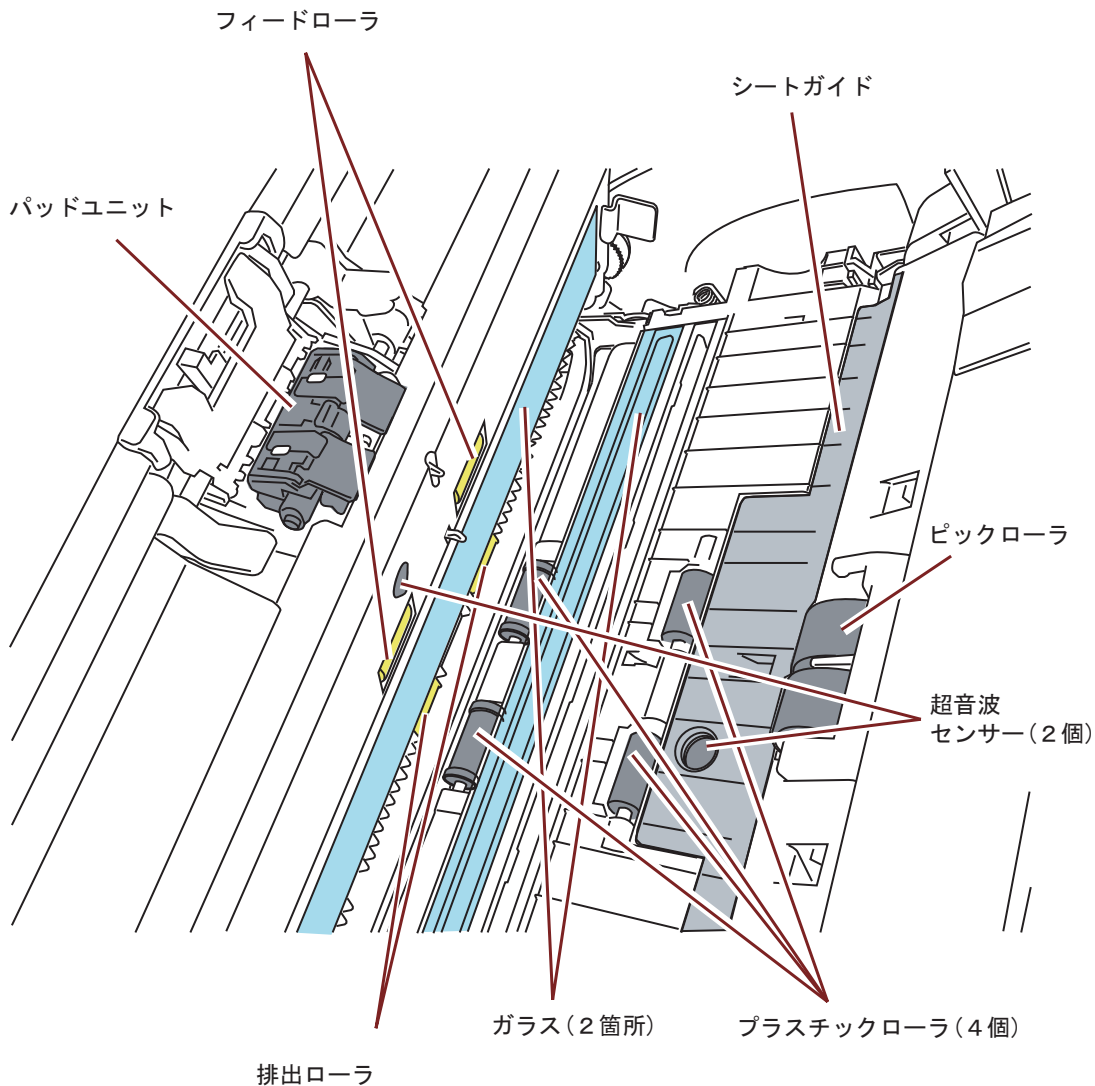


ADF ボタン

**注意**

ADF カバーが閉まり、指などを挟むおそれがあります。ご注意ください。

2. クリーナ F1 を浸した布で、以下の場所を清掃します。



3

日常のお手入れ

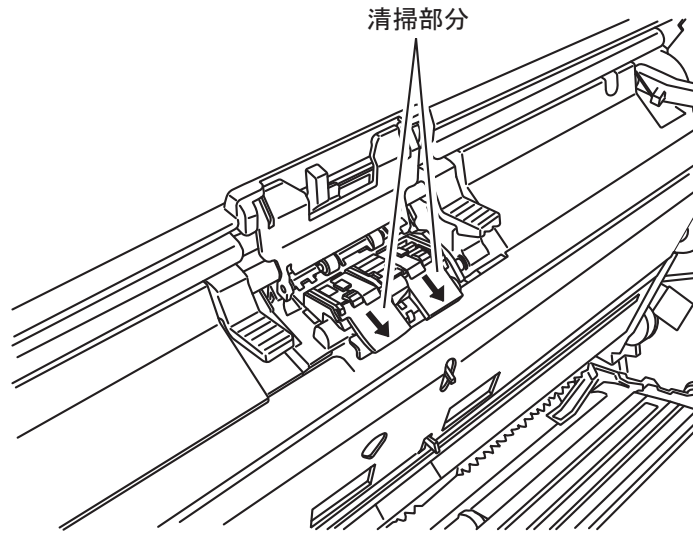


まっけて!

大量に使用するとなかなか乾かない場合があります。適量を布にしみこませて使用してください。また、清掃箇所にクリーナ液が残らないように柔らかい布で本剤をよく拭き取ってください。

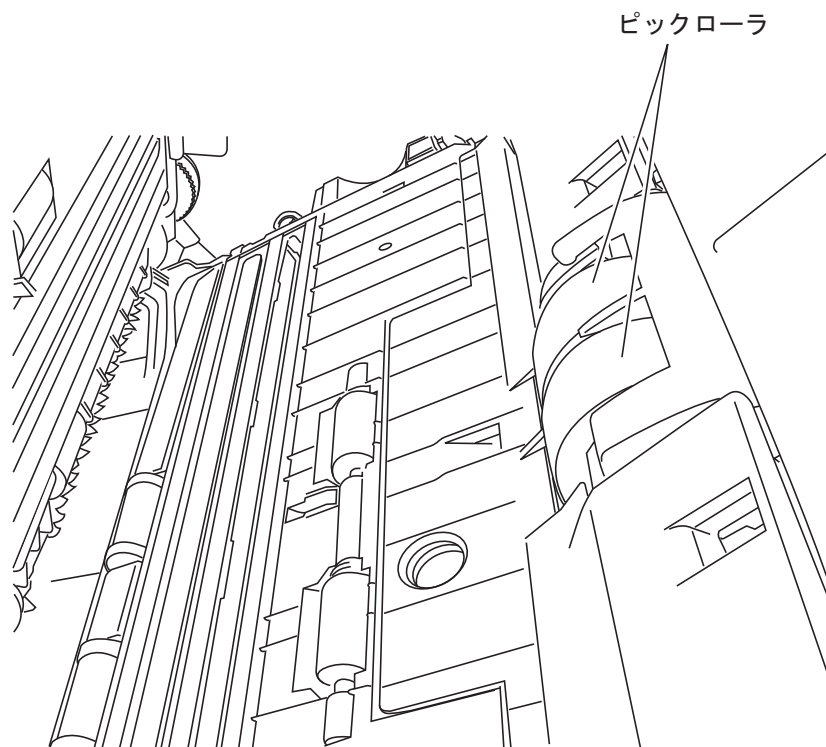
●パッドユニット

上から下に向かって（矢印の方向）清掃します。



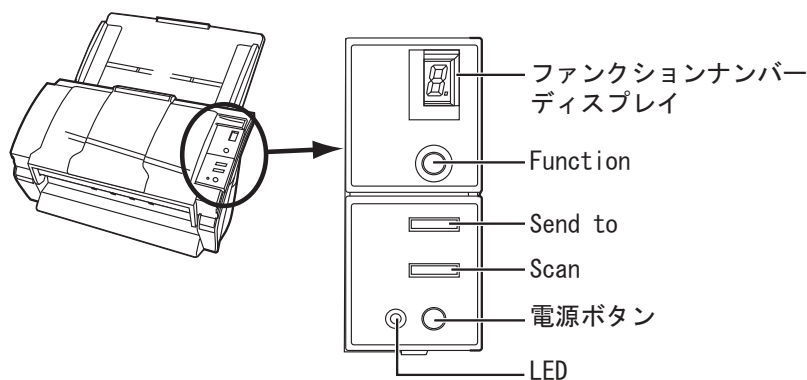
●ピックローラ

ローラの表面をいためないように、軽く清掃します。特に黒い異物が付着している場合、給紙性能に影響がでますので、十分に清掃をしてください。



●フィードローラ / 排出ローラ

- 1) 電源を入れた状態で、操作パネルの表示が「P」または「0」以外の表示のときに ADF を開いてください。
なお、「P」や「0」の表示状態で ADF のカバーを開き、操作 2) を行ってもフィード / 排出ローラが回転しません。
- 2) 操作パネルの「Send to」ボタンと「Scan」ボタンを同時に押し、一定量フィード / 排出ローラが回転します。
- 3) クリーナ F1 を浸した布をローラ表面に押し当て、ローラを回転させながらローラの表面を軽く清掃します。
なお、目安として、「Send to」ボタンと「Scan」ボタンを同時に 7 回押し、フィード / 排出ローラが 1 回転します。



注意

手順 2) でローラを回転させると、フィードローラ及び排出ローラが同時に回転します。
排出ローラを清掃する場合、フィードローラに手が触れないように、フィードローラを掃除する場合は排出ローラに手が触れないように注意してください。

●プラスチックローラ

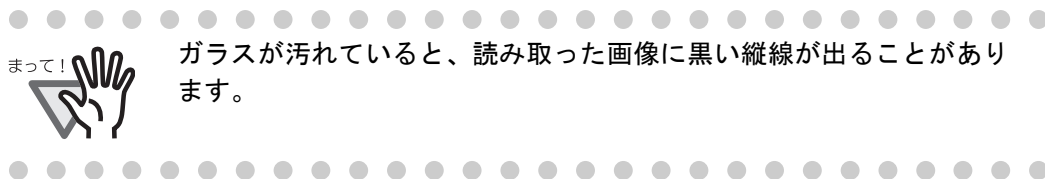
ローラの表面を荒らさないように、軽く清掃します。特に黒い異物が付着している場合、給紙性能に影響がでますので、清掃を十分に行ってください。この時、プラスチックローラの横に取り付けてあるスポンジを傷めないように注意してください。

●シートガイド

軽く清掃します。

●ガラス

軽く清掃します。



第4章

消耗品を交換します

この章では、スキャナの消耗品の交換について説明します。

この章では、Windows XP の画面を例に説明しています。

お使いの OS によって表示される画面、および操作が多少異なります。

また、TWAIN ドライバをアップデートすると、この章で記載している画面、および操作が多少異なることがあります。

その場合は、アップデート時に提供される取扱説明書を参照してください。



装置使用時は ADF 内部のガラスは高温になります。消耗品の交換を行うときは、電源を切断し、AC アダプターをコンセントから抜いてから、15 分以上待って行ってください。

4.1 消耗品の番号と交換周期.....	70
4.2 パッドユニットを交換します.....	73
4.3 ピックローラを交換します.....	76

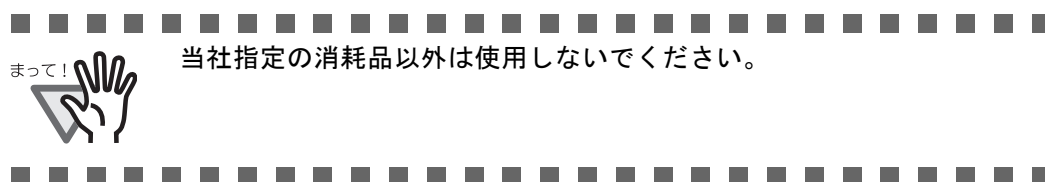
4.1 消耗品の番号と交換周期

以下に、消耗品の型名と交換周期の目安を示します。

品名	仕様	型名	交換周期（目安）
パッドユニット	PA03334-0002	FI-C553P	10 万枚または 1 年ごと
ピックアップユニット	PA03334-0001	FI-C553PR	20 万枚または 1 年ごと
ScanAid (*1)	-	FI-553SA	-

*1) ScanAid の詳細については、「7.1 装置基本仕様」（116 ページ）を参照してください。

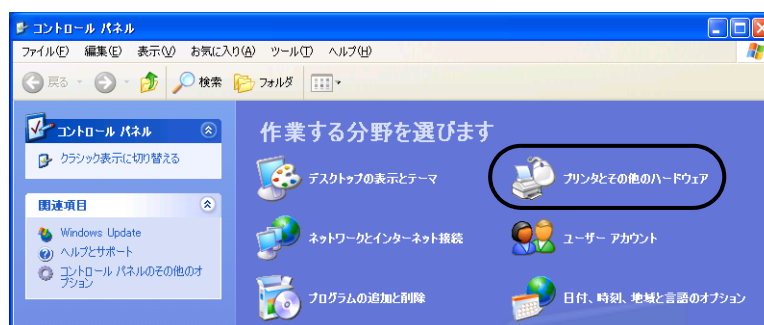
交換周期は、A4 原稿 (80 g/m²) の上質紙、または中質紙を使用した場合の目安であり、使用する原稿、お客様の使用頻度、および清掃の頻度によって異なります。



■ 消耗品交換の目安

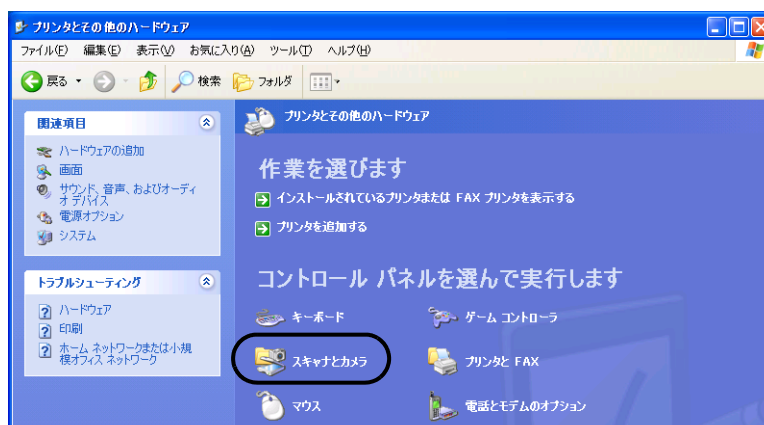
本装置では、消耗品交換の目安、および使用回数を知ることができます。

- 1) スキャナの電源を投入し、スキャナとパソコンが接続されていることを確認します。スキャナとパソコンの接続については、「fi-5530C2 スタートアップガイド」の「2.2 スキャナとパソコンを接続します」を参照してください。
- 2) パソコンのコントロールパネル内にある「プリンタとその他のハードウェア」のアイコンをダブルクリックします。



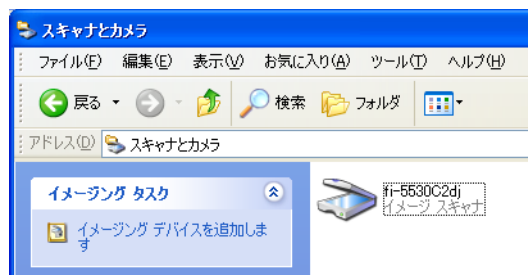
⇒ 「プリンタとその他のハードウェア」の画面が表示されます。

- 3) [プリンタとその他のハードウェア] の画面で、「スキャナとカメラ」のアイコンをダブルクリックします。



⇒ [スキャナとカメラ] の画面が表示されます。

- 4) 「fi-5530C2dj」のプロパティを表示します。

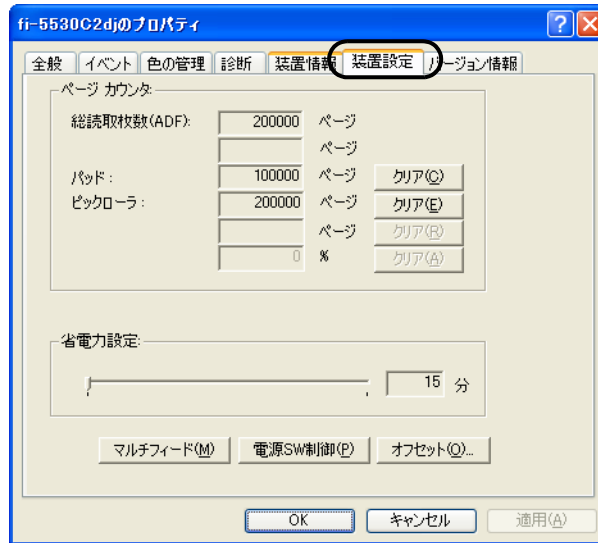


⇒ [fi-5530C2dj のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。



5) 「装置設定」タブをクリックします。

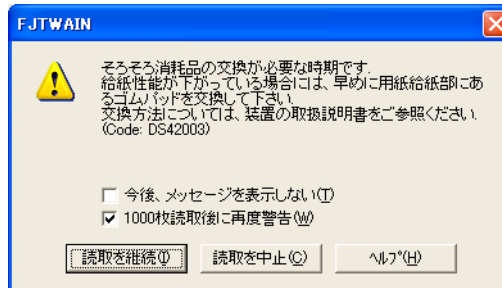
⇒ 以下の画面が表示されます。



この画面では、以下のことが表示されます。

- 総読み取り枚数
- パッド（パッドユニットを交換してから読み取った、原稿の概算枚数）
- ピックアップ（ピックアップユニットを交換してから読み取った、原稿の概算枚数）
- インク残量（インプリンタを接続時のみインプリンタのインク残量表示）

なお、スキャナを使用していると、以下のようなメッセージが表示されることがあります。

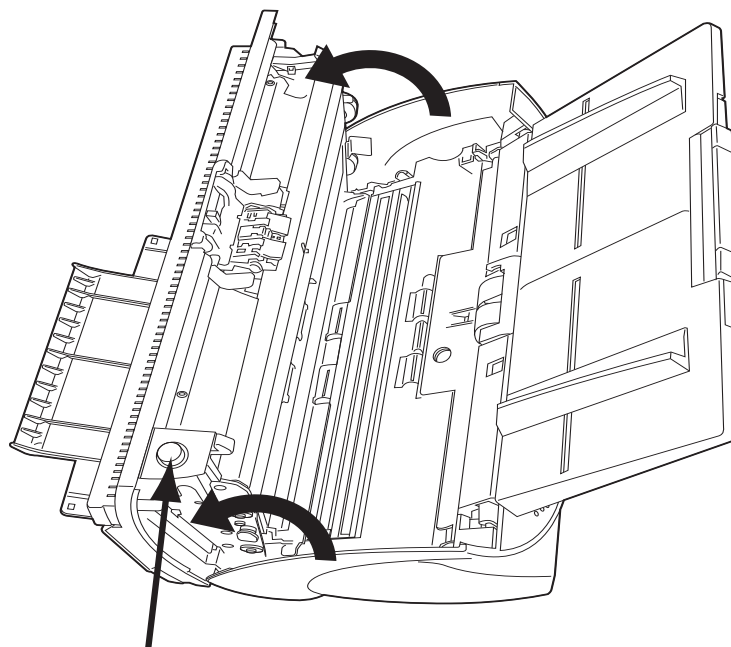


このメッセージが表示されたら、消耗品を交換してください。

[読取を継続] ボタンを押すと、このメッセージが消え読み取りが続けられます。なるべく早い内にメッセージに表示された消耗品を交換してください。通常（デフォルト設定）の場合 1,000 枚読み取り後に再度このメッセージが表れます。このメッセージを次の消耗品交換まで表示したくない場合は「今後、メッセージを表示しない」をチェックします。読取を中止して消耗品を交換する場合は、[読取を中止] ボタンを押します。

4.2 パッドユニットを交換します

1. ADF 給紙シュートに原稿がある場合は、原稿を取り除きます。
2. ADF ボタンを押しながら ADF カバーを前面側に倒して、ADF を開きます。

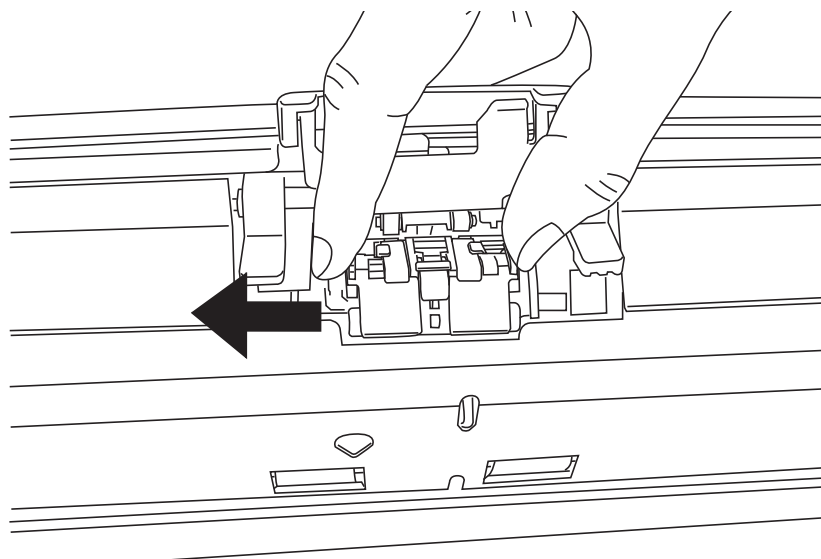


ADFボタン

**注意**

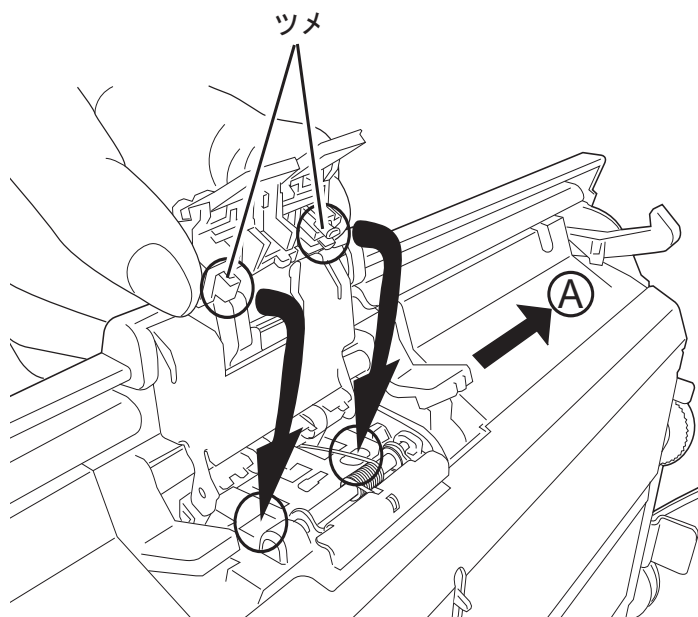
ADF カバーが閉まり、指などを挟むおそれがあります。ご注意ください。

3. パッドユニットをスキャナから取り外します。
パッドユニットの上部を押しながらか矢印の方向にスライドさせて取り外します。



4. 新しいパッドユニットを取り付けます。

パッドユニットのツメを ADF の穴にあわせませす。

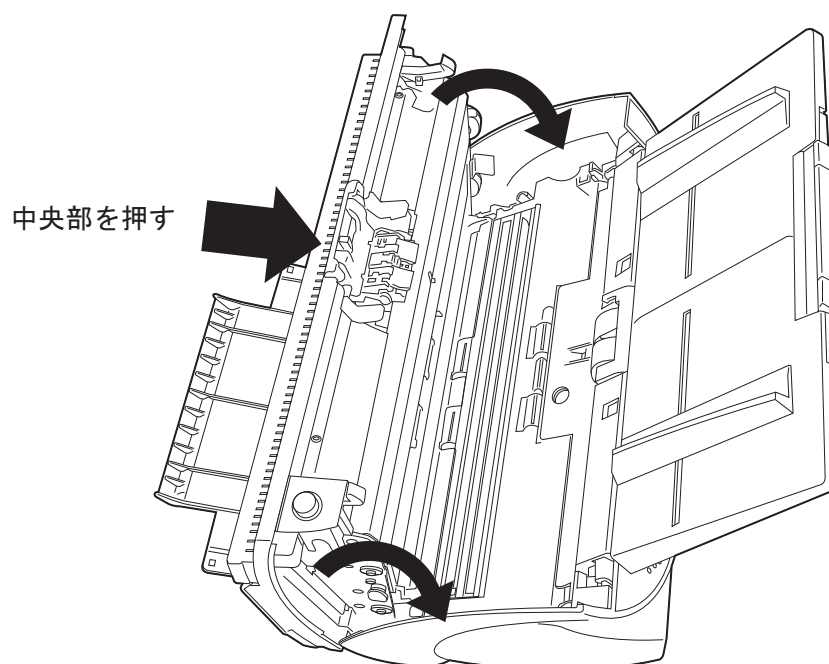


上部を押しながら「A」の方向にずらして取り付けます。



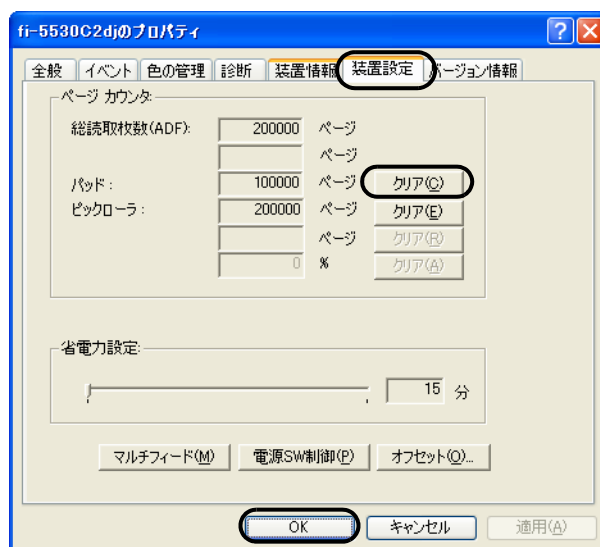
パッドユニットが完全に取り付けられていることを確認してください。完全に取り付けられていないと、原稿づまりなどの給紙エラーを起こすおそれがあります。

5. ADF のカバー中央部を押して元の位置に戻し、ロックします。

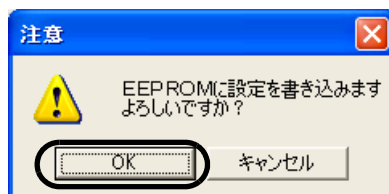


6. パッドカウンタをリセットします。

- 1) スキャナの電源を投入し、スキャナとパソコンが接続されていることを確認します。
- 2) ホストコンピュータのコントロールパネル内より [スキャナとカメラ] を選択します。
- 3) fi-5530C2dj のプロパティを開きます。
⇒ [fi-5530C2dj のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4) [装置設定] タブをクリックします。
⇒ 以下の画面が表示されます。



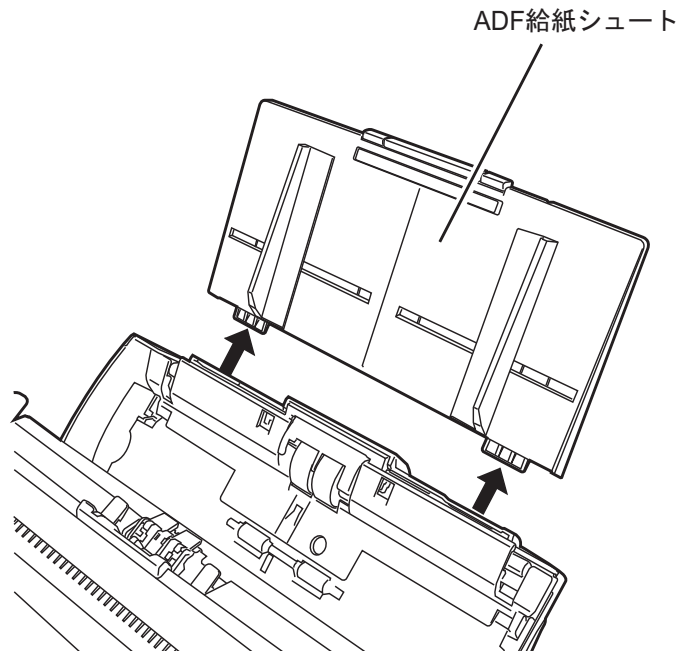
- 5) 「ページカウンタ」内の「パッド」の横の [クリア] ボタンをクリックした後、[OK] ボタンをクリックします。
⇒ 以下の画面が表示されます。



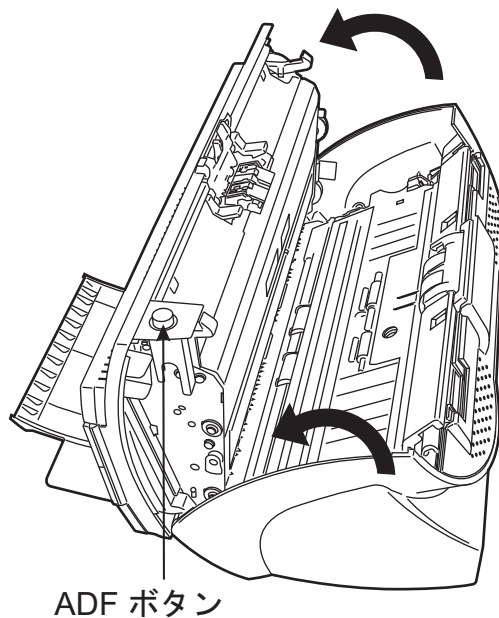
- [OK] ボタンをクリックします。
これでパッドカウンタが0に戻ります。

4.3 ピックローラを交換します

1. ADF 給紙シュートに原稿がある場合は、原稿を取り除きます。
2. ADF 給紙シュートを取り外します。



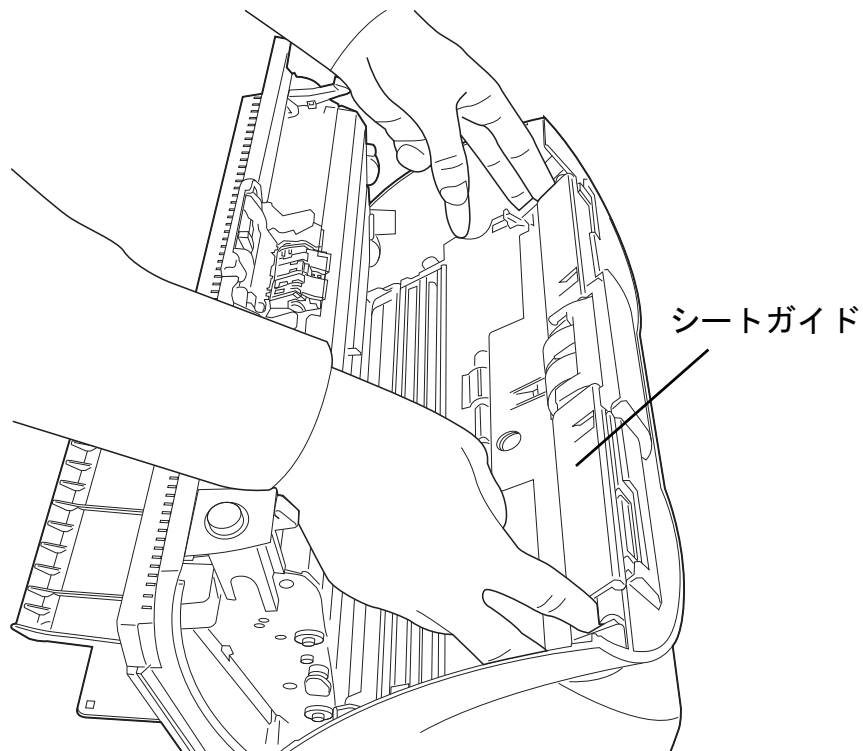
3. ADF ボタンを押しながら ADF カバーを前面側に倒して、ADF を開きます。



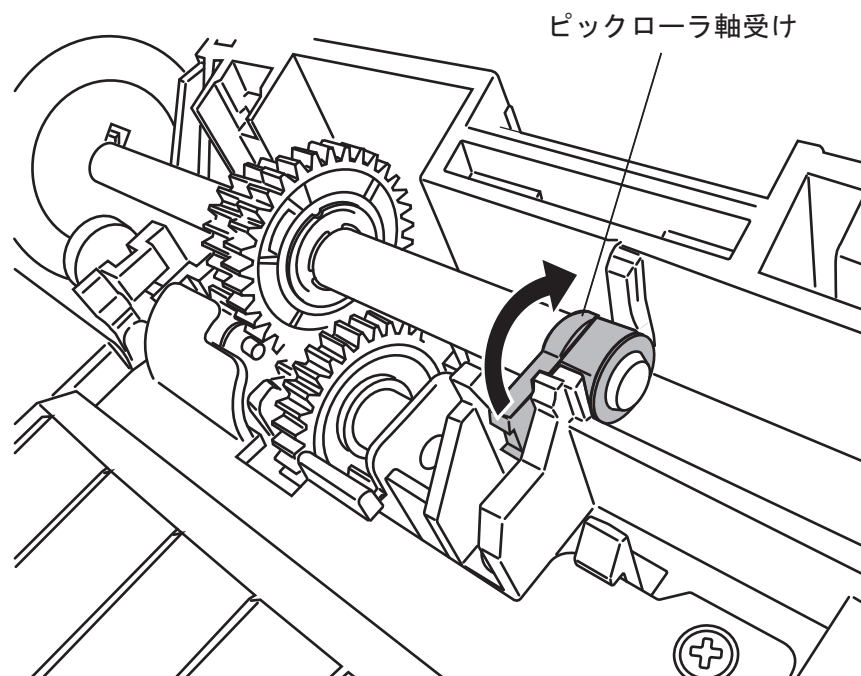
ADF カバーが閉まり、指などを挟むおそれがあります。ご注意ください。

4. ピックローラをスキャナから取り外します。

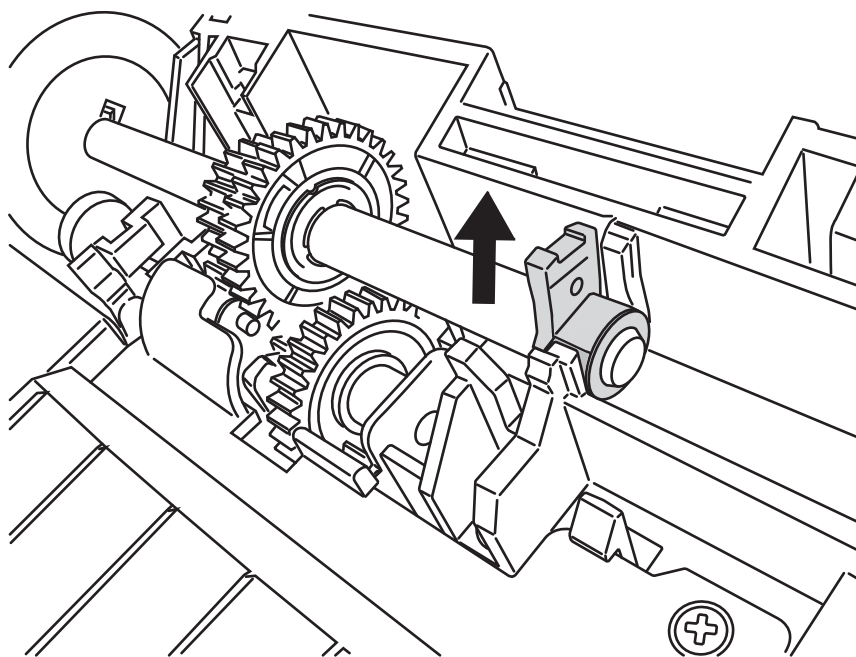
- 1) シートガイドのツメをつまんで上に持ち上げながら、シートガイドを取り外します。



- 2) ピックローラ軸受けを、矢印の方向に回転させます。



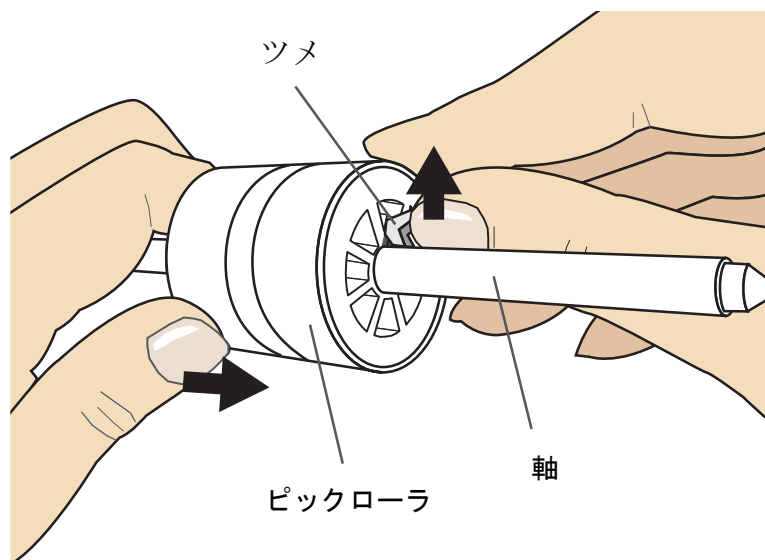
3) 矢印の方向に持ち上げながら取り外します。



⚠ 注意

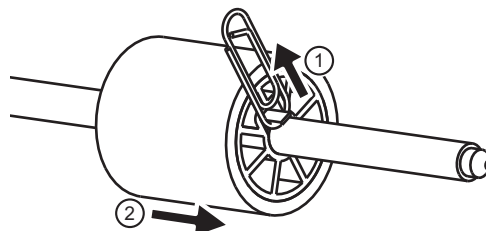
ピックローラ軸受けは堅いため、指の爪でピック軸受けを回転させることはおやめください。指でうまく回転させることができない場合は、クリップなどを使って回転させてください。

5. ピックローラのツメを持ち上げながら、ピックローラを軸から取り外します。



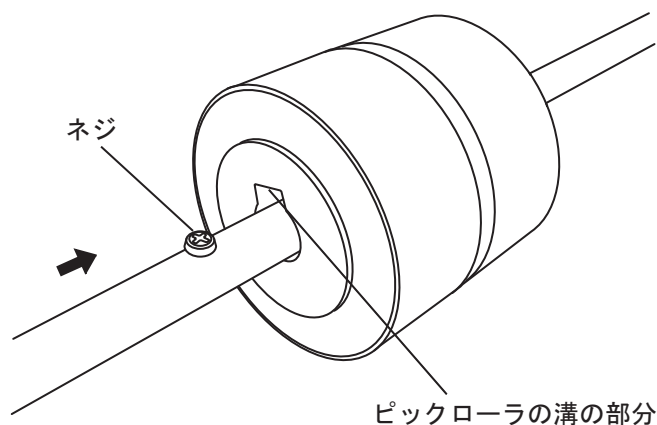
注意

指の爪を使って持ち上げると、指の爪が傷ついたり、欠けたりする可能性があります。指でうまく持ち上げられない場合は、クリップなどを使ってピックローラのツメを持ち上げてください。

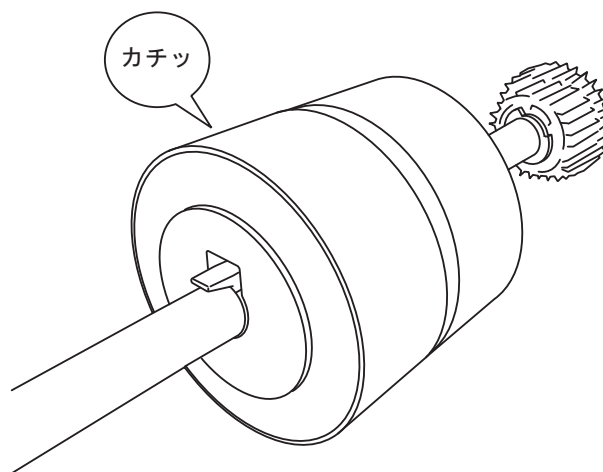


6. 新しいピックローラを取り付けます。

ピックローラのツメを持ち上げながら、ネジとピックローラの溝を合わせて差し込みます。



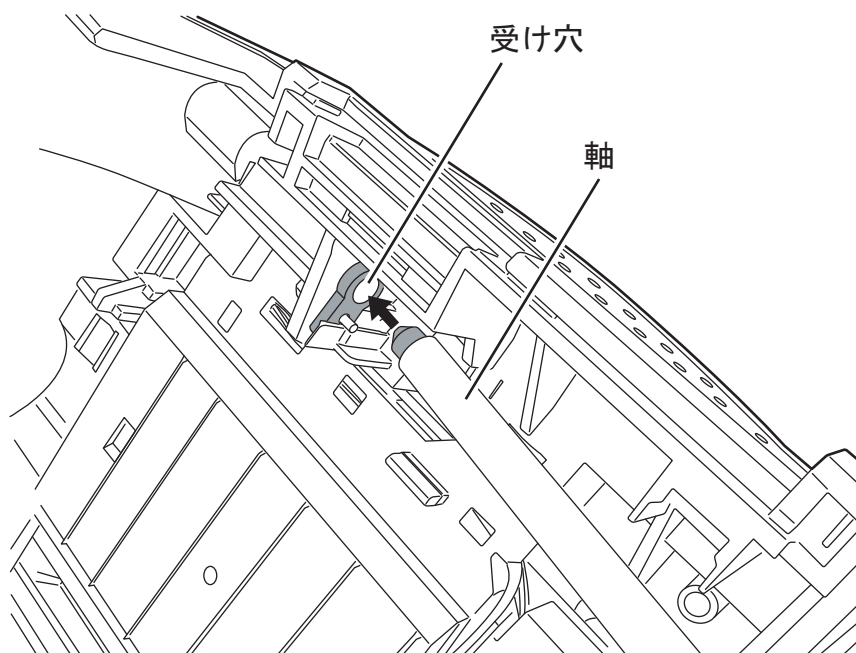
ピックローラは取り付ける時、「カチッ」という音になります。音がなるように取り付けてください。



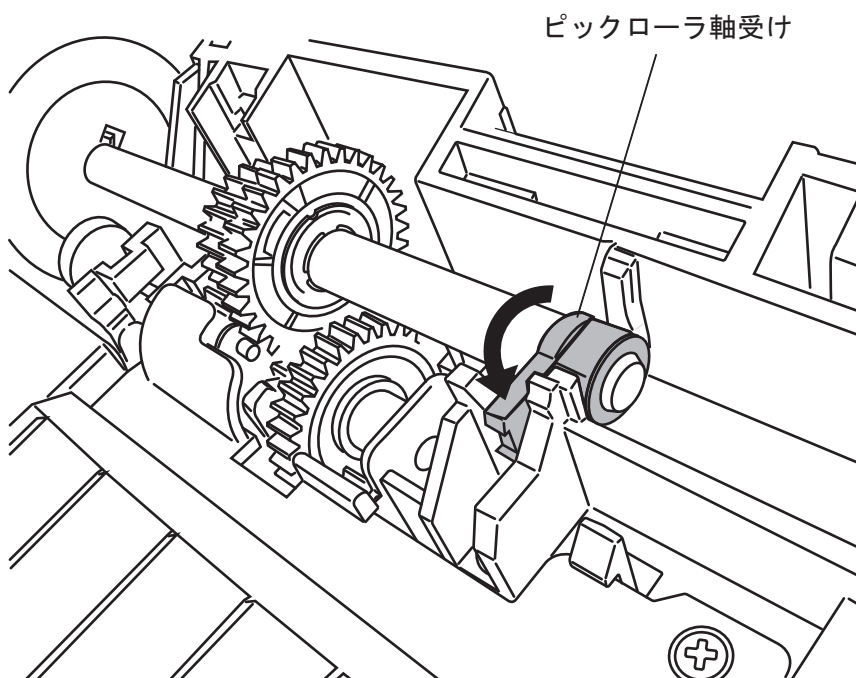
7. ピックローラをスキヤナに取り付けます。

ピックローラをスキヤナから取り外した手順の逆の手順で行います。

- 1) 軸を、受け穴に差し込み、正しい位置にはめ込みます。

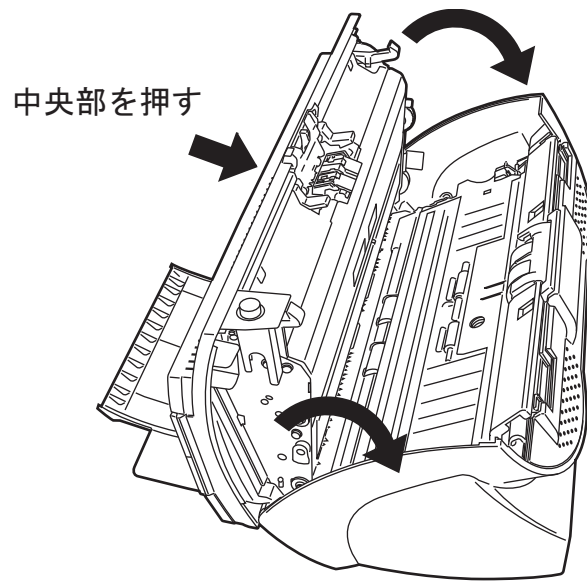


- 2) ピックローラ軸受けを矢印の方向に回転させます。

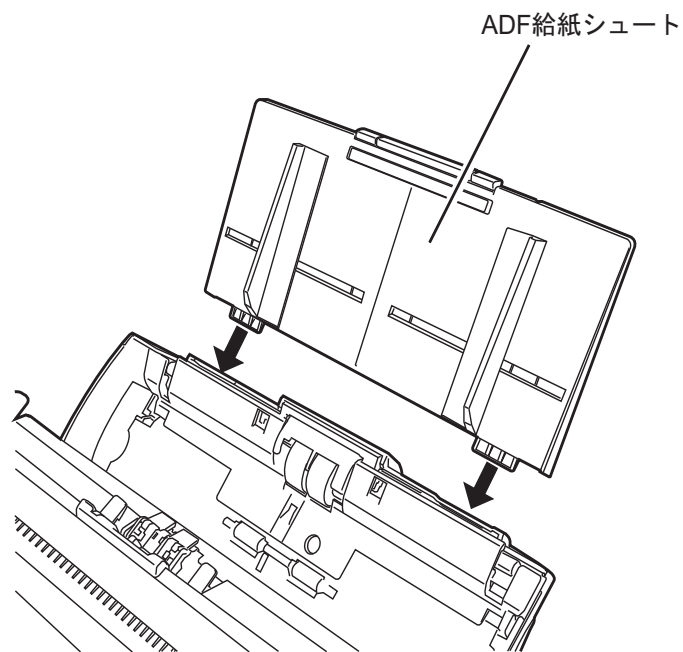


- 3) シートガイドを取り付けます。

8. ADF のカバーの中央を押して元の位置に戻し、ADF ボタンをロックします。

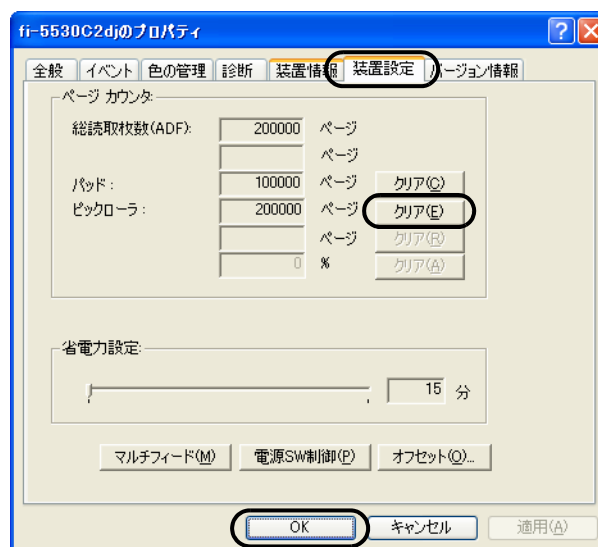


9. ADF 給紙シュートを取り付けます。

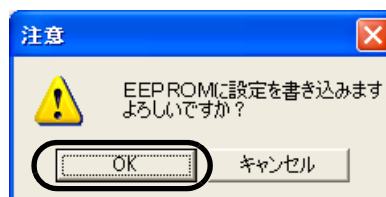


10. ピックカウンタをリセットします。

- 1) スキャナの電源を投入し、スキャナとパソコンが接続されていることを確認します。
- 2) ホストコンピュータのコントロールパネル内より [スキャナとカメラ] を選択します。
- 3) fi-5530C2dj のプロパティを開きます。
⇒ [fi-5530C2dj のプロパティ] ダイアログボックスが表示されます。
- 4) 「装置設定」タブをクリックします。
⇒ 以下の画面が表示されます。



- 5) 「ページカウンタ」内の「ピックアップ」の横の [クリア] ボタンをクリックします。次に、[OK] ボタンをクリックします。
⇒ 以下の画面が表示されます。



[OK] ボタンをクリックします。
これでピックアップカウンタが0に戻ります。

第5章

困ったときには

この章では、原稿づまりの対処方法、トラブルの対処方法、サービスセンターに連絡する前にお調べいただきたい項目、および装置ラベルの確認方法について説明します。

5.1 原稿づまりが発生したときは.....	84
5.2 ファンクションナンバーディスプレイのエラー表示.....	86
5.3 困ったときには.....	88
5.4 サービスセンターに連絡する前に.....	101
5.5 装置ラベルの確認.....	103

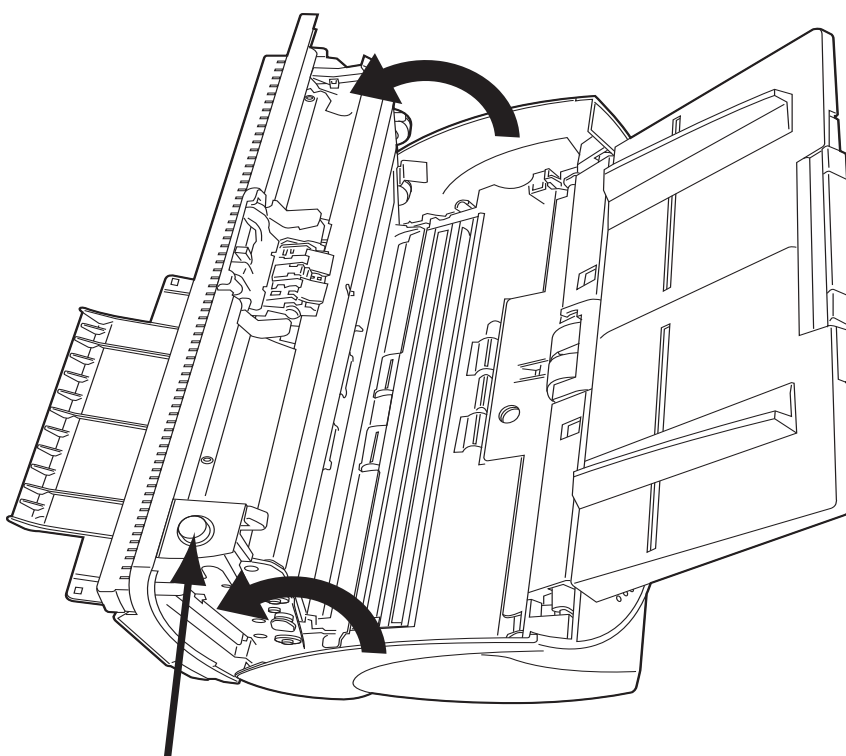
5.1 原稿づまりが発生したときは

原稿がつまった場合は、以下の要領で取り除いてください。

注意

- つまった原稿を取り除くときは、ケガをしないように注意してください。
- つまった原稿を取り除くときは、ネクタイやネックレスなどがスキャナ内部に巻き込まれないように注意してください。
- ガラスが高温になっている場合があります。やけどしないように注意してください。

1. ADF 給紙シュートの上にある原稿を取り除きます。
2. ADF ボタンを押しながら ADF カバーを前面側に倒して、ADF を開きます。



ADFボタン

注意

ADF カバーが閉まり、指などを挟むおそれがあります。ご注意ください。

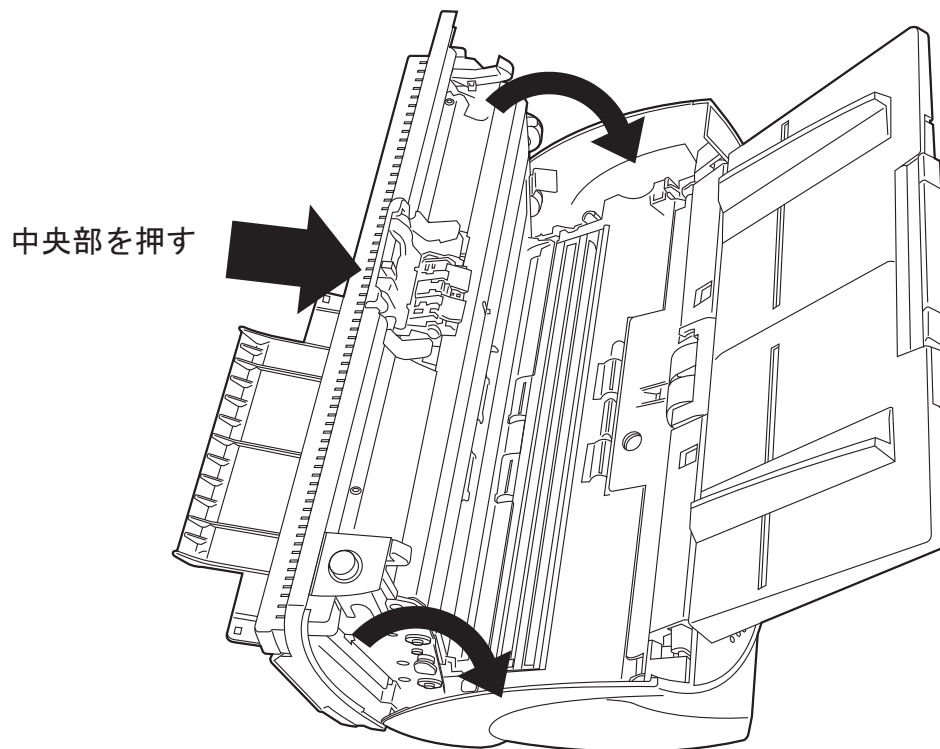
3. つまっている原稿を取り除きます。



- ステープラーの針やクリップなどは原稿づまりの原因となりますので、原稿と搬送路をよく調べて必ず取り除いてください。また、読み取りを行う前に、ステープラーの針やクリップなどは必ず原稿から取り外してください。
- つまった原稿を取り外すときに、ピックパネを引っ張らないように注意してください。



4. ADF の中央を押して元の位置に戻し、ADF ボタンをロックします。



- ADF が完全に閉じていることを確認してください。完全に閉じられていないと原稿づまりや読み込み不良を起こすおそれがあります。
- 読み取り終了時もしくは読み取りをキャンセルしたとき、エラーメッセージが表示されずに原稿が ADF の内部に残る場合があります。原稿が ADF 内部に残った場合は、以下手順にしたがって取り除いて下さい。
 1. ADF 給紙シュートの上にある原稿を取り除きます。
 2. ADF ボタンを押しながら ADF カバーを前面側に倒して、ADF を開きます。
 3. 残っている原稿を取り除きます。
 4. ADF の中央を押してもとの位置に戻し、ADF ボタンをロックします。



5.2 ファンクションナンバーディスプレイのエラー表示

スキャナにトラブルが発生すると、一時的なエラーの場合「U」と数字が、装置異常の場合「E」と数字がそれぞれ交互に、ファンクションナンバーディスプレイに表示されます。一時的なエラーは、お客様による復旧が可能です。装置異常は、専門のサポートエンジニアによる復旧作業が必要となります。

お使いのパソコンに Error Recovery Guide がインストールされている場合、Windows の起動と同時に Error Recovery Guide のウィンドウが表示されます。エラーや装置異常が発生すると、エラーの名称やコード番号などの関連情報が、Error Recovery Guide の画面に表示されます。画面に表示される情報を書き留めて、[詳細] ボタンを押し、対処方法を確認してください。

■ 一時的エラー :

以下の "U" と数字が交互に表示されます。

表示	項目	対処法
U1	原稿づまりが発生しました。	1. つまった原稿を取り除いてください。 (「5.1 原稿づまりが発生したときは」 (84 ページ) を参照してください。) 2. 読み取る原稿が ADF での読み取りに適しているかを確認してください。 (「6.2 原稿の紙質」(107 ページ) を参照してください。)
U2	マルチフィードが発生しました。	操作パネルにある [Send to] ボタンを押します。マルチフィードされた紙が排出されます
U6	プリントカートリッジがセットされていません。	インプリンタオプション (別売) 関連の一時的エラーです。 詳細は、「fi-553PR / fi-553PRFR インプリンタオペレーターガイド」を参照してください。



ヒント

Error Recovery Guide は、Setup DVD-ROM に収録されています。Error Recovery Guide をインストールするには、fi-5530C2 スタートアップガイドの「2.3 ソフトウェアをインストールします」を参照してください。

■ 装置異常：

以下の "E" と英数字が交互に表示されます。

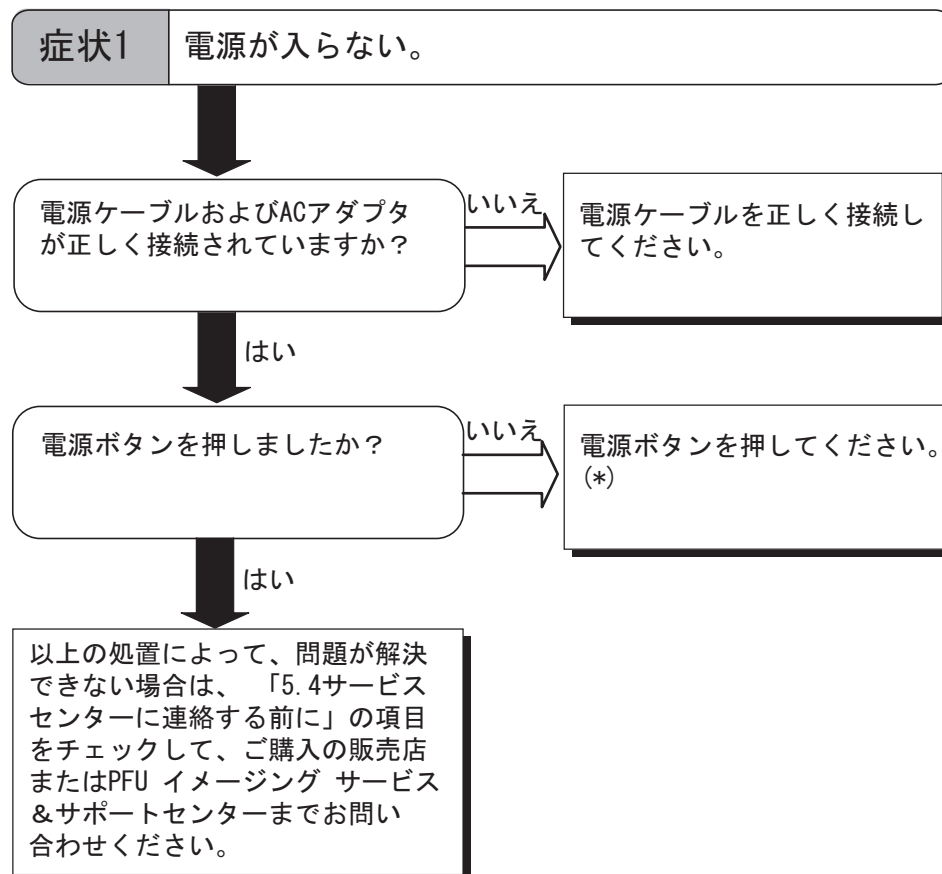
表示	項目	対処法
E2	光学系（表）に異常が発生しました。	装置異常が発生した場合は、スキヤナの電源を切ってから再び入れてください。 この方法を試しても症状が改善されないときはご購入の販売店または「株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンター」(RM-2 ページ) に問い合わせしてください。
E3	光学系（裏）に異常が発生しました。	
E4	モータヒューズが切断しました。	
E6	操作パネルに異常が発生しました。	
E7	装置内蔵メモリ（EEPROM）に異常が発生しました。	
E8	SCSI インターフェースヒューズが切断しました。	
E9	画像メモリにエラーが発生しました。	
Ec	メモリにエラーが発生しました。	
Ed	SCSI インターフェース部のコントローラにエラーが発生しました。	
EF	裏あて切り替え機構に異常が発生しました。	

5.3 困ったときには

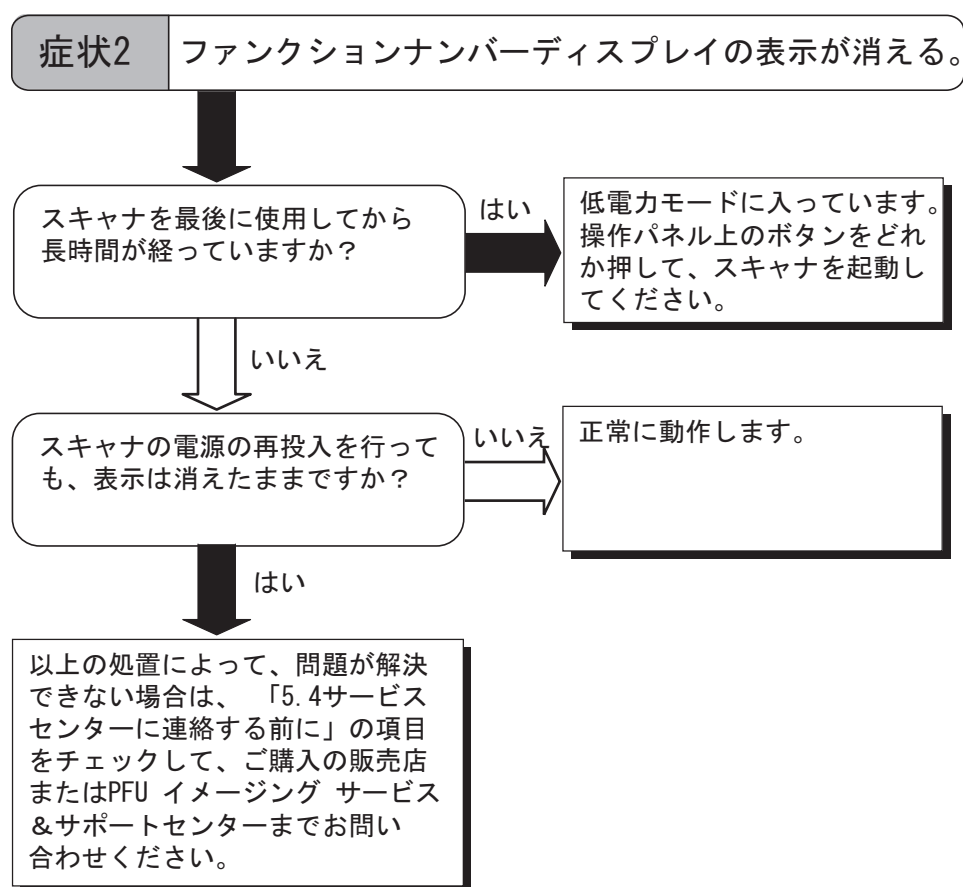
スキャナの使用中に発生するトラブルとその対処方法について説明します。

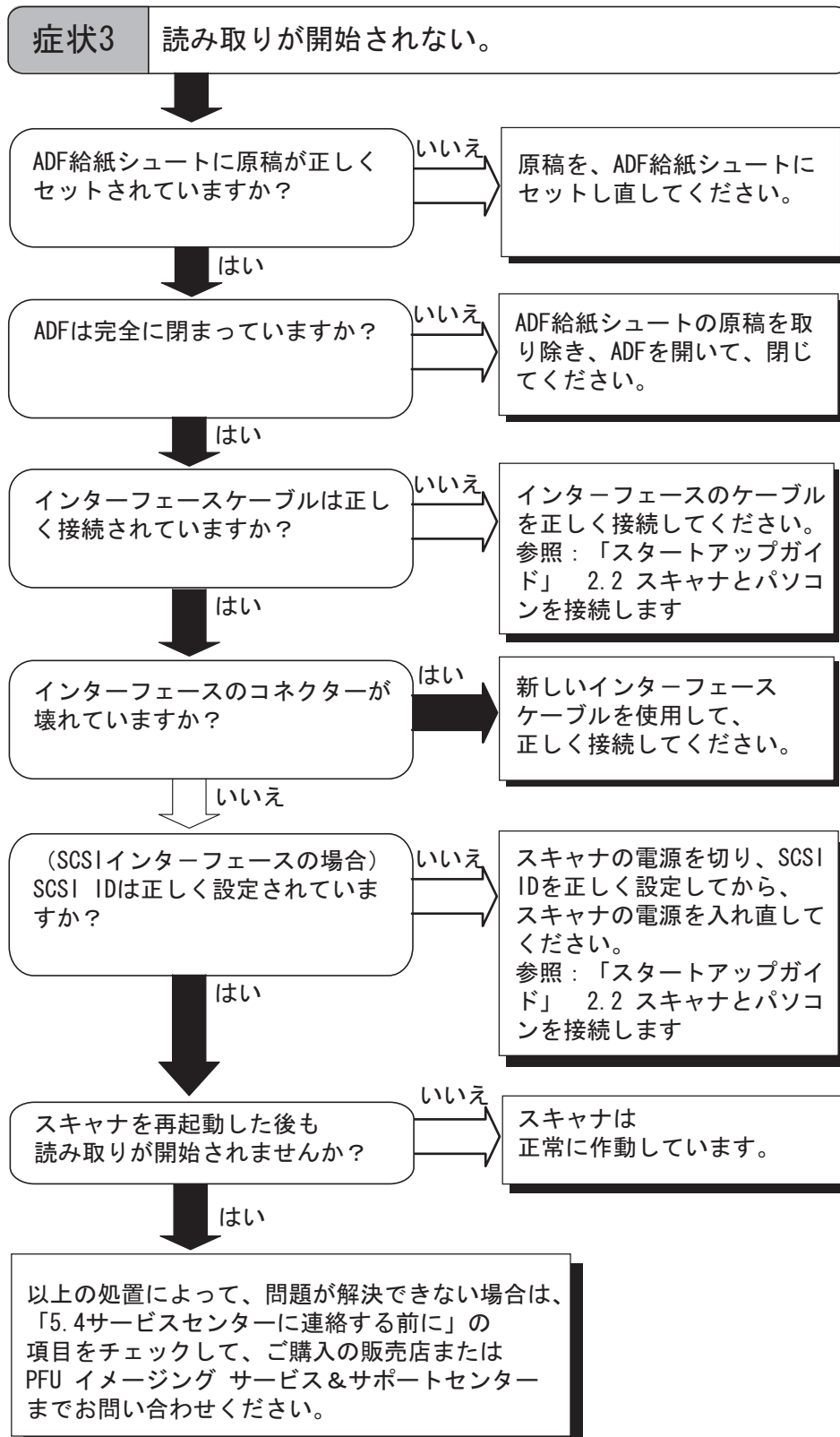
修理を依頼される前に、次の項目を点検してください。

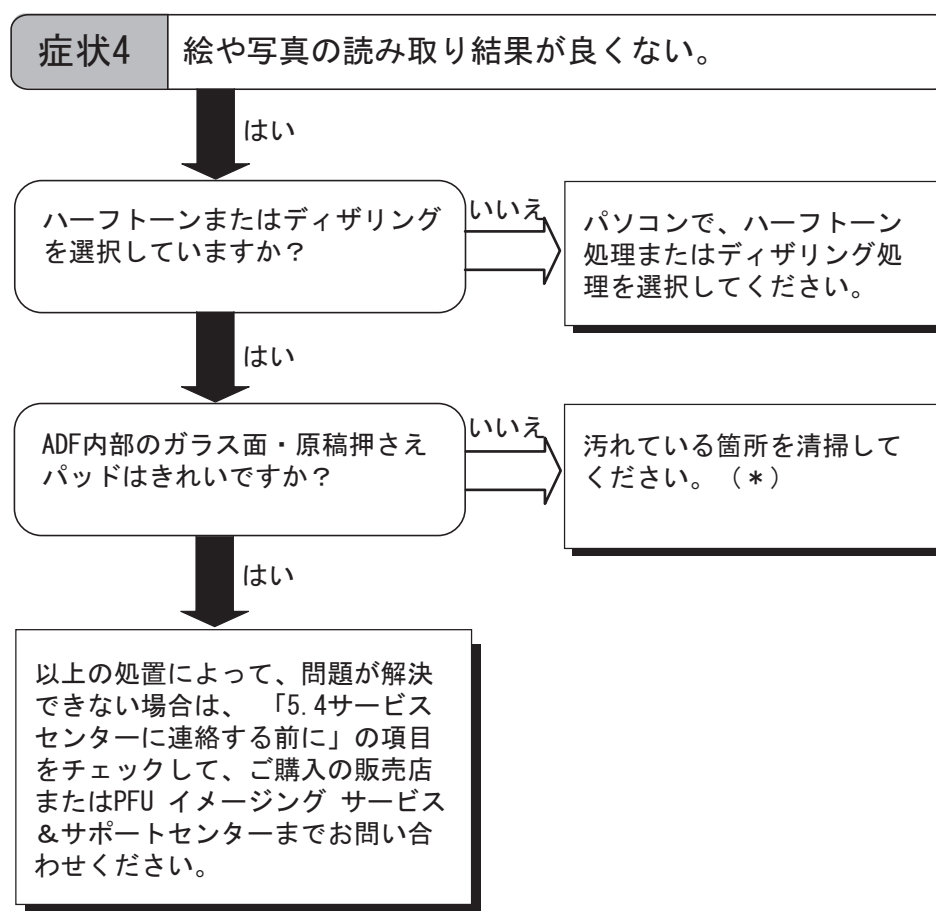
項目を点検しても直らない場合は、「5.4 サービスセンターに連絡する前に」(101 ページ)の各項目を確認して、ご購入の販社/販売店、または「株式会社 PFU イメージング サービス & サポートセンター」(RM-2 ページ)にお問い合わせください。



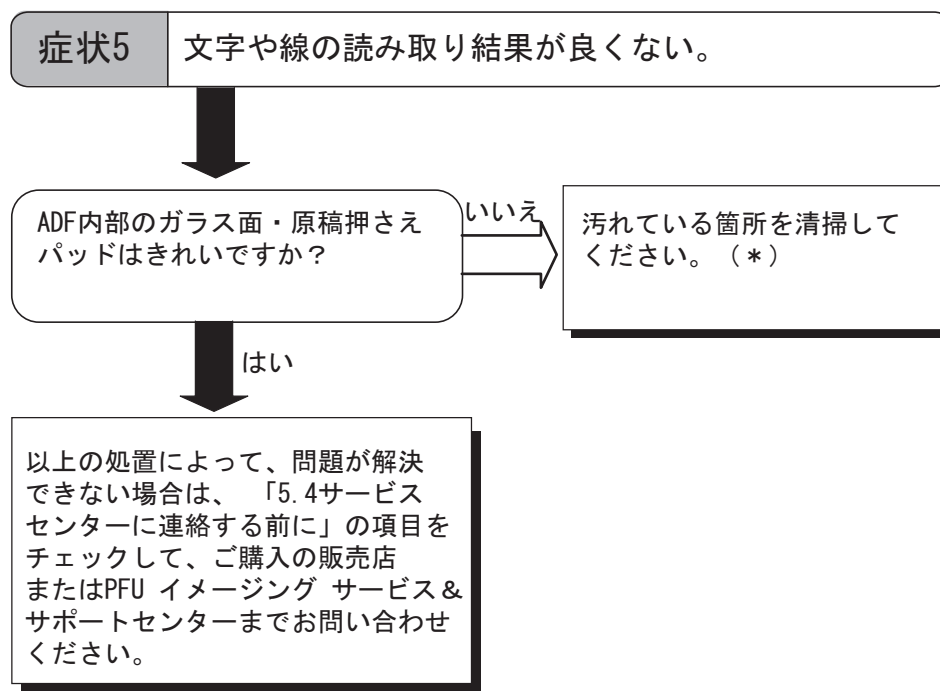
*) 電源挿入の詳細については「1.1 電源を投入します」(2 ページ)を参照してください。



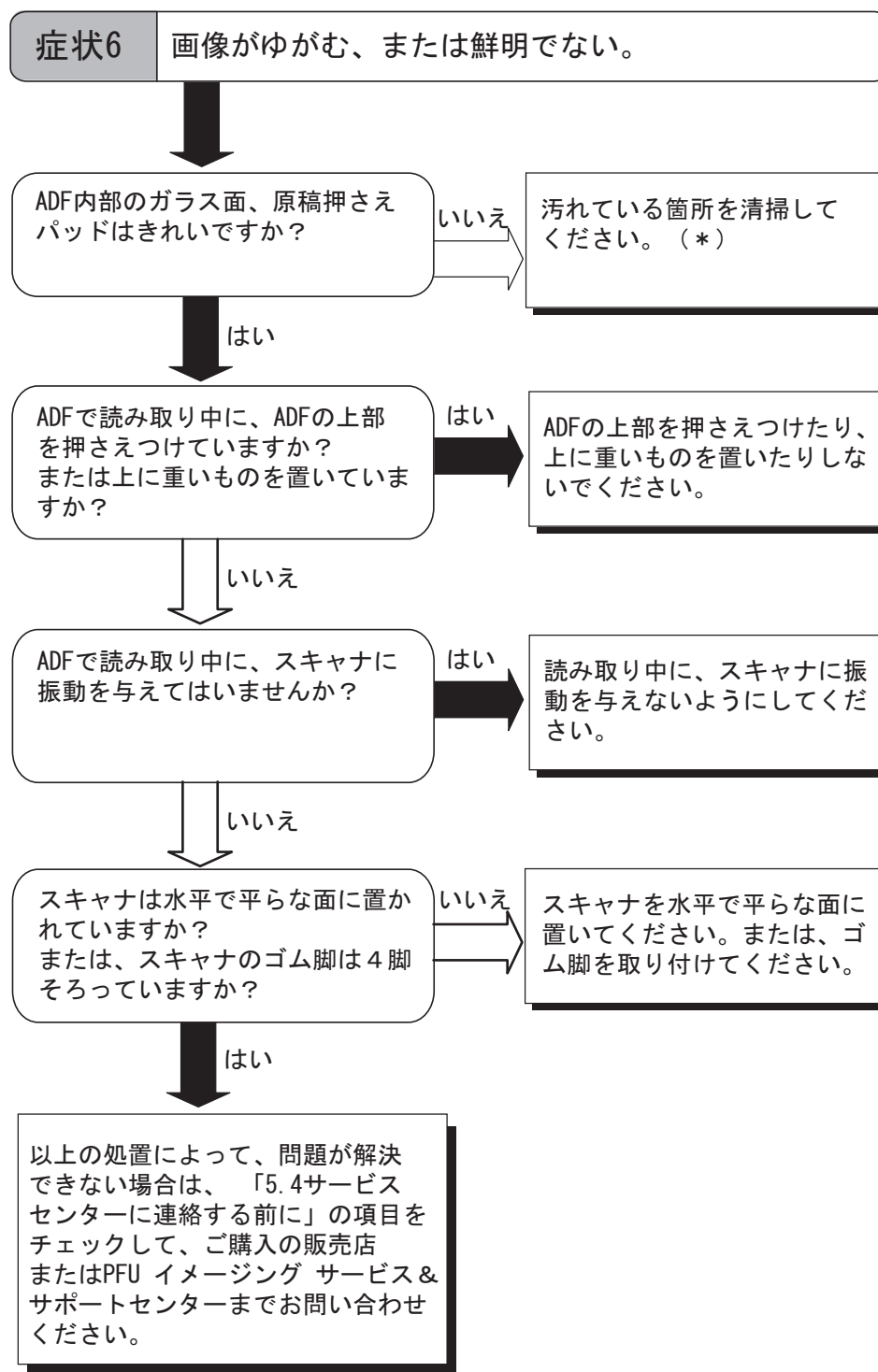




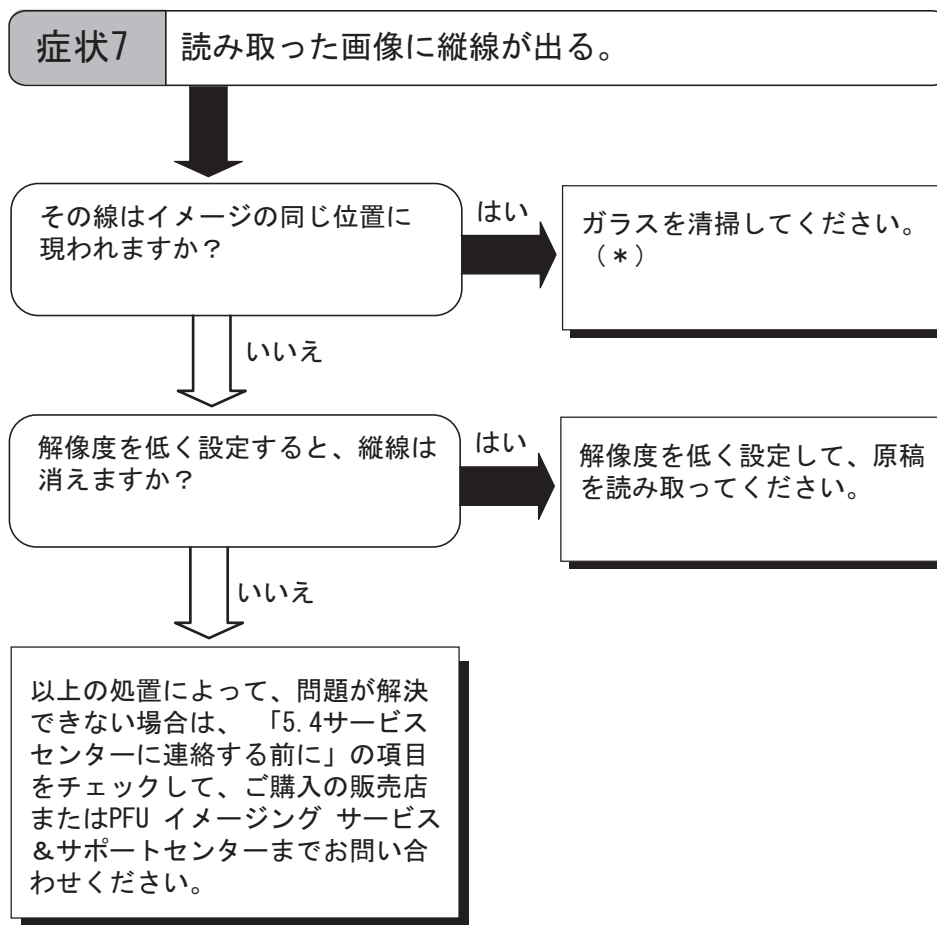
*) 汚れている箇所の清掃方法については、「第3章 日常のお手入れ」(61 ページ) を参照してください。



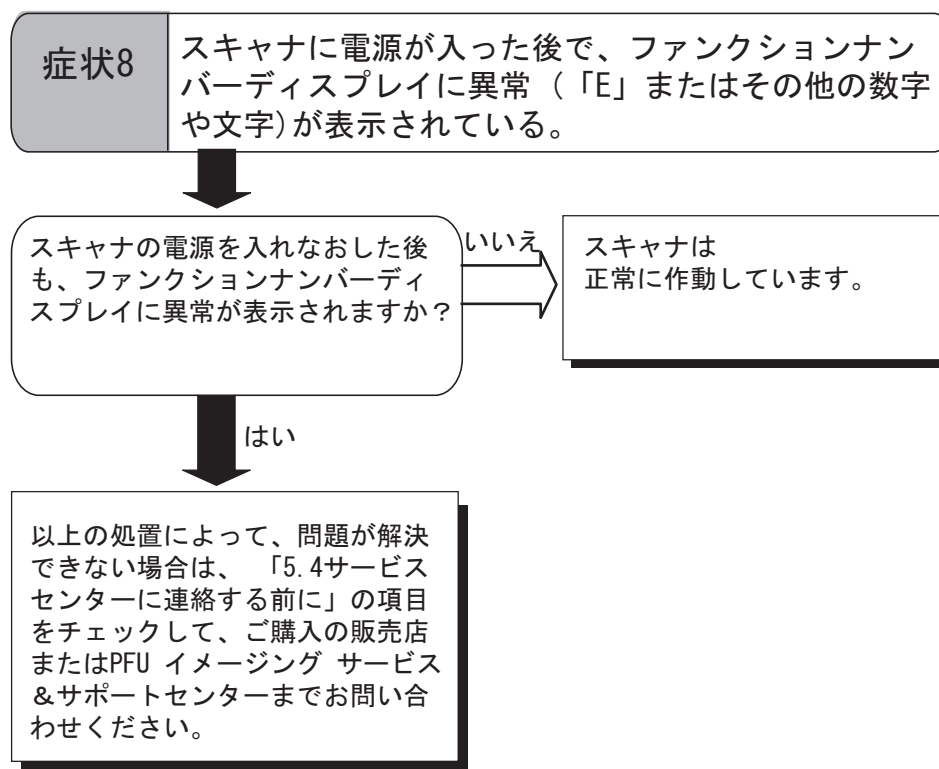
*) 汚れている箇所の清掃方法については、「第3章 日常のお手入れ」(61 ページ) を参照してください。

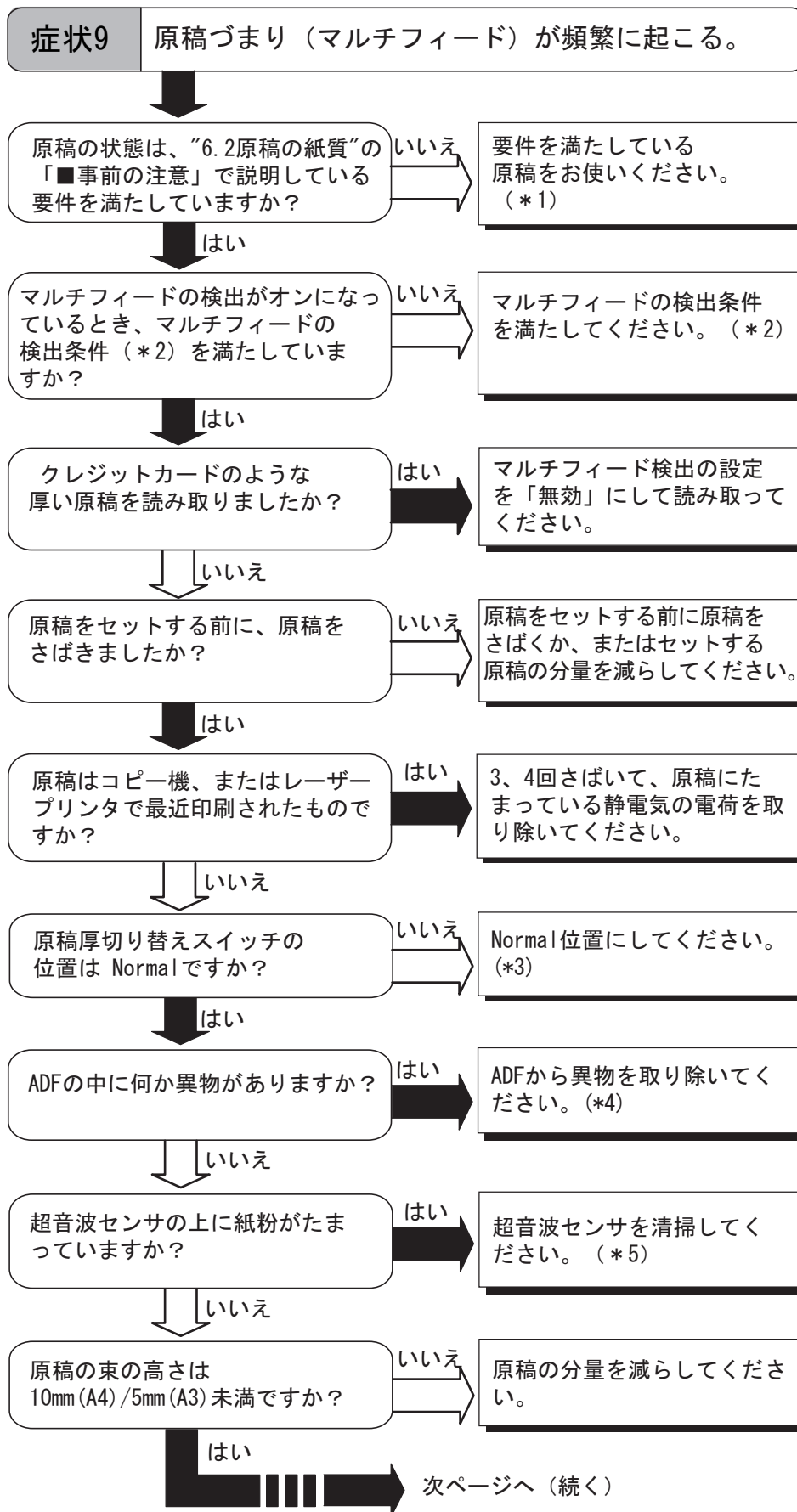


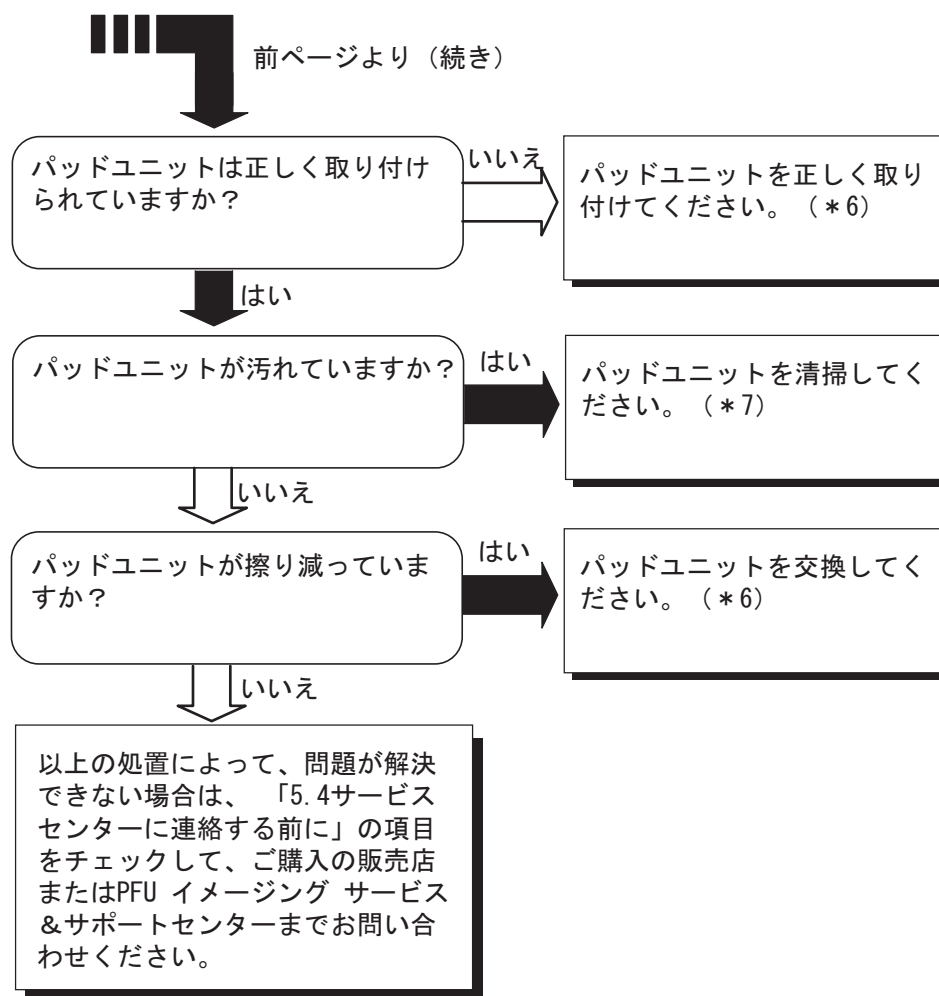
*) 汚れている箇所の清掃方法については、「第3章 日常のお手入れ」(61ページ)を参照してください。



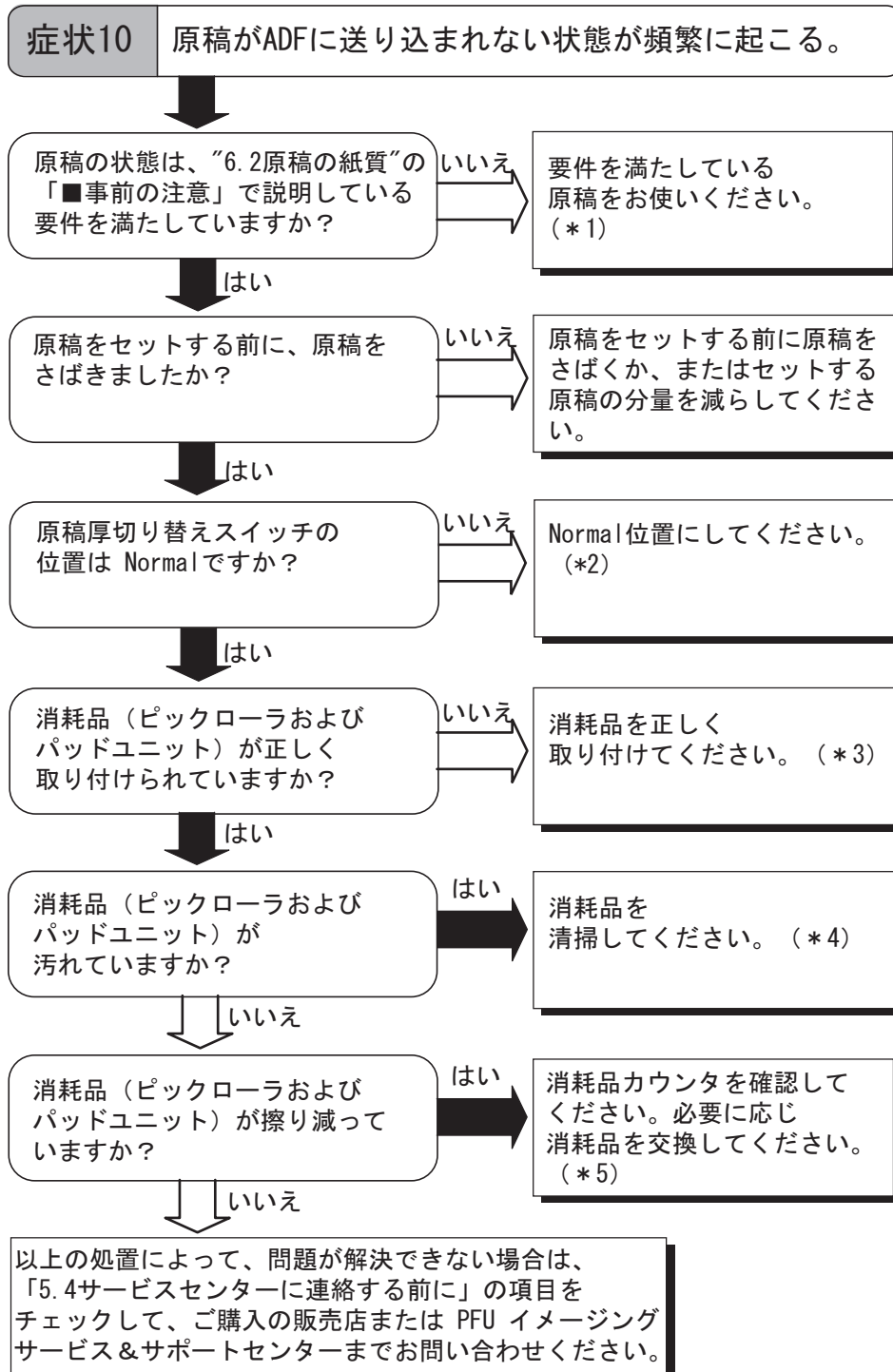
*) ガラスの清掃方法については、「3.2 ADF を清掃します」(64 ページ) を参照してください。



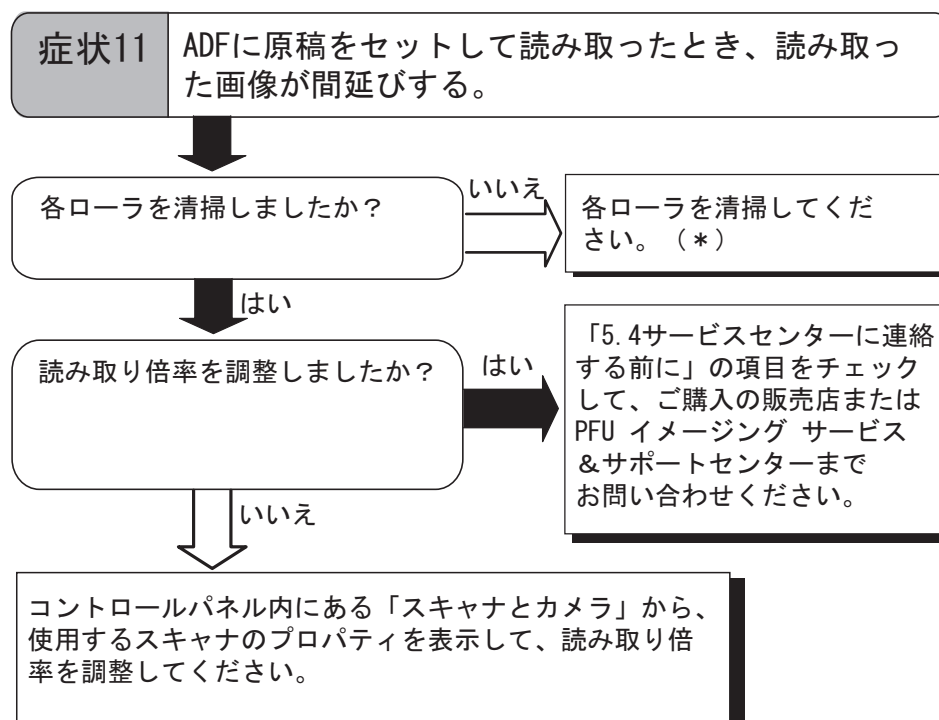




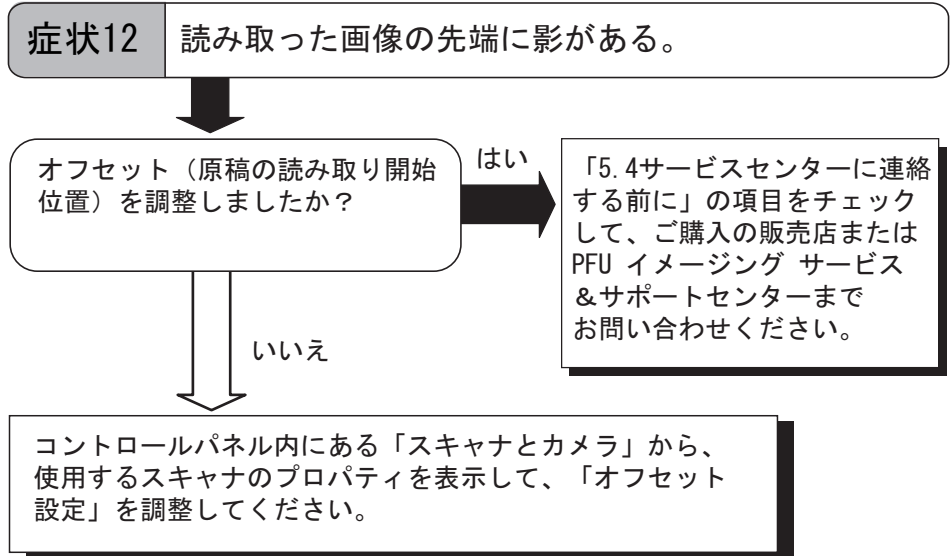
- * 1) 要件については、「6.2 原稿の紙質」(107 ページ) を参照してください。
- * 2) マルチフィードの検出条件については、「6.5 マルチフィードを正しく検出するための条件」(112 ページ) を参照してください。
- * 3) 原稿の切り替えスイッチの詳細については、「2.3 薄い原稿を読み取りたいとき」(35 ページ)
- * 4) ADF 内部の清掃方法については、「3.2 ADF を清掃します」(64 ページ) を参照してください。
- * 5) 超音波センサーの清掃方法については、「3.2 ADF を清掃します」(64 ページ) を参照してください。
- * 6) パッドユニットの交換方法、および取り付け方法については、「4.2 パッドユニットを交換します」(73 ページ) を参照してください。
- * 7) パッドユニットの清掃方法については、「3.2 ADF を清掃します」(64 ページ) を参照してください。



- * 1) 要件については、「6.2 原稿の紙質」(107 ページ) を参照してください。
- * 2) 原稿の切り替えスイッチの詳細については、「2.3 薄い原稿を読み取りたいとき」(35 ページ)
- * 3) パッドユニットの取り付け方法については、「4.2 パッドユニットを交換します」(73 ページ) を参照してください。
- * 4) ピックローラの清掃方法については、「3.2 ADF を清掃します」(64 ページ) を参照してください。
- * 5) ピックローラの交換方法については、「4.3 ピックローラを交換します」(76 ページ) を参照してください。



*) 各ローラの清掃方法については、「[3.2 ADF を清掃します](#)」(64 ページ) を参照してください。



5.4 サービスセンターに連絡する前に

当社のサービスセンター「株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンター」(RM-2 ページ) に連絡する前に、以下の項目をお調べ願います。

■ 概要

調べる項目	調査結果
装置名 (モデル)	fi-5530C2
製造番号 (シリアルナンバー)	(例) 000001 製造番号については、「5.5 装置ラベルの確認」(103 ページ) を参照してください。
製造年月	(例) 2007-07 (2007 年 7 月) 製造年月日については、「5.5 装置ラベルの確認」(103 ページ) を参照してください。
購入年月日	
症状	
故障頻度	
保証書の有無	

■ エラーの状況

○ パソコン接続時の問題

調べる項目	調査結果
OS (Windows®) の種類	
画面のエラーメッセージ	
インターフェースの種類	(例) SCSI インターフェース
インターフェースコントローラの種類	(例) Adaptec 社製 SCSI Card 2940AU

○ 搬送系の問題

調べる項目	調査結果
原稿の種類	
主な使用目的	
最新の清掃年月日	
消耗品の交換年月日	
操作パネルの状況	

○ 画像系の問題

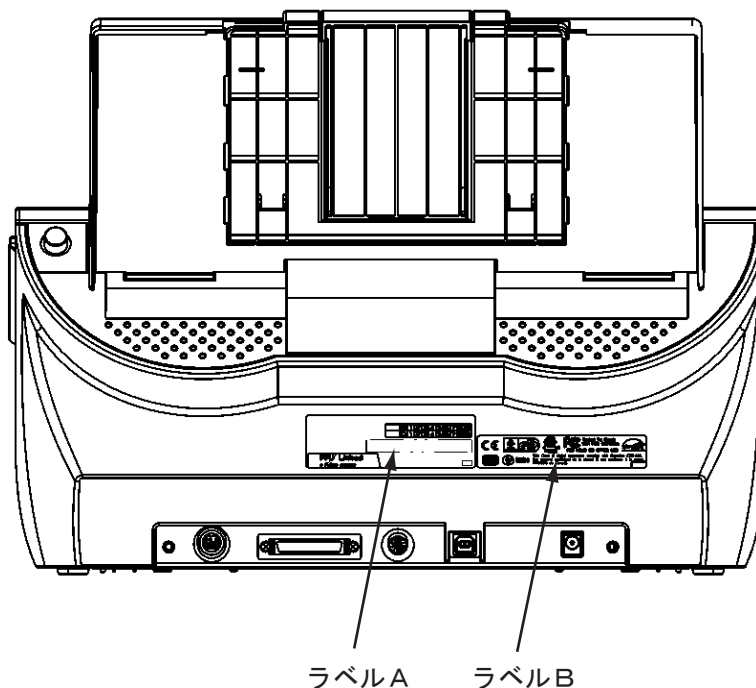
調べる項目	調査結果
スキャナドライバの種類と版数	
インターフェースコントローラの種類	(例) Adaptec 社製 SCSI Card 2940AU
OS (Windows®) の種類	
アプリケーションソフトウェアの種類	(例) ScandAll PRO

○ その他

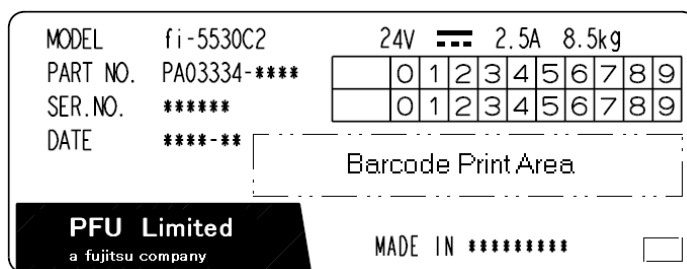
調べる項目	調査結果
原稿と出力紙の両方を、Eメール、または Fax で送ることは可能ですか？	

5.5 装置ラベルの確認

■ ラベルの位置



ラベル A (例) : 装置の情報を示しています。



ラベル B (例) : 装置が適合する規格について示しています。



第6章

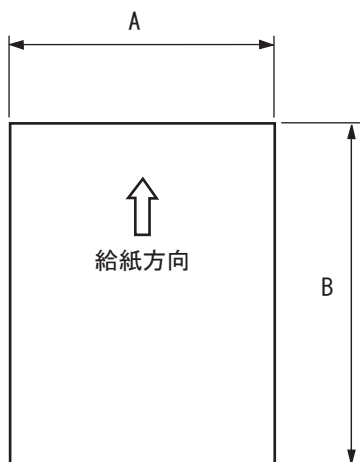
ADF にセットする原稿について

この章では、ADF が正しく動作するために必要な原稿のサイズと原稿の紙質について説明します。

6.1 原稿のサイズ.....	106
6.2 原稿の紙質.....	107
6.3 セットできる原稿の枚数.....	110
6.4 穴をあけてはいけない領域.....	111
6.5 マルチフィードを正しく検出するための条件.....	112

6.1 原稿のサイズ

以下に、読み取り可能な原稿のサイズを示します。



最大		最小	
A	B	A	B
297	863.6	53	74

(単位：mm)

6.2 原稿の紙質

■ 原稿の種類

原稿として推奨される原稿の種類は以下のとおりです。

- 上質紙
- 中質紙

上記以外の種類の用紙を使用する時には、読み取り操作を実行する前に、読み取りできるかどうかを同質の用紙で確認してください。

■ 原稿の紙厚

紙厚は坪量と呼ばれる重さで表します。使用可能な坪量は以下のとおりです。

- 52 g/m² ~ 127 g/m²

A8 サイズは 127 g/m² のみ

■ 事前の注意

以下の原稿はうまく読み取れない場合があります。

- 紙厚が一定していない原稿（封筒や切り貼りされた原稿など）
- しわがよっていたり、カールしている原稿（108 ページのヒントを参照）
- 折れたり、裂けたりしている原稿
- 写真やメモ用紙などが貼り付けられた原稿
- トレーシングペーパー
- コート紙
- カーボン紙
- ノーカーボン紙
- 感光紙、感熱紙、静電プロッタ用紙
- 端にミシン目や穴あけのある原稿
- 四角形でない原稿
- 非常に薄い原稿
- 写真

また、以下の原稿は使用しないでください。

- クリップまたはステープラーの針が付いた原稿
- インクが乾いていない原稿
- A8(縦置き) サイズよりも小さい原稿
- A3 サイズや 11×17 サイズの幅より大きい原稿
- 紙以外のもの：布、金属箔、OHP フィルム
- 証書、金券など媒体が傷ついたり、汚れたりすることが不可である重要書類



- 半透明の原稿を読み取る時は、「明るさ」を明るめに設定してください。
- ローラが汚れないようにするために、鉛筆で塗りつぶした部分の多い原稿の読み取りは避けてください。やむをえず、このような原稿を読み取る場合は、頻繁に清掃してください。



ノーカーボン紙は、パッドユニットや原稿を送るローラ類（ピックローラなど）を損なうような化学物質を含んでいますので、以下のことに注意してください。

清掃：原稿づまりが頻繁に起きるときは、パッドユニットとピックローラを清掃してください。

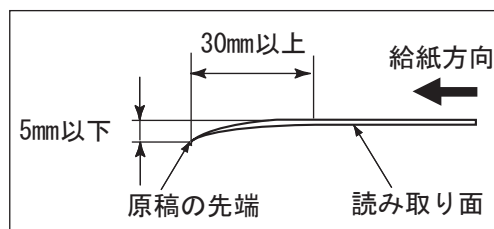
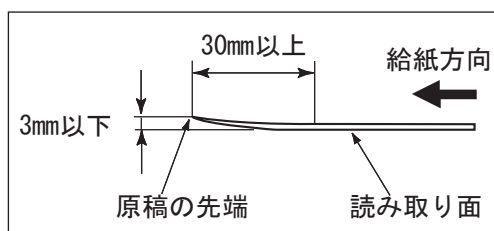
パッドユニットとピックローラの清掃方法については、「[3.2 ADF を清掃します](#)」（64 ページ）を参照してください。

部品の交換：パッドユニットとピックローラの寿命は中質紙の原稿を読み取る場合に比べて短くなる場合があります。

- 中質紙の原稿を読み取った場合、パッドユニットとピックローラの寿命は、上質紙の原稿を読み取った場合に比べて短くなる場合があります。
- 原稿に貼り付けられた写真やメモ用紙が、原稿を読み取る際にパッドやローラに接触すると、パッドやローラが傷つく可能性があります。
- 写真等の光沢紙を読み取った場合、表面に傷がつく場合があります。



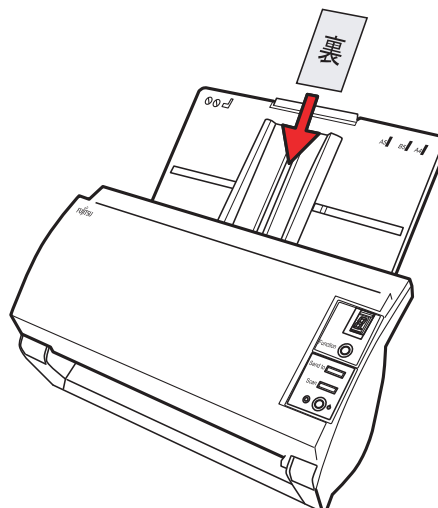
ADF を使う場合、すべての原稿は先端が平らでなければなりません。原稿先端のカールは以下の数値を満たすようにしてください。



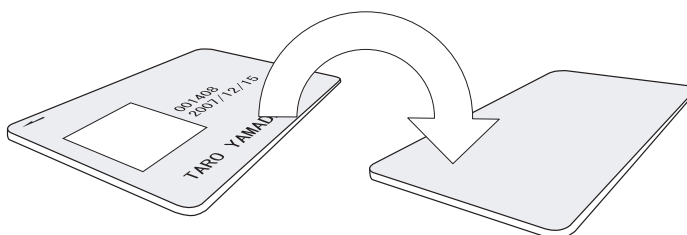


プラスチックカードを読み取る場合は、以下のことに注意してください。

- カードを ADF 給紙シュートに 1 枚ずつセットしてください。
- カードは、図のように縦向き（ポートレート方向）にセットしてください。



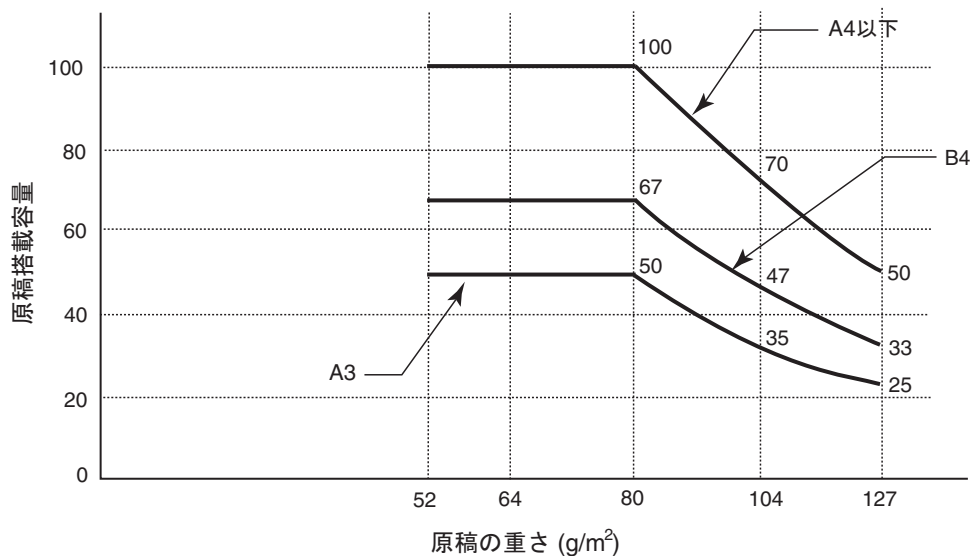
- カードの表面が ADF 給紙シュート側（下向き）になるようにセットすることを推奨します。



- 以下の仕様のカードを使用してください。
ISO7810 ID-1 タイプに準拠したカード
サイズ : 86(縦) x 54(横)mm
厚さ : 0.76 ± 0.08mm
素材 : ポリ塩化ビニル (PVC) またはポリ塩化酢酸ビニル (PVCA)
- カードにエンボス加工（凹凸）が施されているカードは読み取ることができません。
- 硬くて曲がりにくいカードは、うまく搬送されない場合があります。
- カード表面が油（手の脂）などで汚れている場合は、汚れを拭き取ってから読み取ってください。
- インプリンタを接続した場合は、プラスチックカードを読み取ることができません。

6.3 セットできる原稿の枚数

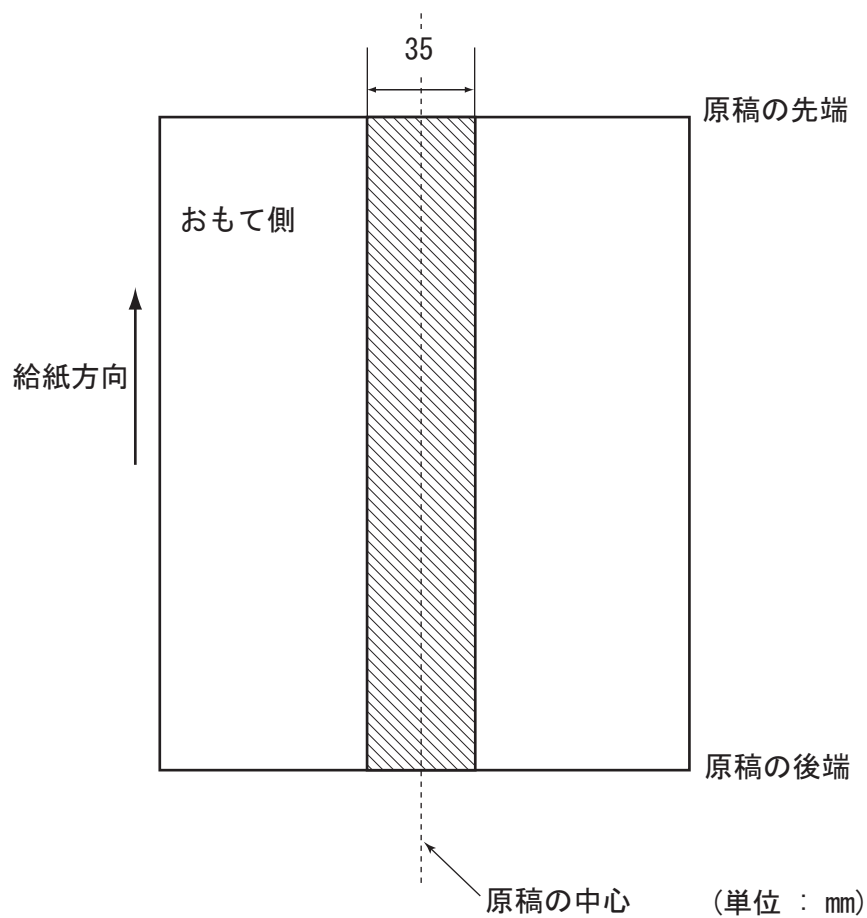
ADF 給紙シユートにセットできる原稿の枚数は原稿のサイズと重さで決まります。以下のような関係があります。



重さの単位	変換表						
g/m^2 (坪量)	52	64	75	80	90	104	127
lb	14	17	20	21	24	28	34
kg (連量)	45	55	64.5	69	77.5	90	110

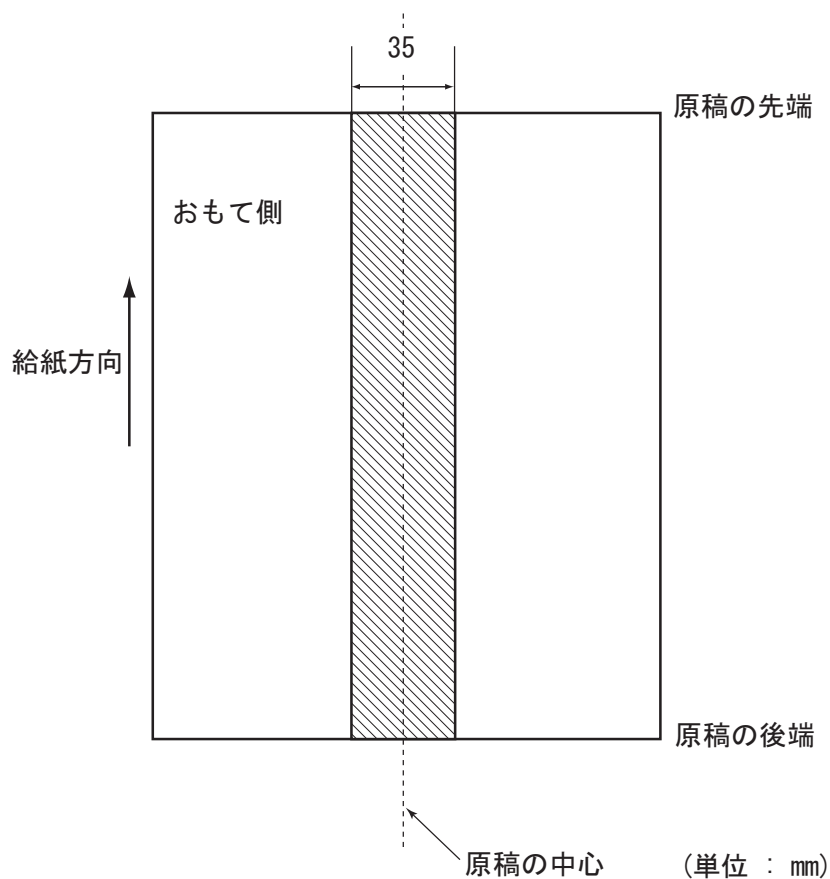
6.4 穴をあけてはいけない領域

以下の図の斜線の領域に穴があるとエラーの原因になることがあります。





- 原稿や原稿の条件によってはマルチフィード検出の精度が落ちる場合もあります。
- 通常のマルチフィード検出は原稿の下図に示す領域に対して行われます。



第7章

スキャナの仕様

この章では、スキャナの仕様について説明します。

7.1 装置基本仕様.....	116
7.2 設置諸元.....	119
7.3 外形寸法.....	120


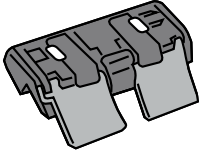

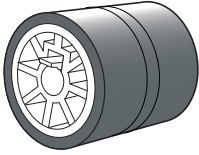
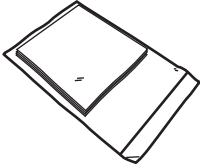
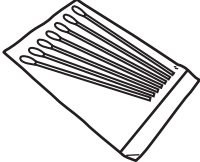


7.1 装置基本仕様

装置基本仕様				
1	スキャナタイプ		ADF (オートマチックドキュメントフィーダ)	—
2	イメージセンサー		カラー CCD x 2	オモテ / ウラ
3	光源		白色冷陰極蛍光管 x 2	オモテ / ウラ
4	読み取り範囲	最小	A8 縦 (53x74mm)	127 g/m ²
		最大	A3 (297x420mm) / 11x17in (279x432mm)	—
5	原稿の厚さ		52 g/m ² ~ 127 g/m ²	(*1)
6	読み取り速度 (A4 縦) (*2)	カラー グレースケール 2 値白黒	片面 35 枚 / 分 両面 70 面 / 分	200 dpi
	読み取り速度 (A4 横) (*2)	カラー グレースケール 2 値白黒	片面 50 枚 / 分 両面 100 面 / 分	200 dpi
7	原稿搭載容量		100 枚	A4, 80 g/m ² (*3)
			50 枚	A3, 80 g/m ² (*3)
8	光学解像度		600 dpi	—
9	出力解像度	カラー グレースケール 2 値白黒	50 ~ 600, 1200 dpi	1 dpi ごとに変倍可能 1200dpi は、ドライバ 処理により実現 (*4)
10	読み取り階調		各色 8 ビット	内部 10 ビット
11	出力モード (中間調)		ディザ / 誤差拡散	—
12	インタフェース (*5)		Ultra SCSI	シールド型 50 ピン (ピンタイプ) ハーフ ピッチ
			USB2.0 / USB1.1 (*6)	B タイプ
13	その他の機能		インプリンタ対応	—
			JPEG 圧縮	—
14	オプション		画像処理ソフトウェアオプション	(*7)
			fi-553PR または fi-553PRFR インプリンタ	(*8)
			ScanAid	(*9)


- *1) 詳細は「[第6章 ADF にセットする原稿について](#)」(105 ページ) を参照してください。
- *2) 読み取り速度は、ハードウェアの最大速度であり、実際の読み取り時間にはデータ転送時間などのソフトウェアの処理時間が付加されます。
カラー、グレースケールは、JPEG 圧縮時の読み取り速度です。
- *3) 最大枚数は原稿の厚さによって変わります。「[第6章 ADF にセットする原稿について](#)」(105 ページ) を参照してください。
- *4) 高解像度 (600dpi 以上) での読み取りを行う場合、読み取りモード、原稿サイズや、メモリー容量により読み取りに制限がある場合があります。
- *5) Ultra SCSI と USB2.0/1.1 のインタフェースは同時には使うことはできません。
- *6) USB 2.0 で接続する場合、USB ポートおよび、ハブが USB 2.0 に対応している必要があります。また、USB 1.1 で接続すると、読み取り速度が遅くなる場合があります。
- *7) FUJITSU イメージスキャナ fi シリーズ用のソフトウェア・オプションです。“TWAIN ドライバ”および“ISIS ドライバ”と組み合わせて使用することによって、高度な二値化画像処理を行うことができます
- *8) 読み取った原稿にアルファベットや数字などの文字列を印刷することができます。fi-553PR の場合は原稿の裏面に、fi-553PRFR の場合は原稿の表面に、それぞれ画像読み取り後に文字を印刷します。fi-553PR と fi-553PRFR を同時に接続することはできません。
このインプリンタを使用することにより、読み取った原稿に名前や日付、連番を付けて管理することができます。
- *9) スキャナに必要な消耗品・清掃用品 (ローラー、クリーナーなど) をまとめたオプションです。
ScanAid を購入することで、必要な消耗品・清掃用品が一度にそろいます。
ScanAid の梱包品については、「[ScanAid の梱包品](#)」(118 ページ) を参照してください。
スキャナのオプションのご購入については、[株式会社 PFU PFU ダイレクト \(RM-3 ページ\)](#) にお問い合わせください。
スキャナのオプションの詳細については、本製品を購入された販社 / 販売店または[株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンター \(RM-2 ページ\)](#) にお問い合わせください。

■ ScanAid の梱包品


清掃用品		消耗品	
品名	備考	品名	備考
クリーナ F1 (1本) 	容量 : 50ml	パッドユニット (2個) 	10万枚または1年ごとに交換
クリーニングペーパー (1パック) 	10枚入り / 1パック	ピックローラユニット (1個) 	20万枚または1年ごとに交換
クリーニングクロス (1パック) 	20枚入り / 1パック		
綿棒 (1パック) 	50本入り / 1パック		


7.2 設置諸元

項目		仕様		
外形寸法 (mm) (ADF 給紙シュートとスタッカ除く)		奥行	幅	高さ
		225	399	193
設置スペース (mm) (奥行 × 幅 × 高さ)		800 × 500 × 500		
質量 (kg)		8.5		
入力電源	電圧範囲	AC100 ~ 120 V ± 10 %、AC220 ~ 240 V ± 10 %		
	相	単相		
	周波数範囲	50/60 ± 3 Hz		
消費電力		57 W 以下		


 設置スペースの値は、A3 原稿を読み取る場合に必要な設置スペースの参考値です。

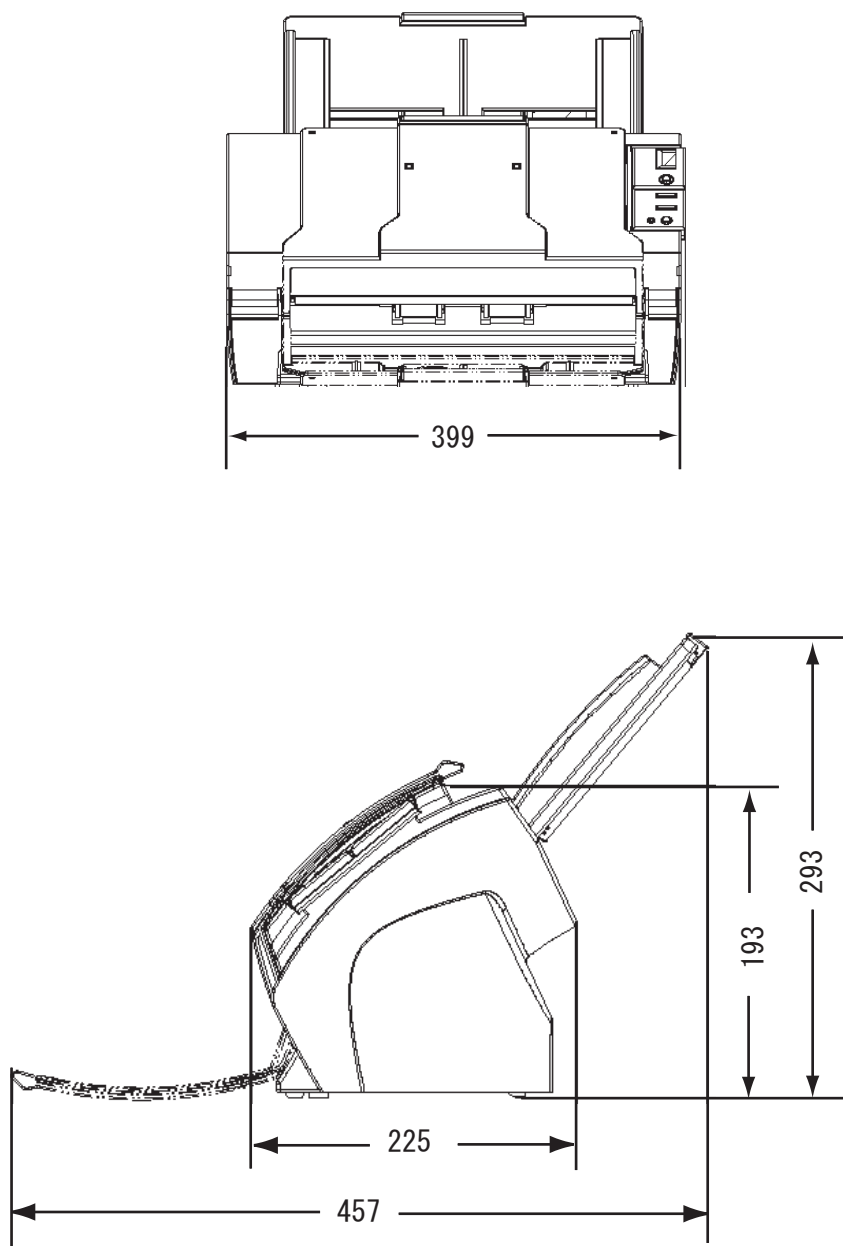
項目		仕様	
環境条件	装置状態	動作中	非使用時
	温度	5 ~ 35 °C	- 20 ~ 60 °C
	湿度	20 ~ 80 %	8 ~ 95 %
発熱量		49 kcal/H 以下	
出荷時重量 (kg)		12 kg	
サポート期間		5 年間	


 現在の使用した枚数（ページカウンタ値）については、「[4.1 消耗品の番号と交換周期](#)」（70 ページ）を参照してください。


 保守サポート期間は、お客様の購入後 5 年間です。
 本装置の修理部品の最低供給期間は製造中止後 5 年間です。

7.3 外形寸法

fi-5530C2 の外形寸法は以下のとおりです。



(単位 : mm)

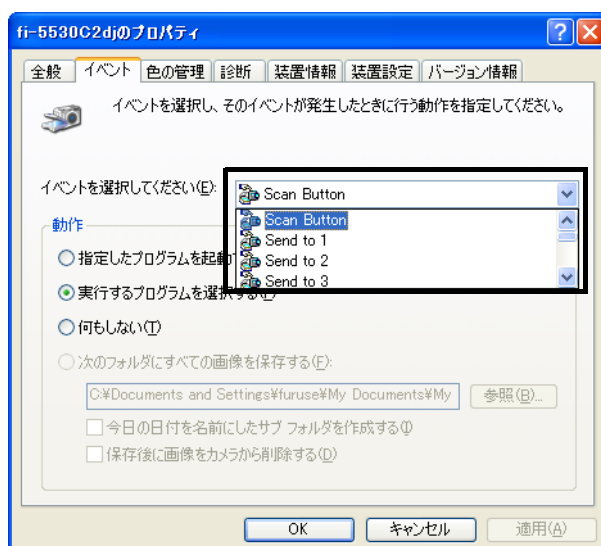
付録 A

[Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンを使う前に

あらかじめ [Scan] ボタンおよび [Send to] ボタンにアプリケーションの関連付けを設定しておくことで、ボタンを押すと設定したアプリケーションを実行することができます。
(ScandAll PRO を使用する場合については、「[2.14 スキャナ上のボタンから読み取りを開始したいとき](#)」(59 ページ) を参照してください。)

■ パソコン側の設定

1. [スタート] から [コントロールパネル] を選択します。
2. [スキャナとカメラ] を選択します。
3. 「fi-5530C2dj」のプロパティを表示します。
4. [イベント] タブを選択します。
5. イベントを選択します。
Windows XP の場合は、[イベントを選択してください] のメニューから、アプリケーションを起動するイベントを選択します。

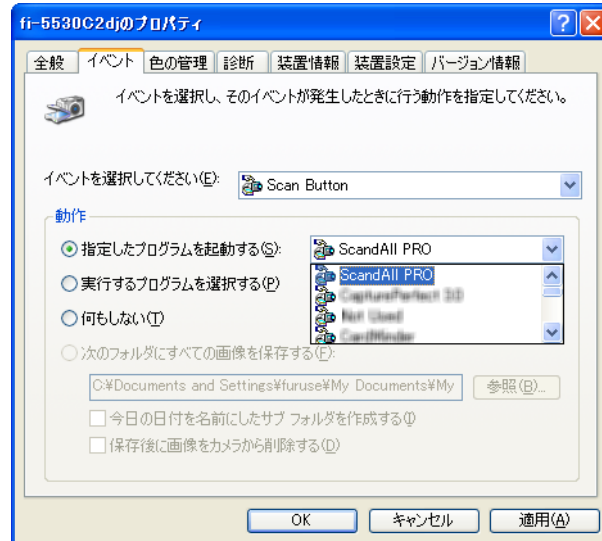


本機能では、以下のイベントを選択できます。

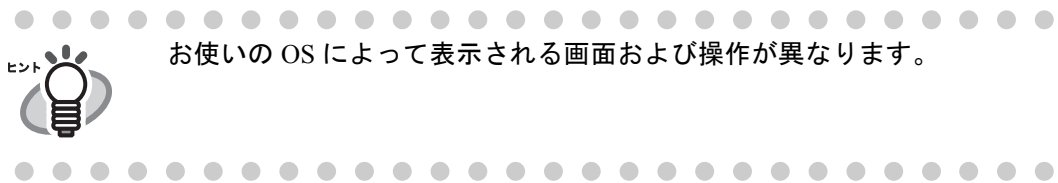
- Scan Button (Scan ボタンを押したとき)

- Send to 1~9 (ファンクションナンバーディスプレイに1~9の数字を表示させた状態で [Send to] ボタンを押したとき)

6. イベントで起動するアプリケーションと実行する処理を選択します。
Windows XP の場合は、[動作] の下の [指定したプログラムを起動する] を選択して、右のメニューからアプリケーションを選択します。



7. [OK] をクリックします。



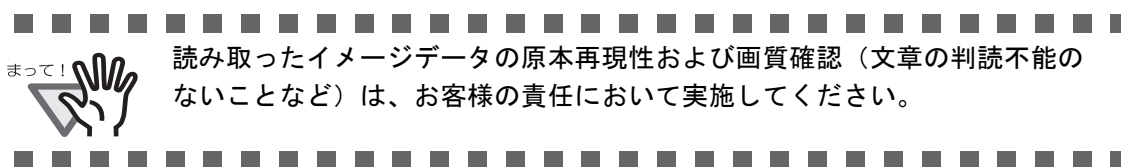
お使いの OS によって表示される画面および操作が異なります。



付録 B

e- 文書法に適合した電子文書の作成

これまでは、企業活動において発生する見積書、注文書、契約書などの帳票は、紙文書のまま保存しておく必要がありました。e- 文書法（※）施行により、これらの紙文書を本製品で読み取り、電子化して保存することができるので、紙による原本保存が不要になります。その結果、保存・管理・運用などのコストを大きく低減することができます。以下に、本製品を使用して e- 文書法に適合した電子文書を作成する方法をまとめます。



※ e- 文書法とは、民間事業者などに対してこれまで紙による原本保存が義務付けられていた公的文書や書類について、スキャナなどにより電子化した画像データを保存文書として容認するという法律です。正式名称は、「民間事業者等が行う書面保存等における情報通信の技術の利用に関する法律」および「民間事業者等が行う書面の保存等における情報通信の技術の利用に関する法律の施行に伴う関係法律の整備等に関する法律」です。各種文書の電子的保存の実施にあたっては各関連府省庁の定める一定の条件に基づいて紙文書を電子化し、管理する必要があります。

■ スキャナドライバの読み取り設定について

本製品で e- 文書に適合した電子文書を作成する場合、適用を受ける各府省令および原本のタイプに従い、以下の設定で読み取りを行うことを推奨いたします。

適用を受ける府省令またはガイドライン		経済産業省通達			財務省令（国税関係） 総務省令（地方税関係）			厚生労働省通達		
原本タイプ		カラー	白黒、中間濃度あり	白黒、文字/線画	カラー	白黒、中間濃度あり	白黒、文字/線画	カラー	白黒、中間濃度あり	白黒、文字/線画
推奨読み取り設定*1	画像タイプ	24bit カラー	多値（グレースケール）	2 値白黒	24bit カラー					
	ガンマ補正	ガンマパターン：カスタム カスタム指定：1.0		指定なし	ガンマパターン：カスタム カスタム指定：1.0					
	色補正	シャドウ：0 ハイライト：255		-	シャドウ：0 ハイライト：255					
	解像度	150dpi 以上 *2		200dpi 以上 *2	200dpi 以上 *2		300dpi 以上 *2			

画像の完全性	原稿の全領域が読み取られていること *3
圧縮	JPEG 圧縮が使用可能 *4

- *1 これら設定は、2005年5月現在の各府省令およびガイドラインを参照しています。実運用にあたってはお客様の責任に基づいて最新の府省令およびガイドラインをご確認ください。設定方法は「[1.4 スキャナドライバの使い方](#)」(13 ページ)を参照してください。読み取った後は、各府省令に準拠した画像であることを確認してください。
- *2 細かな文字が含まれる文章が判読できない場合は、解像度を上げて読み取ってください。
- *3 読み取る原稿の情報をすべて画像データに収めるためには、「自動用紙サイズ検出」機能がある装置については、設定の上、読み取ることを推奨します。「自動用紙サイズ検出」機能がない装置で読み取る場合や、割印などがある原稿の情報をすべて画像データに収める場合は、「用紙サイズ」の設定を、読み取る原稿のサイズよりもひとまわり大きなサイズで読み取ることを推奨します。読み取った後は、読み取り原稿の必要な情報が画像データに収まっていることを確認し、各府省令に準拠した画像であることを確認してください。
- *4 JPEG 圧縮機能を使用する場合は、「高品質」設定で読み取ることを推奨します。読み取り後に、出力されたデータが各府省令に準拠した画像である事を確認したうえで使用してください。

修理・お問い合わせについて

当社では、お客様に安心してイメージスキャナ fi シリーズをお使いいただけるよう、万全のサポート体制を整えています。
購入時にご加入頂く契約サービスと、必要な時にその都度ご利用いただけるスポットサービスにより、お客様を強力にバックアップいたします。

■ 契約サービス

契約サービスには、以下の2種類のサービスメニューがあります。

○ 定額訪問修理サービス

機器の故障発生には、直ちにサービスマンが伺い、迅速で確実な修理作業を行います。
メーカー直接保守による高度な技術と迅速な保守対応を行います。
全国サービスネットによる迅速な保守対応を行います。

○ 定額定期保守サービス

お客様に安心して機器を使用して頂くために、年一回サービスマンが点検作業に伺います。
機器の故障発生時は上記と同等なサービス対応を行います。
機器点検により品質の維持と障害を未然に防止します。

オプション装着時は、スキャナ本体価格と搭載オプション製品の合計金額となります。
消耗品はお客様の費用負担となります。

■ スポットサービス

スポットサービスには、以下の2種類のサービスがあります。

○ センドバック修理サービス

修理窓口まで機器を持ち込んで頂き修理を行います。

センドバック修理サービス	持込基本料 + 部品費 * 送料：発送元負担
引き取り修理サービス（付加）	指定日に修理機を引き取ります。
代替機サービス（付加）*1, *2	修理中に代替機を貸出します。 （引取り修理サービスと併用）

*1 代替機については、同一機種ではなく、同等機能をもつ機種になることがあります。

*2 代替機サービスは、引き取りサービスとの併用でのみご利用できます。代替機サービスのみのご利用はできません。ご了承下さい。

キャンセル料	持ち込み診断後、交換部品が高価なため修理をキャンセルする場合などにかかります。
--------	---

○ オンサイト修理サービス

機器の故障発生時にご連絡頂き、その後、サービスマンが直接修理に伺います。

オンサイト修理サービス	訪問基本料金（作業時間 = 1 時間まで）+ 部品費 + オプション料金 + 加算料金（技術料金、その他加算料金）
-------------	---

スポットサービスの場合の故障・修理、および各種お問い合わせ	
受付窓口	株式会社 PFU イメージング サービス&サポートセンター
E-mail	scanners@pfu.fujitsu.com
電話	050-3786-0811 ・上記の電話番号は、050 IP 電話サービスを利用しております。050 IP 電話については弊社のサポートホームページをご覧ください。 上記の電話番号がご利用いただけない場合は、NTT 東日本または NTT 西日本の一般加入電話からおかけいただくか、045-523-1995 にお問い合わせください。 ・電話番号をお間違えにならないようお願いいたします。 ・トーン信号が出ない電話機でおかけの場合は、そのまましばらくお待ちください。オペレーターが応答します。 お問い合わせの内容・発信者番号は、対応状況の確認と対応品質向上のため、録音・記録をさせていただいております。
受付時間	9:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・年末年始・当社休業日を除く)
ホームページ	http://imagescanner.fujitsu.com/jp/support/

なお、本サービス内容は、予告なく変更される場合があります。

詳細につきましては、当社ホームページでご確認いただくか、または PFU イメージング サービス&サポートセンターまでお問い合わせください。

上記窓口では、ABBYY FineReader for ScanSnap™ に関するお問い合わせにはお答えできません。ABBYY FineReader for ScanSnap™ に関するお問い合わせについては、次を参照してください。

ABBYY FineReader for ScanSnap™ ユーザーズガイド (*1) の「技術サポート」の「ABBYY 支店」

*1) 「スタート」メニュー → 「すべてのプログラム」 → 「ABBYY FineReader for ScanSnap(TM)」 → 「ユーザーズガイド」をクリックすると表示されます。

なお、ABBYY FineReader for ScanSnap™ のバージョンによってメニューが異なります。

■ 消耗品の購入先

パッドユニットなどの消耗品のご購入については、本装置を購入された販社 / 販売店、または株式会社 PFU PFU ダイレクトにお問い合わせください。

株式会社 PFU PFU ダイレクト

お問い合わせ先

E-mail : shop@pfu.fujitsu.com

電話 : 0120-14-4541

お問い合わせ内容の正確な把握ならびに当社における対応内容の管理のため、お問い合わせ内容を録音させていただく場合があります。

ホームページ : <http://www.pfu.fujitsu.com/direct/>

受付時間 : 9:00 ~ 12:00、13:00 ~ 17:00 (土・日・祝日・年末年始・当社休業日を除く)

- ・本製品の修理はお客様自身では行わないでください。
- ・本製品の保証条件については製品に同梱の当社の保証書の規定をご覧ください。保証書には所定事項をご記入の上大切に保管願います。
- ・本製品の修理部品の最低供給期間は製品の製造打ち切り後 5 年間です。



索引

I

ISIS ドライバ 16

T

TWAIN ドライバ 13

い

色指定の部分を取り除いて読み取り 38

う

薄い原稿の読み取り 35

か

外形寸法 119

重なるの検出 45

傾き補正 (原稿の) 49

カラー／モノクロ自動判別 53

ガラス 65, 67

け

原稿厚切り替えスイッチ 35

原稿づまり 84

原稿について 105

 厚さ 107

 穴をあけてはいけない領域 111

 紙質 107

 サイズ 106

原稿の厚さ 107

原稿の枚数 110

原稿の読み取り方法 11

原稿幅の違う原稿の読み取り 34

原稿をセット 7

こ

交換

 パッドユニット 73

 ピックアップローラ 76

さ

サイドガイド 10

し

シートガイド 65, 67

仕様

 インタフェース 116

 外形寸法 119

 原稿搭載容量 116

 原稿の厚さ 116

 サポート期間 119

 スキャナ 115

 セットできる原稿枚数 110

 読み取り速度 116

 読み取り範囲 116

 質量 119

上下分割 55

省電力モード 5

消耗品の番号と交換周期 70

す

スキャナ	115
スキャナドライバの設定	
ISIS ドライバ	16
TWAIN ドライバ	13
スキャナドライバの使い方	13

せ

清掃箇所	62
ガラス	65, 67
シートガイド	65, 67
超音波センサ	65, 68
排出ローラ	65, 67
パッドユニット	66
ピックローラ	66
フィードローラ	65, 67
プラスチックローラ	65, 67
清掃頻度	62
清掃用品	62
クリーナ F1	62
説明	
スキャナ	115

ち

超音波センサ	65, 68
長尺帳票	36

て

電源投入	2
電源ボタン	2

と

トラブルシューティング	88
ドロップアウトカラー	38

な

長い原稿 (A3 以上)	36
--------------	----

は

排出ローラ	67
白紙ページをスキップ	40
パッドユニット	65, 66
パンチ穴除去	57

ひ

ピックローラ	66
--------	----

ふ

ファンクションナンバーディスプレイの エラー表示	86
フィードローラ	65, 67
プラスチックローラ	65, 67

ま

マルチイメージ出力	51
マルチフィード検出	44
マルチフィードの検出条件	112

り

リセット	
パッドユニットカウンタ	75
ピックカウンタ	82
両面読み取り	33

fi-5530C2 イメージスキャナ オペレータガイド

P3PC-1922-07Z0

発行日：2014 年 12 月

発行責任：株式会社 PFU

-
- 本書の内容は、改善のため予告なく変更することがあります。
 - 本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社は一切その責任を負いません。
 - 無断転載を禁じます。